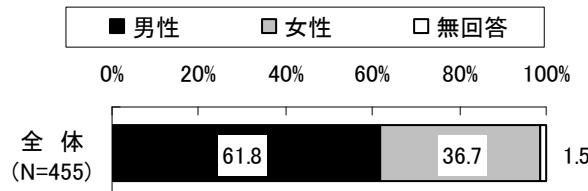

第6章

障がい児調査

第6章 障がい児調査

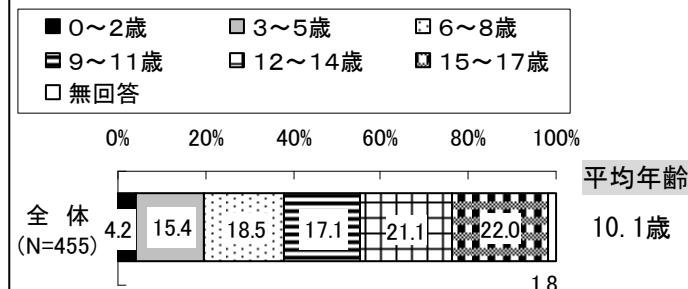
1. 基本属性

【図表6-1 性別】



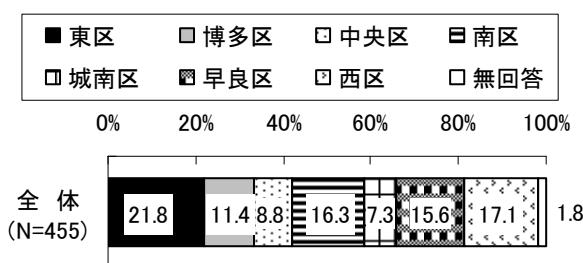
男性 (61.8%) が女性 (36.7%) より多い。

【図表6-2 年齢】



対象者の年齢は、「15~17歳」(22.0%) と「12~14歳」(21.1%) がそれぞれ2割以上と多く、以下、概ね年齢が低いほど少なくなっている。

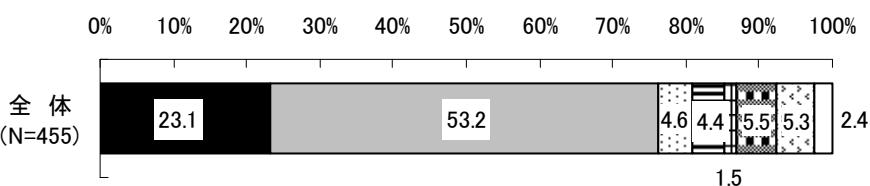
【図表6-3 居住地区】



居住地区としては、「東区」(21.8%) が最も多く、次いで「西区」(17.1%) となっている。

【図表6-4 主な障がいの状態】

- 身体の機能に障がいがある、運動の機能におくれがある
- ことば、知的な障がいがある
- 興味、遊び、人間関係等が同じ年頃の子どもと比べて変わっている
- 落ち着きがない、多動である
- 他の子どもと交わらない
- 読み書きや計算等が極端に苦手である
- その他
- 無回答



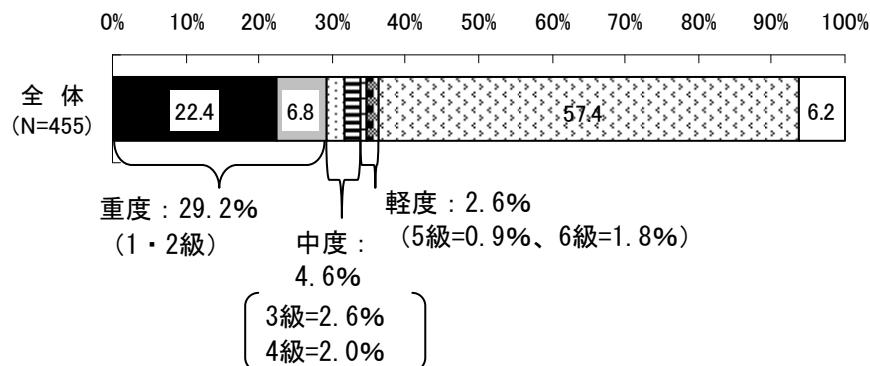
「ことば、知的な障がいがある」(53.2%) が最も多く、次いで「身体の機能に障がいがある、運動の機能におくれがある」(23.1%) となっている。

2. 障がいの状況について

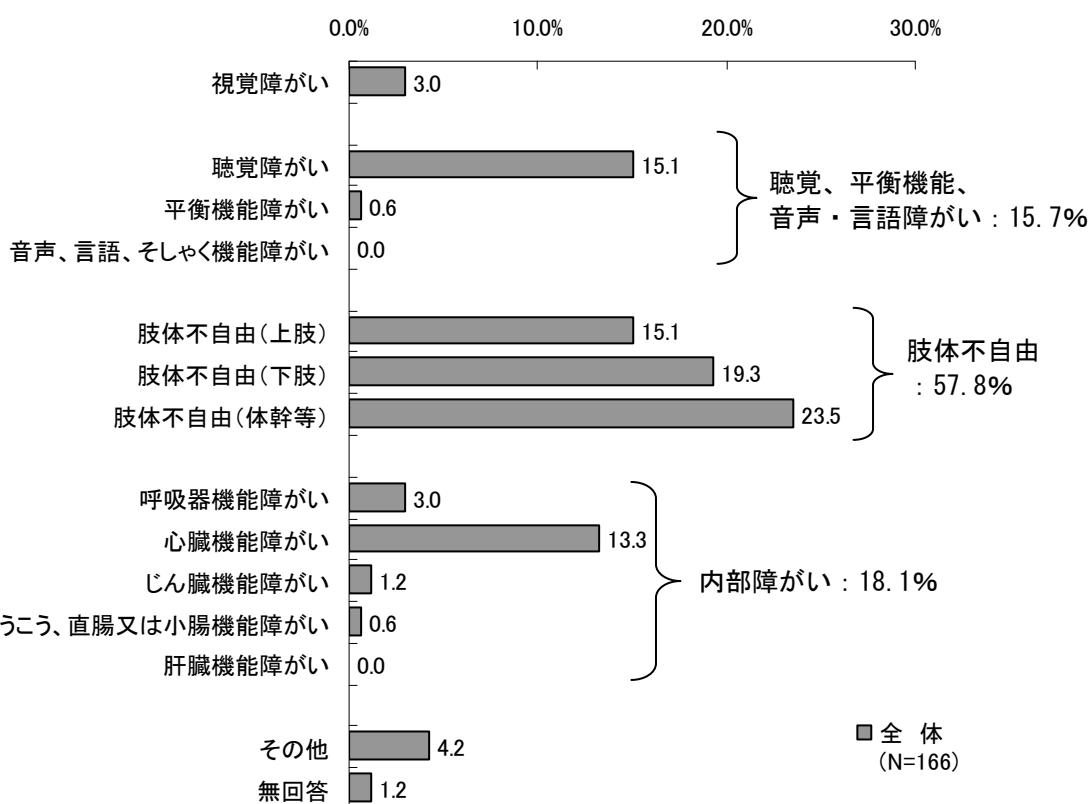
(1) 身体障がいの状況（身体障害者手帳の等級、身体障がいの部位）

【図表6-5 身体障害者手帳の等級】

■ 1級 □ 2級 □ 3級 □ 4級 □ 5級 □ 6級 □ 身体障害者手帳は持っていない □ 無回答



【図表6-6 主な身体障がいの部位】



身体障害者手帳については、6割弱 (57.4%) は手帳を持っていないが、1・2級の重度者も3割 (29.2%) を占めている。

年齢別にみると、0～2歳は他に比べて1・2級の重度者の割合が高く、63.2%と6割を超えている。

身体障害者手帳所持者（166人）の主な身体障がいの部位（大分類）は、「肢体不自由」（57.8%）が6割弱を占めて最も多い。

【図表6-7 年齢別 身体障害者手帳の等級】(%)

調査数 (人)	身体障害者手帳の等級							調査数 (人)	身体障害者手帳の等級 (集約)							
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	持つ身体障害者手帳は		重度 (1・2級)	中度 (3・4級)	軽度 (5・6級)	持つ身体障害者手帳は	無回答			
全 体	455	22.4	6.8	2.6	2.0	0.9	1.8	57.4	6.2	455	29.2	4.6	2.6	57.4	6.2	
年齢	0~2歳	19	52.6	10.5	—	—	—	5.3	31.6	—	19	63.2	—	5.3	31.6	—
	3~5歳	70	32.9	7.1	2.9	1.4	1.4	2.9	47.1	4.3	70	40.0	4.3	4.3	47.1	4.3
	6~8歳	84	17.9	4.8	4.8	2.4	—	2.4	63.1	4.8	84	22.6	7.1	2.4	63.1	4.8
	9~11歳	78	25.6	7.7	—	1.3	—	2.6	61.5	1.3	78	33.3	1.3	2.6	61.5	1.3
	12~14歳	96	15.6	9.4	4.2	3.1	2.1	1.0	59.4	5.2	96	25.0	7.3	3.1	59.4	5.2
	15~17歳	100	18.0	5.0	2.0	2.0	1.0	—	64.0	8.0	100	23.0	4.0	1.0	64.0	8.0
	無回答	8	12.5	—	—	—	—	—	—	87.5	8	12.5	—	—	—	87.5

身体障害者手帳所持者（166人）について、重複する身体障がいの有無をみると、「主な障がい以外はない」（32.5%）が最も多い。肢体不自由において「上肢」「下肢」「体幹等」の部位別の肢体不自由を重複している人の割合が高くなっている。

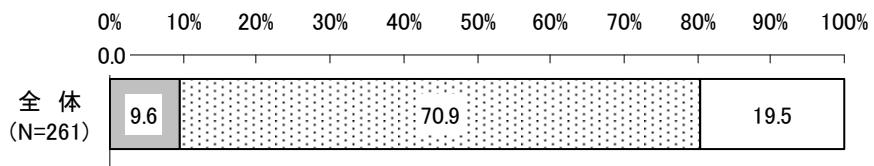
【図表6-8 主な身体障がいと重複する身体障がいの関係】(%)

調査数 (人)	重複する身体障がいの部位													無回答			
	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	し音や声く、機言語障がそい	肢體不自由(上)	肢體不自由(下)	肢體不自由(体幹)	呼吸器機能障がい	心臓機能障がい	じん臓機能障がい	はぼうこう、直腸がい又	肝臓機能障がい	その他	主な障がい以外は			
全 体	166	4.2	6.6	3.0	14.5	34.3	33.7	12.0	4.8	2.4	0.6	3.6	—	9.6	32.5	0.6	
主な身体障がいの部位	視覚障がい	5	—	20.0	—	—	—	20.0	—	20.0	20.0	20.0	—	—	60.0	—	
	聴覚障がい	25	—	—	—	8.0	—	—	—	—	—	—	—	—	24.0	68.0	—
	平衡機能障がい	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
	音声、言語、そしゃく機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	肢体不自由(上肢)	25	8.0	4.0	8.0	12.0	—	72.0	20.0	4.0	4.0	—	—	4.0	16.0	—	
	肢体不自由(下肢)	32	3.1	3.1	6.3	9.4	62.5	—	31.3	—	3.1	—	12.5	—	9.4	15.6	—
	肢体不自由(体幹等)	39	7.7	15.4	—	25.6	71.8	71.8	—	7.7	2.6	—	—	7.7	12.8	—	
	呼吸器機能障がい	5	—	20.0	—	20.0	60.0	60.0	20.0	—	—	—	20.0	—	—	—	
	心臓機能障がい	22	—	4.5	—	9.1	9.1	9.1	—	9.1	—	—	—	—	13.6	68.2	—
	じん臓機能障がい	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	
	ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	
	肝臓機能障がい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	その他	7	14.3	—	14.3	42.9	42.9	42.9	42.9	28.6	—	—	—	—	28.6	—	
	無回答	2	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	

(2) 身体障害者手帳を持っていない理由

【図表6-9 身体障害者手帳を持っていない理由】

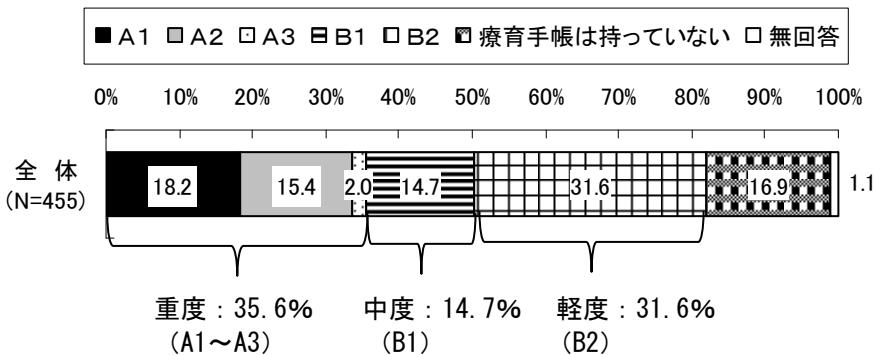
- 現在、身体障害者手帳の取得を申請中である
- 身体障害者手帳の取得を希望したが、該当しなかった
- 身体障害者手帳の取得を希望していない
- 無回答



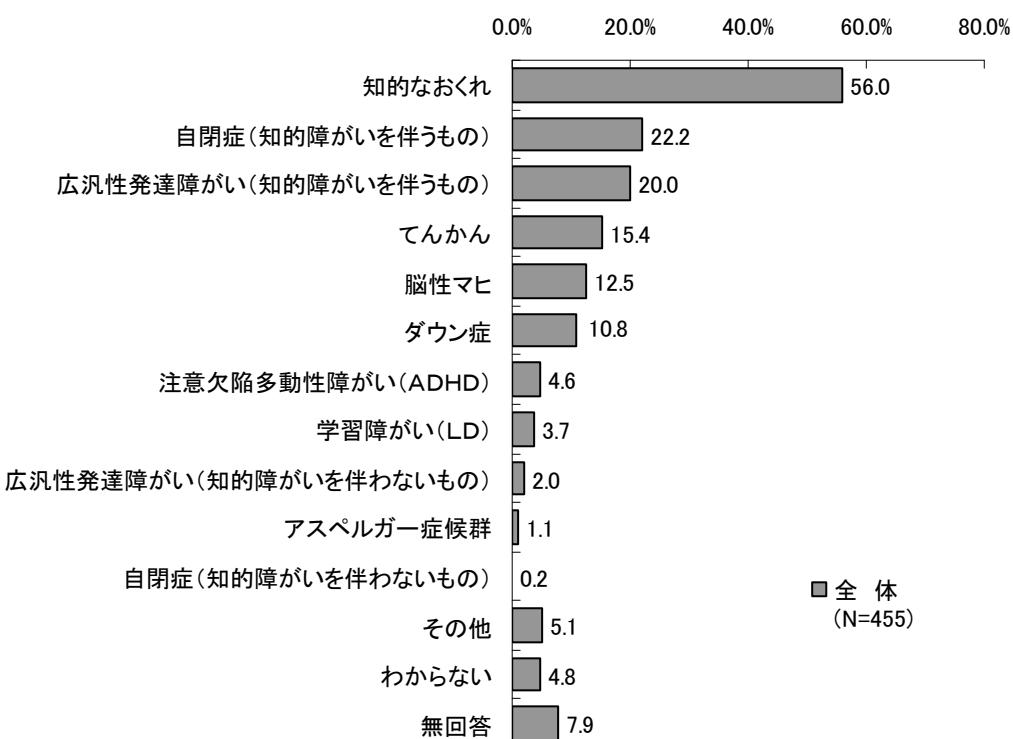
身体障害者手帳を持っていない人（261人）にその理由をたずねると、「身体障害者手帳の取得を希望していない」（70.9%）が7割を占めている。

(3) 知的障がいの状況（療育手帳の判定、知的障がいの診断名）

【図表6-10 療育手帳の判定】



【図表6-11 知的障がいの診断名】



療育手帳については、8割強（82.0%）が手帳を所持しており、判定区分ではA1～A3をあわせたA判定の重度者（35.6%）が3割を超えている。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど重度者の割合も高く、9歳以上では4割前後を占めている。

知的障がいの診断名については、「知的なおくれ」（56.0%）が半数を超えて最も多く、次いで「自閉症（知的障がいを伴うもの）」（22.2%）、「広汎性発達障がい（知的障がいを伴うもの）」（20.0%）、「てんかん」（15.4%）、「脳性マヒ」（12.5%）、「ダウン症」（10.8%）がそれぞれ2割台から1割台で続いている。

また、「自閉症」「広汎性発達障がい」「アスペルガー症候群」「注意欠陥多動性障がい」「学習障がい」のいずれか1つまたは複数に該当する人を集約すると、回答者の4割弱（38.7%）が発達障がいの診断を受けている。

年齢別にみると、「自閉症」等の発達障がいは9歳以降で4割を超えている。

【図表6-12 年齢別 療育手帳の判定】(%)

	調査数 (人)	療育手帳の判定							調査数 (人)	療育手帳の判定(集約)					
		A 1	A 2	A 3	B 1	B 2	持療 つ育 て手 い帳 なは い	無 回答		A重 3度 (～ A 1 ～)	中 度 (～ B 1 ～)	輕 度 (～ B 2 ～)	持療 つ育 て手 い帳 なは い	無 回答	
全 体	455	18.2	15.4	2.0	14.7	31.6	16.9	1.1	455	35.6	14.7	31.6	16.9	1.1	
年 齢	0～2歳	19	10.5	5.3	—	15.8	15.8	52.6	—	19	15.8	15.8	15.8	52.6	—
	3～5歳	70	11.4	7.1	—	11.4	37.1	28.6	4.3	70	18.6	11.4	37.1	28.6	4.3
	6～8歳	84	11.9	15.5	2.4	32.1	27.4	10.7	—	84	29.8	32.1	27.4	10.7	—
	9～11歳	78	20.5	23.1	5.1	5.1	33.3	12.8	—	78	48.7	5.1	33.3	12.8	—
	12～14歳	96	22.9	18.8	2.1	9.4	28.1	17.7	1.0	96	43.8	9.4	28.1	17.7	1.0
	15～17歳	100	24.0	13.0	1.0	14.0	36.0	11.0	1.0	100	38.0	14.0	36.0	11.0	1.0
	無回答	8	12.5	25.0	—	25.0	37.5	—	—	8	37.5	25.0	37.5	—	—

【図表6-13 年齢別 知的障がいの診断名】(%)

	調査数 (人)	知的障がいの診断名													（再掲）発達障がいあり		
		知的なおくれ	も自閉症	が広汎性発達障がい	てんかん	脳性マヒ	ダウン症	D注意欠陥多動性障がい(A)	学習障がい(LD)	が広汎性発達障がい	アスペルガー症候群	ない自閉症の	その他	わからない			
全 体	455	56.0	22.2	20.0	15.4	12.5	10.8	4.6	3.7	2.0	1.1	0.2	5.1	4.8	7.9	38.7	
年 齢	0～2歳	19	47.4	—	—	15.8	10.5	21.1	—	—	—	—	—	10.5	26.3	—	
	3～5歳	70	32.9	12.9	25.7	14.3	5.7	10.0	4.3	—	7.1	—	—	5.7	15.7	8.6	34.3
	6～8歳	84	53.6	17.9	27.4	11.9	14.3	19.0	1.2	—	—	—	1.2	4.8	1.2	6.0	38.1
	9～11歳	78	64.1	26.9	20.5	15.4	12.8	12.8	6.4	5.1	—	—	—	5.1	3.8	5.1	42.3
	12～14歳	96	60.4	28.1	18.8	14.6	14.6	7.3	6.3	6.3	1.0	2.1	—	4.2	3.1	7.3	42.7
	15～17歳	100	64.0	29.0	15.0	18.0	14.0	4.0	6.0	7.0	3.0	2.0	—	6.0	2.0	9.0	44.0
	無回答	8	75.0	—	12.5	37.5	12.5	12.5	—	—	—	12.5	—	12.5	—	—	25.0

(注) 再掲の『発達障がいあり』は、「自閉症」「広汎性発達障がい」「アスペルガー症候群」「注意欠陥多動性障がい」「学習障がい」のいずれか1つまたは複数に該当する人。

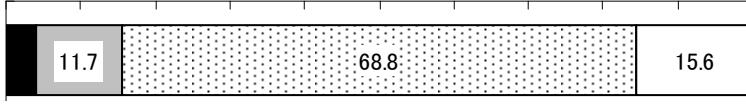
(4) 療育手帳を持っていない理由

【図表6-14 療育手帳を持っていない理由】

- 現在、療育手帳の取得を申請中である
- 療育手帳の取得を希望したが、該当しなかった
- 療育手帳の取得を希望していない
- 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

全 体
(N=77)

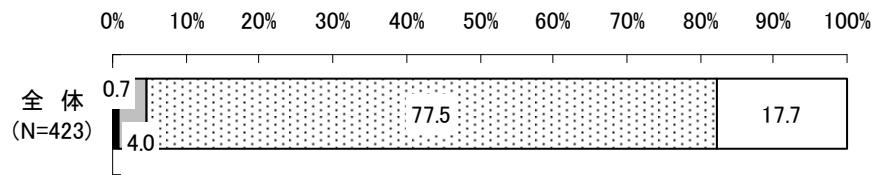


療育手帳を持っていない人（77人）にその理由をたずねると、「療育手帳の取得を希望していない」（68.8%）が7割を占めている。

(5) 精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由

【図表6-15 精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由】

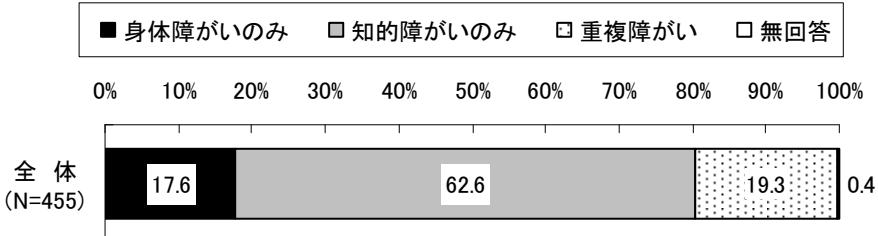
- 現在、精神障害者保健福祉手帳の取得を申請中である
- 精神障害者保健福祉手帳の取得を希望したが、該当しなかった
- 精神障害者保健福祉手帳の取得を希望していない
- 無回答



精神障害者保健福祉手帳を持っていない人にその理由を尋ねると、「精神障害者保健福祉手帳の取得を希望していない」(77.5%)が8割弱と大半を占めている。

(6) 障がいの状況（身体・知的障がい等の重複状況）

【図表6-16 障がいの状況】



各種手帳の所持状況から障がいの重複状況を集約すると、「知的障がいのみ」(62.6%)が6割強と最も多く、「身体障がいのみ」(17.6%)と「重複障がい」(19.3%)がそれぞれ2割弱ずつとなっている。

年齢別にみると、0~2歳では「身体障がいのみ」(52.6%)が過半数で最も多いが、3歳以上になると「知的障がいのみ」が5~6割前後を占めて最も多くなっている。

【図表6-17 年齢別 障がいの状況】(%)

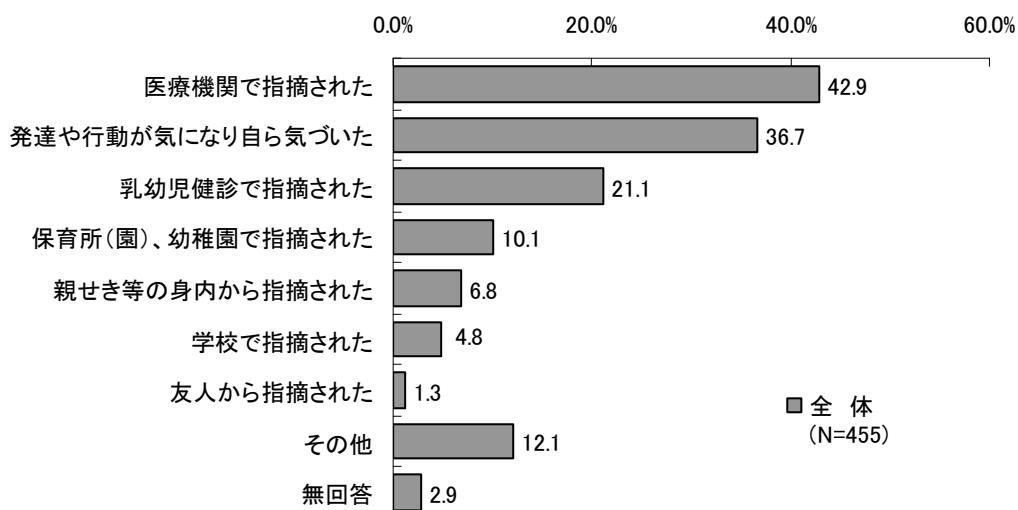
	調査数 (人)	障がいの状況			
		み身体障がいの	み知的障がいの	重複障がい	無回答
全 体	455	17.6	62.6	19.3	0.4
年齢	0~2歳	19	52.6	31.6	15.8
	3~5歳	70	32.9	51.4	15.7
	6~8歳	84	10.7	67.9	21.4
	9~11歳	78	12.8	62.8	24.4
	12~14歳	96	17.7	63.5	17.7
	15~17歳	100	11.0	69.0	19.0
	無回答	8	—	87.5	12.5

3. 障がいについて

(1) 障がいに気づいたきっかけ

問9 お子さんの発達の遅れに気づいたのは、どういうきっかけでしたか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-18 障がいに気づいたきっかけ】



「医療機関で指摘された」(42.9%) が最も多く、次いで「発達や行動が気になり自ら気づいた」(36.7%)、「乳幼児健診で指摘された」(21.1%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児（身体障がいのみ）や重複障がい児では「医療機関で指摘された」が半数を超えて最も多いが、知的障がい児（知的障がいのみ）では3割台に留まり、「発達や行動が気になり自ら気づいた」（43.9%）が最も多くなっている。また、知的障がい児では他に比べて「乳幼児健診で指摘された」（28.1%）や「保育所（園）、幼稚園で指摘された」（14.0%）の割合も高くなっている。

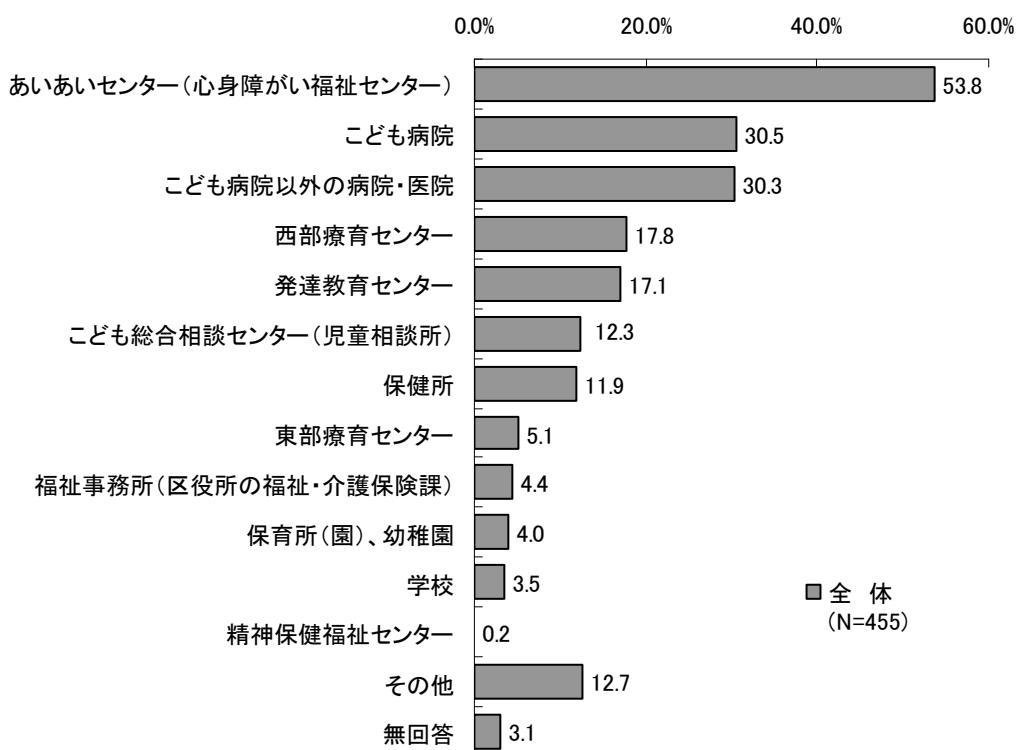
【図表6-19 障がいの状況別 障がいに気づいたきっかけ】(%)

調査数 (人)	障がいに気づいたきっかけ										
		され た医 療機 関で 指 摘	いに 発 達 な りや 自 行 ら 気 が づ 気	摘 乳 さ れ た 幼 児 健 診 で 指	れ 幼 保 た 稚 育 園 所 で 指 摘 さ さ	か 親 せ き 等 の 指 摘 さ れ た 身 内	た 学 校 で 指 摘 さ れ	れ 友 た か ら 指 摘 さ	そ の 他	無 回答	
全 体		455	42.9	36.7	21.1	10.1	6.8	4.8	1.3	12.1	2.9
障 状 況 の	身体障がいのみ	80	52.5	25.0	7.5	3.8	2.5	2.5	-	17.5	10.0
	知的障がいのみ	285	36.5	43.9	28.1	14.0	9.1	6.7	2.1	8.4	0.7
	重複障がい	88	55.7	25.0	10.2	3.4	3.4	1.1	-	19.3	2.3
	無回答	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0

(2) 相談、診察、検査を求めた機関

問10 発達の遅れに気づいてから、どこに相談し、診察・検査を求めに行きましたか。または、行っていますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-20 相談、診察、検査を求めた機関】



「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」(53.8%) が半数を超えて最も多く、次いで「こども病院」(30.5%)、「こども病院以外の病院・医院」(30.3%) となっている。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」が半数を超えて最も多いが、重複障がい児では、他に比べて「こども病院以外の病院・医院」の割合が4割強と高く、知的障がい児（知的障がいのみ）では「発達発育センター」(21.8%)、「保健所」(16.5%) の割合が高い。

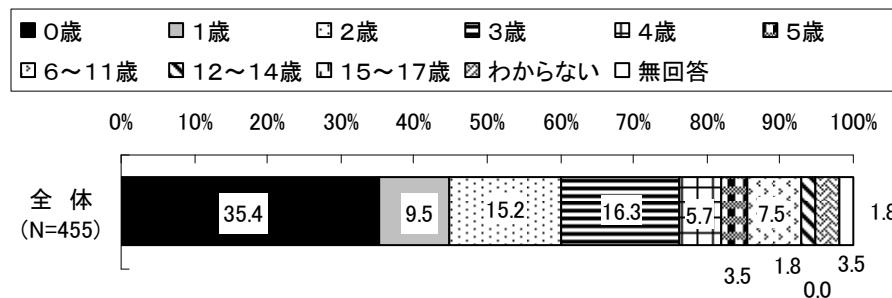
【図表6-21 障がいの状況別 相談、診察、検査を求めた機関】(%)

調査数 (人)	相談、診察、検査を求めた機関														
	いあ 福い 祉あ せい ンセ ンタ ー （心 身障 が い の み ）	こ ど も 病 院	こ ど も 病 院 以 外 の 病 院 ・ 医 院	西 部 療 育 セ ン タ ー	発 達 教 育 セ ン タ ー	童 相 談 セ ン タ ー （児 ）	こ ど も 総 合 相 談 セ ン タ ー （児 ）	保 健 所	東 部 療 育 セ ン タ ー	介 福 祉 事 務 課 所 （ 区 役 所 の 福 祉 ・ 保 健 保 険 課 ）	保 育 所 （ 園 ） 、 幼 稚 園	学 校	精神 保 健 福 祉 セ ン タ ー	その 他	無 回 答
全 体	455	53.8	30.5	30.3	17.8	17.1	12.3	11.9	5.1	4.4	4.0	3.5	0.2	12.7	3.1
障 状 が い の み	80	50.0	40.0	36.3	5.0	7.5	3.8	3.8	5.0	—	1.3	—	—	12.5	10.0
知 的 障 が い の み	285	54.0	29.5	25.3	20.7	21.8	15.4	16.5	5.6	3.9	4.9	5.3	0.4	13.7	0.7
重 複 障 が い	88	58.0	26.1	42.0	20.5	11.4	10.2	3.4	3.4	10.2	3.4	1.1	—	10.2	3.4
無回答	2	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0

(3) 障がいがわかった年齢

問11 医学的診断の結果、障がいがはっきりとわかったのは、お子さんが何歳の時でしたか。
(○は1つだけ)

【図表6-22 障がいがわかった年齢】



「0歳」(35.4%) が3割を超えて最も多く、以下「3歳」(16.3%)、「2歳」(15.2%)、「1歳」(9.5%) の順であり、「3歳以下」で医学的に障がいがわかった人が8割弱(76.4%)を占めている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児(身体障がいのみ)や重複障がい児では、知的障がい児(知的障がいのみ)に比べて、「0歳」の割合が6割前後と高い。一方、知的障がい児では、各年齢に広く分散しており、「3歳」(23.5%) や「0歳」(21.8%)、「2歳」(20.0%) で2割を超えておりほか、「6～11歳」(10.5%) と「12～14歳」(2.5%) をあわせた就学後の割合も1割を超えており(13.0%)。

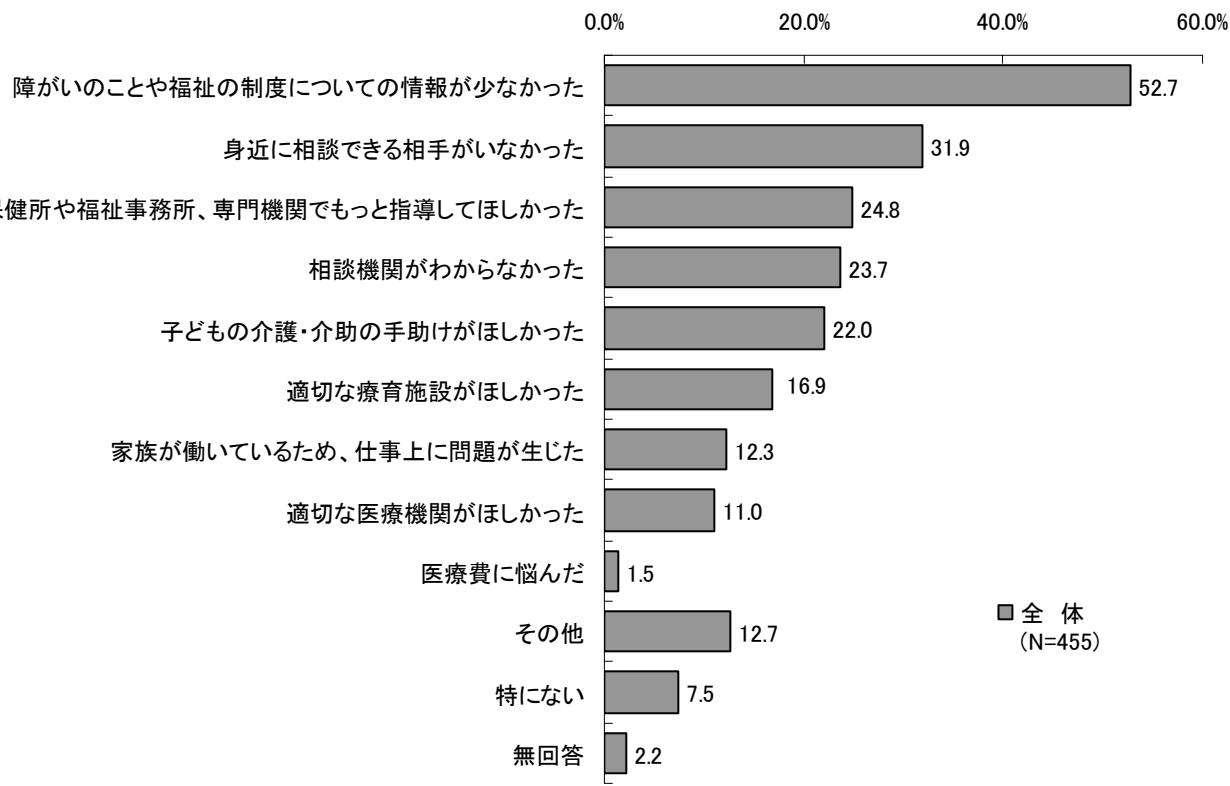
【図表6-23 障がいの状況別 障がいがわかった年齢】(%)

状況	調査数 (人)	障がいがわかった年齢										
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	1歳	2歳	5歳	7歳
全 体	455	35.4	9.5	15.2	16.3	5.7	3.5	7.5	1.8	—	3.5	1.8
障がいの状況												
身体障がいのみ	80	65.0	11.3	8.8	1.3	2.5	—	3.8	1.3	—	1.3	5.0
知的障がいのみ	285	21.8	4.6	20.0	23.5	7.4	4.9	10.5	2.5	—	3.9	1.1
重複障がい	88	53.4	23.9	5.7	6.8	2.3	2.3	1.1	—	—	4.5	—
無回答	2	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	50.0

(4) 障がいの診断・判定を受けた頃の苦労、悩み、不安

問12 お子さんの障がいの状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。(○は3つまで)

【図表6-24 障がいの診断・判定を受けた頃の苦労、悩み、不安】



「障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった」(52.7%) が5割を超えて最も多く、次いで「身近に相談できる相手がいなかった」(31.9%)、「保健所や福祉事務所、専門機関でもっと指導してほしかった」(24.8%)、「相談機関がわからなかった」(23.7%) 等となっている。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった」の割合が最も高いが、身体障がい児（身体障がいのみ）では「家族が働いているため、仕事上に問題が生じた」(23.8%) の割合が高くなっている。

【図表6-25 障がいの状況別 障がいの診断・判定を受けた頃の苦労、悩み、不安】(%)

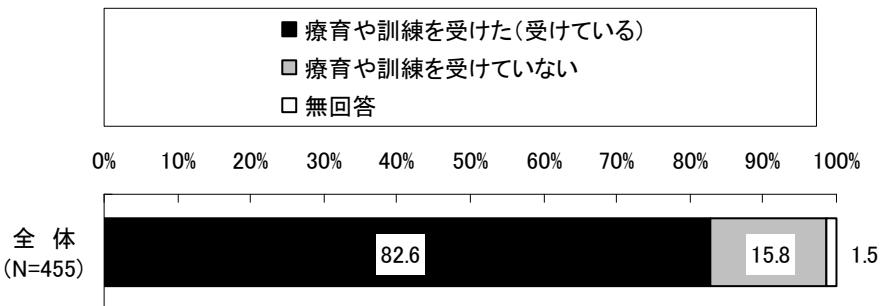
調査数 (人)	障がいの診断・判定を受けた頃の苦労、悩み、不安												
	い障 が て が の い 情 の 報 こ と 少 や な 福 か 社 つ の た 制 度 に つ	か身 つ近 たに 相 談 可 能 性 が あ る 相 手 が い な い	で保 健 所 と 福 祉 事 務 事 務 所 、 か 専 門 機 関	相 談 機 関 が わ か ら な か っ た	ほ 子 ど も の た か ら な か っ た	ほ ど も の た か ら な か っ た	適 切 な 療 育 施 設 が ほ し か っ た	に家 族 問 題 が が 働 い じ て た い る た め 、 仕 事 上	適 切 な 医 療 機 関 が ほ し か っ た	医 療 費 に 悩 ん だ	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	455	52.7	31.9	24.8	23.7	22.0	16.9	12.3	11.0	1.5	12.7	7.5	2.2
障がいの状況	身体障がいのみ	80	61.3	25.0	20.0	16.3	20.0	7.5	23.8	10.0	3.8	12.5	8.8
	知的障がいのみ	285	48.8	32.3	28.8	25.6	22.5	20.4	8.8	13.0	0.7	13.3	8.1
	重複障がい	88	58.0	37.5	17.0	25.0	22.7	14.8	13.6	5.7	2.3	11.4	4.5
	無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

4. 療育や保育・教育について

(1) 療育や訓練を受けた経験

問13 お子さんは、これまでに療育や身体の機能回復訓練（リハビリテーション）を受けたことがありますか。または、受けていますか。（○は1つだけ）

【図表6-26 療育や訓練を受けた経験】



8割強（82.6%）の人が「療育や訓練を受けた（受けている）」。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「療育や訓練を受けた（受けている）」人が7割以上を占めており受けていない人を大きく上回っているが、重複障がい児では受けた（受けている）人の割合が特に高く、94.3%となっている。

年齢別にみると、15～17歳では、他に比べて「療育や訓練を受けていない」（27.0%）の割合が高く、3割弱を占めている。

【図表6-27 障がいの状況別、年齢別 療育や訓練を受けた経験】(%)

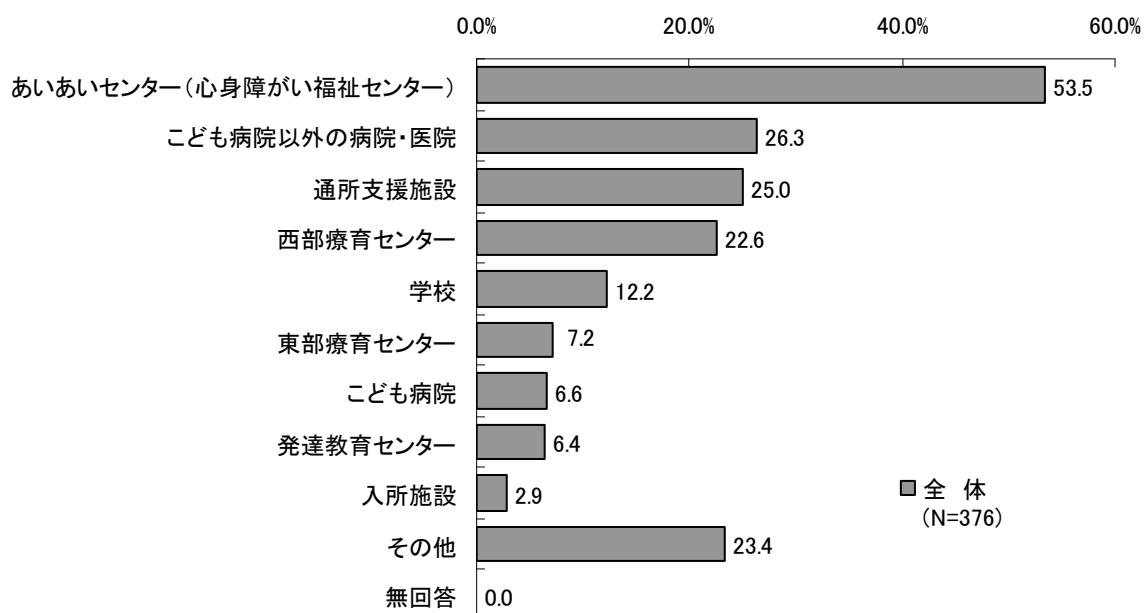
	調査数 (人)	療育や訓練を受けた経験		
		受けた育へや受訓練を受け練てをい受	受け育いやな訓い練を受	無回答
全 体	455	82.6	15.8	1.5
障がいの状況				
身体障がいのみ	80	72.5	25.0	2.5
知的障がいのみ	285	82.5	16.1	1.4
重複障がい	88	94.3	4.5	1.1
無回答	2	-	100.0	-
全 体	455	82.6	15.8	1.5
年齢				
0～2歳	19	89.5	10.5	-
3～5歳	70	88.6	10.0	1.4
6～8歳	84	91.7	8.3	-
9～11歳	78	87.2	12.8	-
12～14歳	96	78.1	17.7	4.2
15～17歳	100	71.0	27.0	2.0
無回答	8	75.0	25.0	-

(2) 療育や訓練で利用した施設

[問13で「1」を選ばれた方におたずねします]

問13-1 療育や訓練で利用した、または利用している施設はどこですか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-28 療育や訓練で利用した施設】



療育や訓練を受けた（受けている）人（376人）に、利用した（利用している）施設をたずねたところ、「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」（53.5%）が半数を超えて最も多く、次いで「こども病院以外の病院・医院」（26.3%）、「通所支援施設」（25.0%）、「西部療育センター」（22.6%）となっている。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」の割合が最も高いが、身体障がい児（身体障がいのみ）では他に比べても高く、7割（70.7%）となっている。一方、「通所支援施設」の割合は知的障がい児（知的障がいのみ）で高く、3割（29.8%）を占めている。また、「こども病院以外の病院・医院」の割合は、重複障がい児が他に比べて高く、4割弱（38.6%）である。

年齢別にみると、「学校」の割合は12歳以上で高く、2割前後を占めている。また、12歳以上では「あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」の割合が6割を超えて高い。

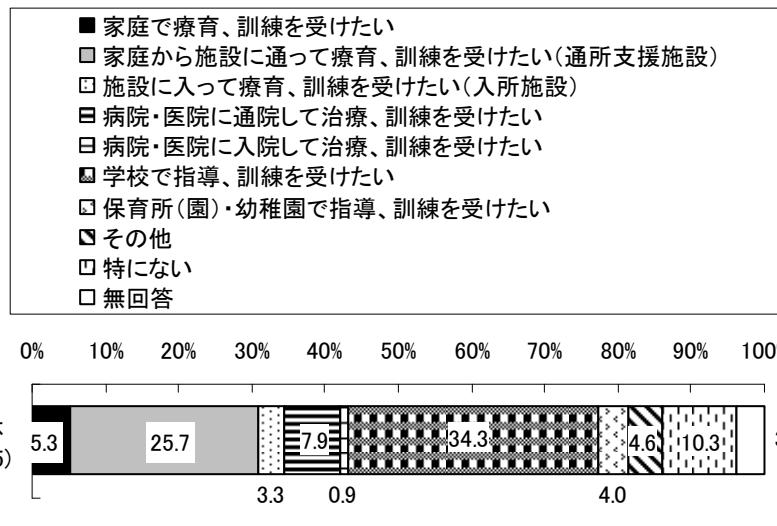
【図表6-29 障がいの状況別、年齢別 療育や訓練で利用した施設】(%)

調査数 (人)	セー ン 心 い タ 身 あ ー 障 い ー が セ い ン 福 タ 祉 ー	療育や訓練で利用した施設										
		あ い い セ ン タ ー	こ ど も 病 院 外 部	通 所 支 援 施 設	西 部 療 育 セ ン タ ー	学 校	東 部 療 育 セ ン タ ー	こ ど も 病 院	発 達 教 育 セ ン タ ー	入 所 施 設	そ の 他	無 回 答
全 体	376	53.5	26.3	25.0	22.6	12.2	7.2	6.6	6.4	2.9	23.4	-
障 状 況 の 無回答	58	70.7	29.3	19.0	12.1	6.9	8.6	8.6	1.7	8.6	24.1	-
身体障がいのみ	235	48.5	21.3	29.8	24.7	11.5	7.7	7.2	7.7	1.7	23.4	-
知的障がいのみ	83	55.4	38.6	15.7	24.1	18.1	4.8	3.6	6.0	2.4	22.9	-
重複障がい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体	376	53.5	26.3	25.0	22.6	12.2	7.2	6.6	6.4	2.9	23.4	-
年 齢	0~2歳	17	35.3	23.5	-	35.3	-	23.5	17.6	-	-	23.5
	3~5歳	62	43.5	17.7	29.0	25.8	-	12.9	-	-	4.8	22.6
	6~8歳	77	48.1	35.1	33.8	27.3	13.0	13.0	5.2	2.6	5.2	15.6
	9~11歳	68	44.1	20.6	13.2	22.1	8.8	2.9	7.4	2.9	2.9	35.3
	12~14歳	75	65.3	30.7	21.3	20.0	18.7	1.3	6.7	8.0	2.7	21.3
	15~17歳	71	67.6	25.4	31.0	12.7	21.1	2.8	8.5	16.9	-	25.4
無回答		6	66.7	33.3	50.0	50.0	16.7	-	33.3	33.3	-	-

(3) 療育や訓練に対する希望

問14 お子さんの今後の療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。あなたの希望に最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

【図表6-30 療育や訓練に対する希望】



「学校で指導、訓練を受けたい」(34.3%) が最も多く、次いで「家庭から施設に通って療育、訓練を受けたい(通所支援施設)」(25.7%)、「病院・医院に通院して治療、訓練を受けたい」(7.9%) となっており、家庭からの通所(通院)による希望が上位にあがっている。また、「特にない」(10.3%)との回答も1割を占めている。

障がいの状況別にみると、「学校で指導、訓練を受けたい」の割合は他に比べて知的障がい児(知的障がいのみ)で4割強(41.4%)と高い。また、身体障がい児では他に比べて「特にない」(21.3%)の割合が高く、2割を超えている。

年齢別にみると、「家庭から施設に通って療育、訓練を受けたい(通所支援施設)」や「保育所(園)・幼稚園で指導、訓練を受けたい」の割合は5歳以下の就学前で高く、「学校で指導・訓練を受けたい」の割合は、6~14歳の小・中学校の学齢期で高い。また、0~2歳では「家庭で療育、訓練を受けたい」(21.1%)の割合が2割強と高い。

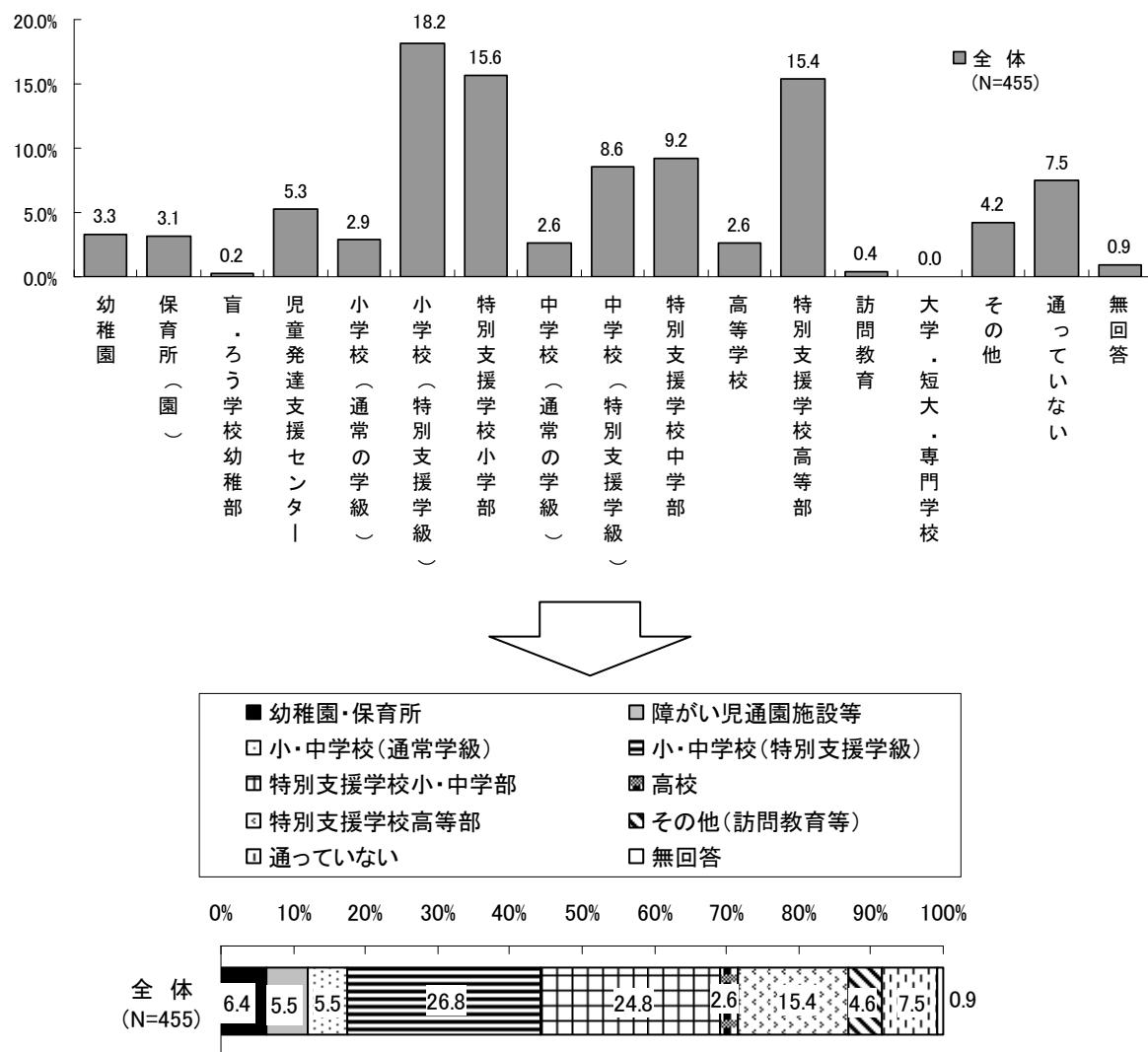
【図表6-31 障がいの状況別、年齢別 療育や訓練に対する希望】(%)

	調査数 (人)	療育や訓練に対する希望									
		た家庭 で療 育、 訓 練を 受け	所育家 庭 援訓か 施練ら 設を施 けに た通 いつ て通療	を施 設 けに た入 いつ て入療	療病 院 訓・ 練医 院を 受に け通	療病 院 訓・ 練医 院を 受に け通	た学 校 で指 導、 訓 練を 受け	指保 育、 所訓 (園) を受 け幼 稚園	その 他	特 に な い	無 回答
全 体	455	5.3	25.7	3.3	7.9	0.9	34.3	4.0	4.6	10.3	3.7
障 状 況 の 無回答	80	8.8	17.5	—	10.0	1.3	18.8	8.8	7.5	21.3	6.3
身体障がいのみ	285	3.2	28.4	3.5	6.0	0.7	41.4	3.5	3.5	7.4	2.5
知的障がいのみ	88	9.1	25.0	5.7	12.5	1.1	26.1	1.1	5.7	9.1	4.5
重複障がい	2	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0
全 体	455	5.3	25.7	3.3	7.9	0.9	34.3	4.0	4.6	10.3	3.7
年 齢	0~2歳	19	21.1	42.1	—	—	5.3	26.3	—	5.3	—
	3~5歳	70	1.4	40.0	1.4	8.6	—	11.4	17.1	8.6	8.6
	6~8歳	84	2.4	14.3	2.4	9.5	1.2	58.3	1.2	2.4	6.0
	9~11歳	78	9.0	16.7	2.6	7.7	2.6	44.9	—	6.4	9.0
	12~14歳	96	4.2	25.0	4.2	7.3	1.0	38.5	—	2.1	10.4
	15~17歳	100	6.0	30.0	6.0	9.0	—	21.0	—	5.0	18.0
	無回答	8	—	25.0	—	—	62.5	—	12.5	—	—

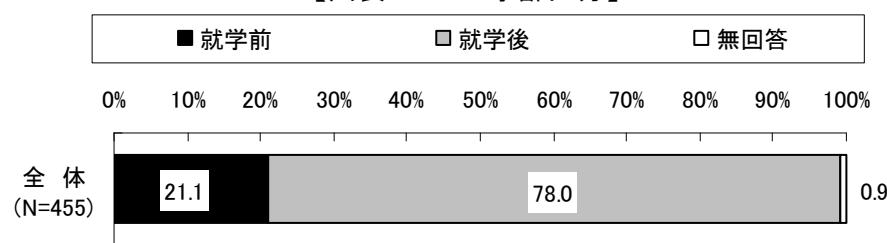
(4) 通園・通学先

問15 お子さんは、学校や幼稚園・保育所（園）などに通っていますか。（○は1つだけ）

【図表6-32 通園・通学先】



【図表6-33 学齢区分】



「小学校（特別支援学級）」(18.2%)、「特別支援学校小学部」(15.6%)、「特別支援学校高等部」(15.4%)等がそれぞれ1割台となっており、集約すると、「小・中学校（特別支援学級）」(26.8%)・「特別支援学校小・中学部」(24.8%)がそれぞれ2割を超えており、これらの特別支援学校（学級）に通っている小・中学生で半数(51.6%)を占めている。

学齢の区分に集約すると、就学前が21.1%、就学後が78.0%と、就学児童が8割弱と大半を占めている。

通園・通学先と障がいの状況の関係をみると、就学前児童については、幼稚園・保育所、障がい児通園施設等ともに知的障がい児（知的障がいのみ）が最も多く、5割弱～6割弱となっているが、幼稚園・保育所は通園施設等に比べて身体障がい児（身体障がいのみ）の割合が高く、障がい児通園施設等では重複障がい児の割合が高い。

小・中学生についてみると、小・中学校の通常学級では身体障がい児が80.0%、特別支援学級では知的障がい児が84.4%とそれぞれ大半を占めている。また、特別支援学校小・中学部でも知的障がい児が6割弱（57.5%）と最も多いが、重複障がい児が3割強（33.6%）と、通常の小・中学校に比べて高い割合を占めている。

高校生についてみると、通常の高校では知的障がい児は半数であるが、特別支援学校高等部では7割強（72.9%）を占めている。このほか、通常の高校では身体障がい児（50.0%）、特別支援学校高等部では重複障がい児（21.4%）の割合が高くなっている。

【図表6-34 通園・通学先別 障がいの状況】(%)

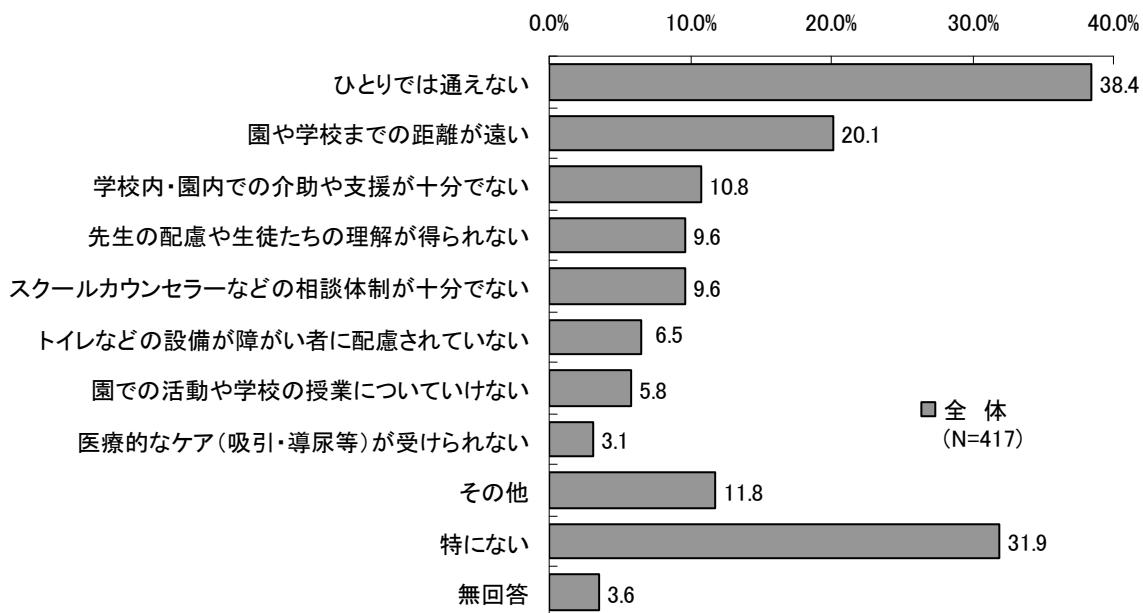
調査数 (人)		障がいの状況			
		身体障がいのみ	知的障がいのみ	重複障がい	無回答
全 体	455	17.6	62.6	19.3	0.4
通園・通学先	幼稚園・保育所	29	34.5	58.6	6.9
	障がい児通園施設等	25	24.0	48.0	28.0
	小・中学校（通常学級）	25	80.0	12.0	—
	小・中学校（特別支援学級）	122	4.9	84.4	10.7
	特別支援学校小・中学部	113	8.8	57.5	33.6
	高校	12	50.0	50.0	—
	特別支援学校高等部	70	5.7	72.9	21.4
	その他（訪問教育等）	21	23.8	57.1	19.0
通っていない		34	38.2	38.2	23.5
無回答		4	—	75.0	25.0

(5) 通園・通学で困っていること

[問15で「1」～「15」を選ばれた方におたずねします]

問15-1 通園・通学で困っていることがありますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-35 通園・通学で困っていること】



通園・通学中の人（417人）に、通園・通学で困っていることをたずねたところ、「ひとりでは通えない」（38.4%）が4割弱と最も多く、これに「園や学校までの距離が遠い」（20.1%）が続いており、通園・通学先までのアクセスに関するものが上位にあがっている。これに「学校内・園内での介助や支援が十分でない」（10.8%）が1割台で続いている。

また、「特にない」（31.9%）も3割強を占めている。

障がいの状況別にみると、重複障がい児では他に比べて「ひとりでは通えない」（45.6%）や「園や学校までの距離が遠い」（26.6%）等の割合が高い。

通園・通学先別にみると、特別支援学校小・中学部では「ひとりでは通えない」（61.9%）や「園や学校までの距離が遠い」（31.0%）が他に比べて高い。

【図表6-36 障がいの状況別、通園・通学先別 通園・通学で困っていること】(%)

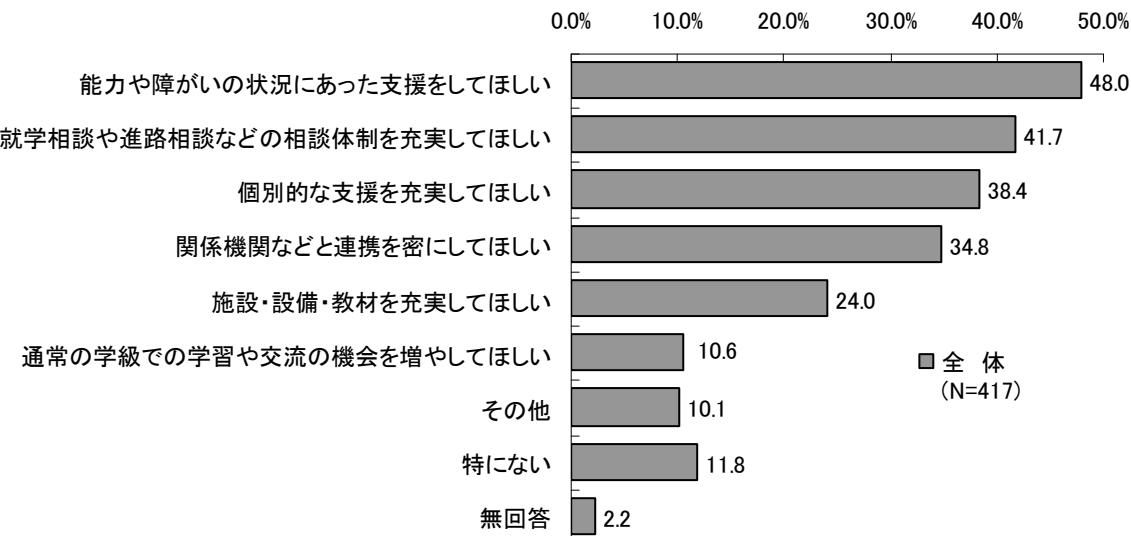
	調査数 (人)	通園・通学で困っていること											
		ひとりでは通えない	遠園いや学校までの距離が	や学校支援内が・十園分内でない介助	の先生理解のが配得慮られ生な徒いたち	でなスクールカ體制ンがセラ分	ながトいいイ者に相ルカ體制ンがセラ分	ながトいいイ者に相ルカ體制ンがセラ分	業園にでのい活動	い導医尿等のながケ受アケへ吸引な・	その他	特にない	無回答
全 体	417	38.4	20.1	10.8	9.6	9.6	6.5	5.8	3.1	11.8	31.9	3.6	
障身体障がいのみ	67	28.4	16.4	7.5	9.0	6.0	10.4	4.5	3.0	7.5	43.3	1.5	
状が知的障がいのみ	269	39.0	19.3	12.6	11.9	11.9	6.7	6.7	1.9	13.4	30.1	3.7	
況い重複障がい	79	45.6	26.6	7.6	2.5	5.1	2.5	3.8	7.6	10.1	26.6	5.1	
の無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
全 体	417	38.4	20.1	10.8	9.6	9.6	6.5	5.8	3.1	11.8	31.9	3.6	
通園・通学先	幼稚園・保育所	29	10.3	17.2	3.4	3.4	3.4	-	20.7	-	6.9	44.8	3.4
	障がい児通園施設等	25	28.0	20.0	-	4.0	12.0	4.0	-	-	8.0	40.0	-
	小・中学校(通常学級)	25	12.0	16.0	12.0	8.0	8.0	8.0	12.0	-	12.0	44.0	-
	小・中学校(特別支援学級)	122	41.0	12.3	18.0	20.5	9.8	10.7	9.0	2.5	13.1	23.8	4.9
	特別支援学校小・中学部	113	61.9	31.0	8.8	0.9	8.0	5.3	-	6.2	13.3	23.0	2.7
	高校	12	8.3	-	-	25.0	8.3	8.3	8.3	-	-	58.3	-
	特別支援学校高等部	70	32.9	24.3	11.4	7.1	15.7	4.3	2.9	2.9	12.9	35.7	4.3
	その他(訪問教育等)	21	14.3	14.3	4.8	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	9.5	57.1	9.5
通っていない		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(6) 通園・通学先に望むこと

[問15で「1」～「15」を選ばれた方におたずねします]

問15-2 通園・通学先にどのようなことを望みますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-37 通園・通学先に望むこと】



通園・通学中の人（417人）に、通園・通学先に望むことをたずねたところ、「能力や障がいの状況にあった支援をしてほしい」（48.0%）が最も多く、これに「就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい」（41.7%）や「個別的な支援を充実してほしい」（38.4%）が4割前後で続き、次いで「関係機関などと連携を密にしてほしい」（34.8%）となっている。

通園・通学先別にみると、特別支援学校高等部では「就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい」（54.3%）、小・中学校（特別支援学級）では「施設・設備・教材を充実してほしい」（33.6%）の割合がそれぞれ他に比べて高い。

【図表6-38 通園・通学先別 通園・通学先に望むこと】(%)

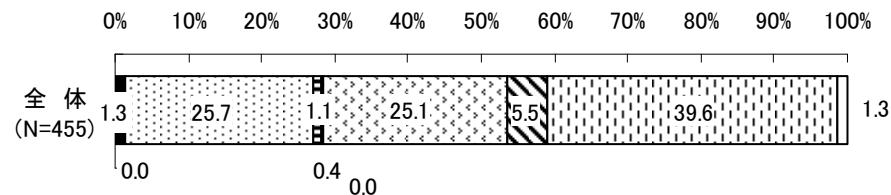
調査数（人）	通園・通学先に望むこと									
	いあ能 つ力 たや 支障 援が をい しの て状 ほ況 しに	てど就 ほの学 し相相 い談談 体や 制進 を路 充相 実談 しな	て個 ほ別 し相 いな 支援 を充 実し	密関 に係 して 機関 ほな どい と連 携を	実施 し設 て・ ほ設 しい・ 教材 を充	ほ交 通し 流常 いの 機学 会級 をで 増の や学 習て や	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体	417	48.0	41.7	38.4	34.8	24.0	10.6	10.1	11.8	2.2
幼稚園・保育所	29	41.4	37.9	20.7	31.0	10.3	6.9	6.9	20.7	3.4
障がい児通園施設等	25	44.0	20.0	44.0	24.0	12.0	4.0	8.0	24.0	-
小・中学校(通常学級)	25	20.0	40.0	20.0	32.0	12.0	4.0	-	28.0	4.0
小・中学校(特別支援学級)	122	54.1	40.2	43.4	38.5	33.6	16.4	15.6	6.6	0.8
特別支援学校小・中学部	113	46.0	40.7	38.9	37.2	29.2	10.6	10.6	8.8	2.7
高校	12	16.7	50.0	-	16.7	8.3	8.3	8.3	33.3	-
特別支援学校高等部	70	55.7	54.3	38.6	34.3	15.7	2.9	8.6	7.1	4.3
その他(訪問教育等)	21	61.9	42.9	66.7	33.3	23.8	23.8	-	14.3	-
通っていない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(7) 将来の希望する就労形態

問16 お子さんの今後の職業について、どのような希望をお持ちですか。(○は1つだけ)

【図表6-39 将来の希望する就労形態】

■自営業主	□家族従事者	□正規の社員・従業員
■臨時・日雇、パート	■派遣社員	■内職
□施設で働く	□特にない	□わからない、まだ決めていない
□無回答		



「わからない、まだ決めていない」(39.6%) が最も多く、これに「正規の社員・従業員」(25.7%) と「施設で働く」(25.1%) が3割弱で続いている。

障がいの状況別にみると、「正規の社員・従業員」は他に比べて身体障がい児(48.8%)で高く、半数弱を占めている。一方、「施設で働く」は、身体障がい児に比べて、知的障がい児(32.3%)や重複障がい児(22.7%)で高く、2割を超えていている。

年齢別にみると、11歳以下では「わからない、まだ決めていない」の割合が最も高く、過半数となっている。一方、12歳以上では「施設で働く」の割合が3割を超えて最も高い。

通園・通学先別にみると、「正規の社員・従業員」の割合は小・中学校(通常学級)(60.0%)や高校(58.3%)で高く、「施設で働く」の割合は特別支援学校小・中学部(43.4%)や特別支援学校高等部(51.4%)で高くなっている。通常学級(学校)に通っている人と、特別支援学校に通っている人で意向が大きくわかっている。

【図表6-40 障がいの状況別、年齢別、通園・通学先別 将来の希望する就労形態】(%)

	(人調査数)	将来の希望する就労形態									
		自営業主	家族従事者	員正規従業員	雇臨時パート	派遣社員	内職	施設で働く	特にない	めいわてかいまらなだない決	無回答
全 体	455	1.3	-	25.7	1.1	0.4	-	25.1	5.5	39.6	1.3
障がいの状況											
身体障がいのみ	80	5.0	-	48.8	-	-	-	2.5	8.8	35.0	-
知的障がいのみ	285	0.7	-	24.9	1.8	0.7	-	32.3	1.1	37.2	1.4
重複障がい	88	-	-	6.8	-	-	-	22.7	17.0	51.1	2.3
無回答	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
全 体	455	1.3	-	25.7	1.1	0.4	-	25.1	5.5	39.6	1.3
年齢											
0~2歳	19	-	-	10.5	-	-	-	-	10.5	78.9	-
3~5歳	70	2.9	-	25.7	-	1.4	-	1.4	8.6	60.0	-
6~8歳	84	-	-	20.2	-	1.2	-	21.4	3.6	53.6	-
9~11歳	78	2.6	-	19.2	-	-	-	24.4	5.1	48.7	-
12~14歳	96	1.0	-	31.3	3.1	-	-	34.4	2.1	22.9	5.2
15~17歳	100	1.0	-	34.0	1.0	-	-	41.0	6.0	16.0	1.0
無回答	8	-	-	12.5	12.5	-	-	25.0	25.0	25.0	-
全 体	455	1.3	-	25.7	1.1	0.4	-	25.1	5.5	39.6	1.3
通園・通学先											
幼稚園・保育所	29	-	-	41.4	-	-	-	-	-	58.6	-
障がい児通園施設等	25	4.0	-	8.0	-	-	-	8.0	12.0	68.0	-
小・中学校(通常学級)	25	4.0	-	60.0	-	-	-	-	-	36.0	-
小・中学校(特別支援学級)	122	1.6	-	32.8	2.5	-	-	19.7	1.6	41.0	0.8
特別支援学校小・中学部	113	-	-	7.1	0.9	0.9	-	43.4	5.3	38.9	3.5
高校	12	8.3	-	58.3	-	-	-	8.3	8.3	16.7	-
特別支援学校高等部	70	-	-	28.6	1.4	-	-	51.4	7.1	10.0	1.4
その他(訪問教育等)	21	-	-	9.5	-	4.8	-	9.5	4.8	71.4	-
通っていない	34	2.9	-	23.5	-	-	-	-	20.6	52.9	-
無回答	4	-	-	75.0	-	-	-	-	-	25.0	-

(8) 中学卒業後に進学していない人の状況

[中学校卒業後に進学していないお子さん（高校中退含む）のみお答えください]

問17 お子さんは、主に何をして過ごしていますか。（○は1つだけ）

問17-1（「何もしていない」を選んだ方へ） 何もしていない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

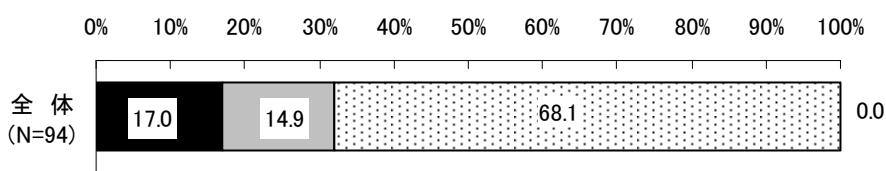
中学卒業後に進学していない人は3人であり、「家事手伝いをしている」人が2人、「施設に入所している」人が1人となっている。その理由は無回答であった。

(9) 障がいが判明した後に福岡市に転入してきた理由

問18 次の質問は、お子さんの障がいが判明した後、市外から福岡市へ転入してきた方にお尋ねします。転入先を福岡市とされた理由は何ですか（○は1つだけ）

【図表6-41 障がいが判明した後に福岡市に転入してきた理由】

- 子どもに専門的な療育や保育・教育を受けさせるため
- 福岡市の療育や保育・教育環境も理由の一つであった
- 子どもの療育や保育・教育が理由での転入ではない
- 無回答



障がいが判明した後に福岡市に転入してきた人（94人）にその理由をたずねたところ、「子どもの療育や保育・教育が理由での転入ではない」（68.1%）が最も多く、これに「子どもに専門的な療育や保育・教育を受けさせるため」（17.0%）と「福岡市の療育や保育・教育環境も理由の一つであった」（14.9%）が1割台で続いている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「子どもに専門的な療育や保育・教育を受けさせるため」（33.3%）の割合が高く、3割を超えていている。一方、知的障がい児では「子どもの療育や保育・教育が理由での転入ではない」（80.0%）が8割と大半を占めている。

【図表6-42 障がいの状況別、年齢別 障がいが判明した後に福岡市に転入してきた理由】（%）

	調査数（人）	障がいが判明した後に福岡市に転入してきた理由			
		け育的の子さ・などせ教療もる育育にたをや専め受保門	一環や福つ境保岡でも育市あ理・のつ由教療たの育育	入がや子で理保どは由育もなで・のいの教療転育育	無回答
全 体	94	17.0	14.9	68.1	-
障 知的障がいのみ	21	33.3	19.0	47.6	-
状 慢性知的障がいのみ	50	8.0	12.0	80.0	-
況 重複障がい	22	22.7	18.2	59.1	-
い の無回答	1	-	-	100.0	-
全 体	94	17.0	14.9	68.1	-
年 齢	0～2歳	4	25.0	25.0	50.0
	3～5歳	12	16.7	8.3	75.0
	6～8歳	15	20.0	20.0	60.0
	9～11歳	19	15.8	5.3	78.9
	12～14歳	20	15.0	10.0	75.0
	15～17歳	22	13.6	27.3	59.1
	無回答	2	50.0	-	50.0

(10) 福岡市への転入時期

[問18で「1」「2」を選ばれた方におたずねします]

問18-1 転入時期を教えてください。

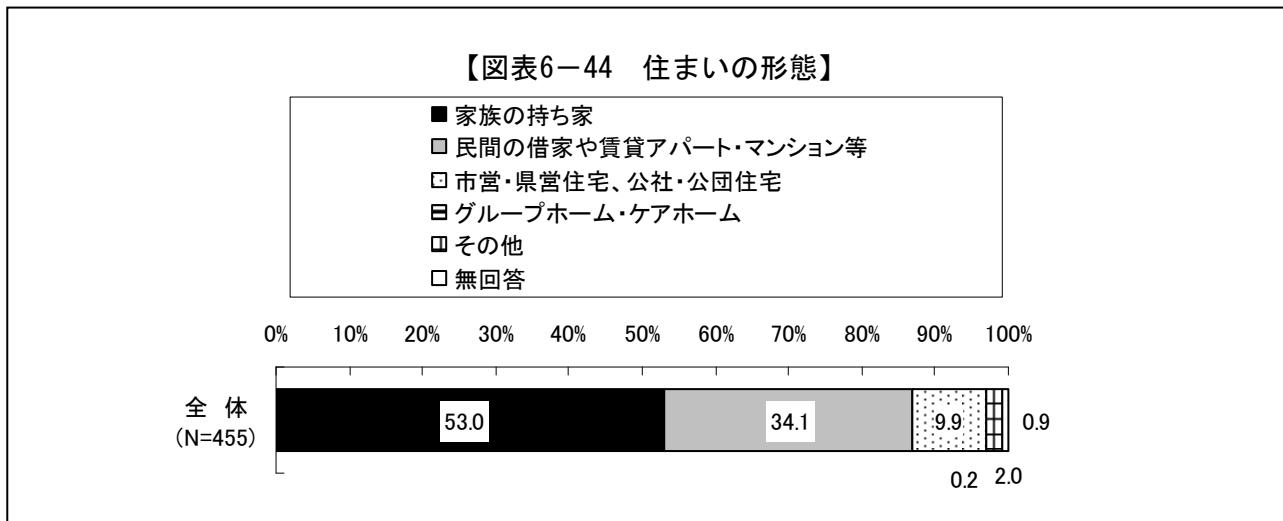
【図表6-43 福岡市への転入時期】(上段=人、下段=%)

調査数	転入時期				
	平成11 年 度	平成18 年 度	平成21 年 度	平成23 年 度	無回答
	30	10	6	6	8
	100.0	33.3	20.0	20.0	26.7

福岡市の療育や保育・教育環境を理由に福岡市に転入した人（30人）に、転入時期をたずねると、「平成11～17年度」が10人で最も多く、次いで「平成23～25年度」が8人、「平成18～20年度」、「平成21・22年度」がそれぞれ6人となっている。

5. 世帯の状況について

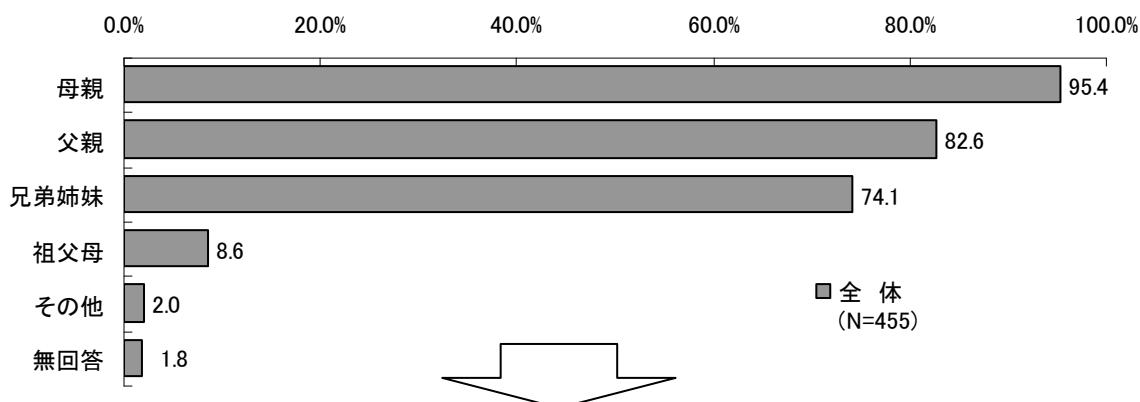
(1) 住まいの形態



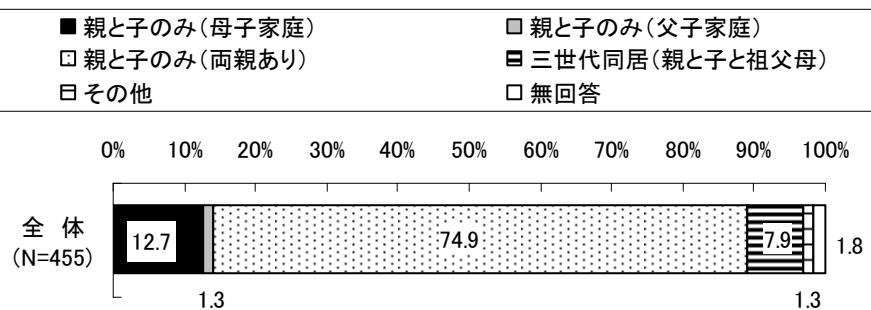
住まいの形態としては「家族の持ち家」(53.0%) が過半数で最も多く、次いで「民間の借家や賃貸アパート・マンション等」(34.1%) となっている。

(2) 同居家族の状況

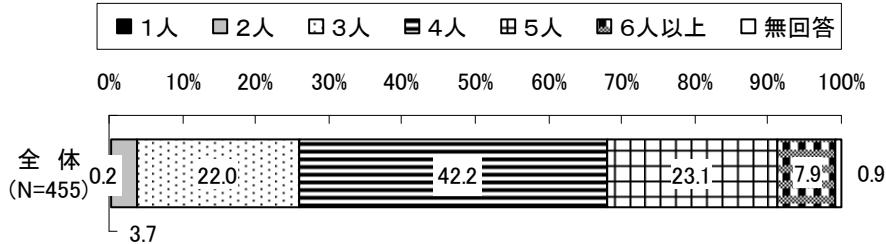
【図表6-45 同居者の続柄】(複数回答)



【図表6-46 世帯の状況】



【図表6-47 本人を含む同居家族の人数】



同居家族は「母親」が95.4%、「父親」が82.6%となっている。また、回答者の4分の3 (74.1%) に兄弟姉妹がいる。

同居家族の続柄から世帯の状況を集約したところ、「親と子のみ (両親あり)」(74.9%) が7割強を占めて最も多い。また、「親と子のみ (母子家庭)」(12.7%) と「親と子のみ (父子家庭)」(1.3%) をあわせると、ひとり親家庭が14.0%となっている。

家族人数は、「4人」(42.2%) が4割を超えて最も多く、これに「5人」(23.1%) と「3人」(22.0%) がそれぞれ2割で続いている。

世帯の状況を障がいの状況別にみても大きな違いはみられないが、年齢別にみると、年齢が高くなるほど母子家庭が増加しており、12歳以上では2割弱を占めている。

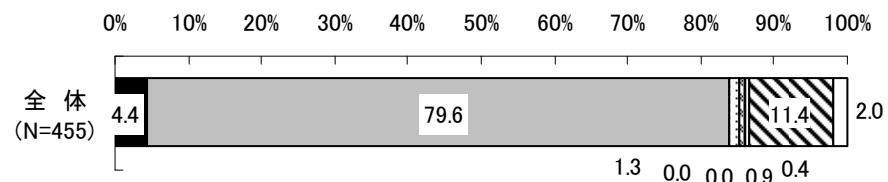
【図表6-48 障がいの状況別、年齢別 世帯の状況】(%)

調査数 (人)	世帯の状況						無回答
	子親 家庭子 の み (母)	子親 家庭子 の み (父)	親親 あり子 の み (両)	と三 子世 と代 祖同 父居 母(一 親)	その 他		
全 体	455	12.7	1.3	74.9	7.9	1.3	1.8
障がいの状況							
身体障がいのみ	80	13.8	1.3	76.3	5.0	1.3	2.5
知的障がいのみ	285	11.9	1.8	74.7	9.1	1.8	0.7
重複障がい	88	14.8	—	73.9	6.8	—	4.5
の無回答	2	—	—	100.0	—	—	—
全 体	455	12.7	1.3	74.9	7.9	1.3	1.8
年齢	0~2歳	19	—	5.3	94.7	—	—
	3~5歳	70	5.7	—	85.7	7.1	—
	6~8歳	84	8.3	1.2	77.4	8.3	2.4
	9~11歳	78	12.8	1.3	79.5	3.8	1.3
	12~14歳	96	18.8	—	63.5	11.5	2.1
	15~17歳	100	18.0	3.0	69.0	9.0	1.0
	無回答	8	12.5	—	75.0	12.5	—

(3) 主な介助者の状況

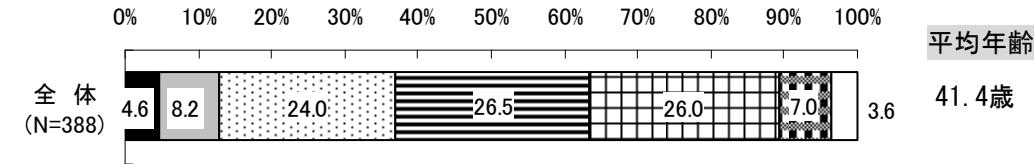
【図表6-49 主な介助者】

■ 父親	□ 母親
□ 祖父母	□ 弟兄姉妹
□ その他の家族	□ サービス事業者(ホームヘルパーなど)
□ その他	□ 世話をしてもらう必要がない
□ 無回答	



【図表6-50 主な介助者（サービス事業者、その他以外）の年齢】

■ 20歳代以下	□ 30～34歳	□ 35～39歳	■ 40～44歳
田 45～49歳	■ 50歳以上	□ 無回答	
4.6	8.2	24.0	26.5
(N=388)			



平均年齢

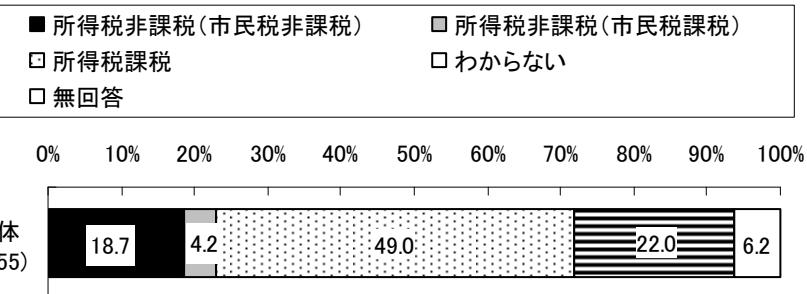
41.4歳

「母親」(79.6%) が8割と大半を占めており、次いで「世話をしてもらう必要がない」(11.4%)、「父親」(4.4%) となっている。

また、主な介助者の平均年齢は41.4歳で、「40～44歳」(26.5%) が最も多く、次いで「45～49歳」(26.0%)、「35～39歳」(24.0%) となっており、35～49歳が8割弱(76.5%)を占めている。

(4) 世帯の課税状況

【図表6-51 世帯の課税状況】



「所得税課税」(49.0%) が半数と最も多く、「所得税非課税 (市民税非課税)」が18.7%、「所得税非課税 (市民税課税)」が4.2%であり、これらをあわせると所得税非課税世帯が22.9%となっている。

世帯状況別にみると、母子家庭では他の世帯に比べて「所得税非課税 (市民税非課税)」(56.9%) の割合が高く、6割弱を占めている。

【図表6-52 世帯状況別 世帯の課税状況】(%)

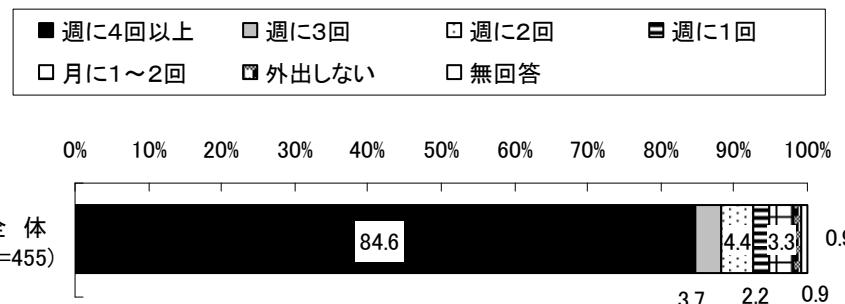
調査数 (人)	全 体	世帯の課税状況				
		非所得税課税～非課税～市民税	課所得～税非課税～市民税	所得税課税	わからぬ	無回答
	全 体	455	18.7	4.2	49.0	22.0
	親と子のみ(母子家庭)	58	56.9	5.2	15.5	22.4
世	親と子のみ(父子家庭)	6	33.3	16.7	—	50.0
帯	親と子のみ(両親あり)	341	11.7	3.8	58.7	19.9
状	三世代同居(親と子と祖父母)	36	27.8	—	38.9	30.6
況	その他	6	—	16.7	—	50.0
	無回答	8	—	12.5	—	62.5

6. 外出の状況等について

(1) 外出の頻度

問23 お子さんは、通園・通学や通勤、通院、買い物、レジャーなどの外出を1ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。(○は1つだけ)

【図表6-53 外出の頻度】



「週に4回以上」(84.6%) が8割を超えて最も多く、その他はいずれも5%未満となっている。障がいの状況別にみると、各障がいとも「週に4回以上」の割合が最も高いが、知的障がい児では90.2%と特に高くなっている。

年齢別にみると、0~2歳の低年齢児は他に比べて外出頻度が低い。

【図表6-54 障がいの状況別、年齢別 外出の頻度】(%)

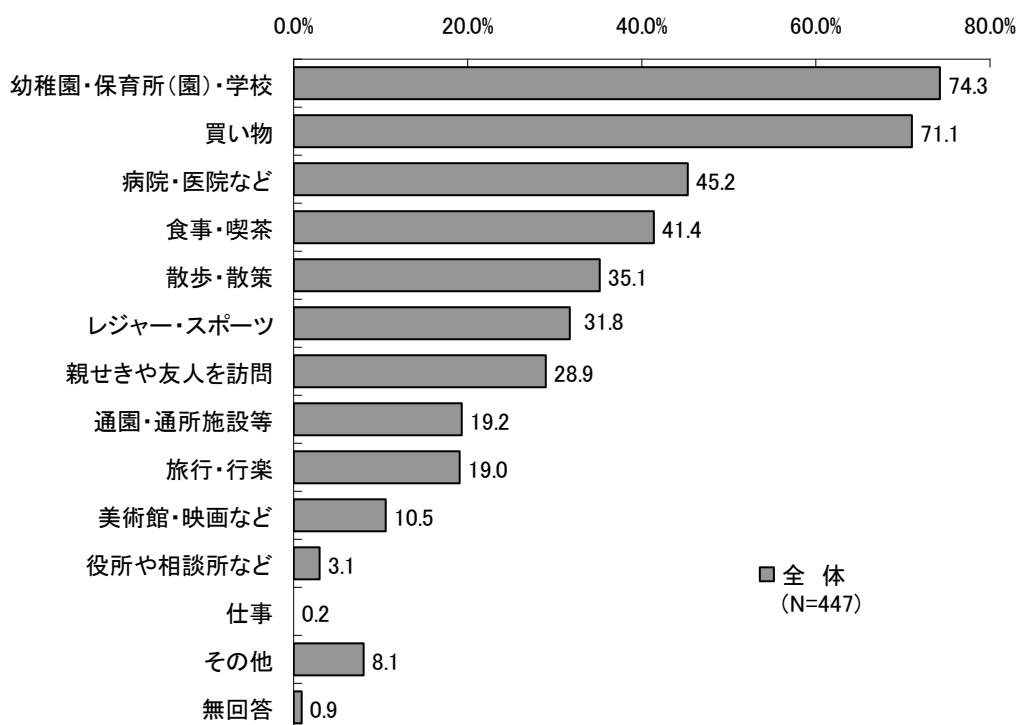
調査数(人)	障がいの状況	外出の頻度						
		週に4回以上	週に3回	週に2回	週に1回	月に1~2回	外出しない	無回答
全 体	455	84.6	3.7	4.4	2.2	3.3	0.9	0.9
身体障がいのみ	80	78.8	2.5	10.0	2.5	6.3	-	-
知的障がいのみ	285	90.2	2.5	3.9	1.8	1.1	-	0.7
重複障がい	88	71.6	9.1	1.1	3.4	8.0	4.5	2.3
無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	-
全 体	455	84.6	3.7	4.4	2.2	3.3	0.9	0.9
年齢	0~2歳	19	36.8	10.5	31.6	10.5	10.5	-
	3~5歳	70	82.9	7.1	2.9	2.9	4.3	-
	6~8歳	84	91.7	3.6	-	1.2	1.2	2.4
	9~11歳	78	83.3	5.1	5.1	-	3.8	1.3
	12~14歳	96	88.5	1.0	4.2	2.1	1.0	-
	15~17歳	100	86.0	1.0	4.0	3.0	5.0	1.0
	無回答	8	87.5	12.5	-	-	-	-

(2) 主な外出先

[問23で「1」～「5」を選ばれた方におたずねします]

問23-1 どのようなところに外出することが多いですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-55 主な外出先】



月に1回以上外出する人に主な外出先をたずねたところ、「幼稚園・保育所(園)・学校」(74.3%) や「買い物」(71.1%) が7割を超えて多く、次いで「病院・医院など」(45.2%)、「食事・喫茶」(41.4%) となっている。

障がいの状況別にみると、知的障がい児（知的障がいのみ）では他に比べて「買い物」(76.0%) や「レジャー・スポーツ」(36.7%) 等の、通園・通学や通院等以外での外出の割合が高い。また、身体障がい児・重複障がい児は、知的障がい児に比べて「病院・医院など」の割合が高く、6割前後を占めている。

年齢別にみると、0～2歳の低年齢児では他に比べて「病院・医院など」(84.2%) の割合が顕著に高い。

【図表6-56 障がいの状況別、年齢別 主な外出先】(%)

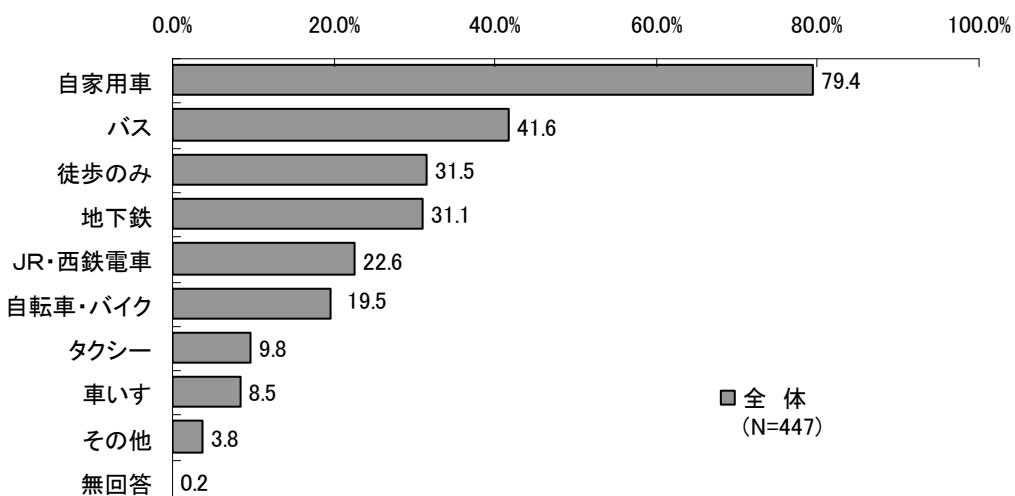
調査数 (人)	調査 数 (人)	主な外出先													
		幼稚園 ・ 学保 校育 所	買 い 物	病 院 ・ 医 院 な ど	食 事 ・ 喫 茶	散 歩 ・ 散 策	ポ レ ジ ツ ヤ ー ・ ス	訪 親 問 せ き や 友 人 を	等 通 園 ・ 通 所 施 設	旅 行 ・ 行 楽	ど 美 術 館 ・ 映 画 な	ど 役 所 や 相 談 所 な	仕 事	そ の 他	無 回 答
全 体	447	74.3	71.1	45.2	41.4	35.1	31.8	28.9	19.2	19.0	10.5	3.1	0.2	8.1	0.9
障がいの状況															
身体障がいのみ	80	67.5	67.5	57.5	37.5	33.8	30.0	35.0	21.3	16.3	7.5	3.8	—	6.3	—
知的障がいのみ	283	78.1	76.0	34.6	45.6	37.1	36.7	30.4	16.3	21.9	12.7	2.5	0.4	9.2	1.1
重複障がい	82	67.1	58.5	69.5	30.5	29.3	15.9	17.1	28.0	12.2	4.9	4.9	—	6.1	1.2
無回答	2	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—
全 体	447	74.3	71.1	45.2	41.4	35.1	31.8	28.9	19.2	19.0	10.5	3.1	0.2	8.1	0.9
年齢															
0～2歳	19	5.3	68.4	84.2	21.1	36.8	26.3	42.1	57.9	5.3	—	10.5	—	10.5	—
3～5歳	70	32.9	78.6	57.1	34.3	44.3	34.3	30.0	58.6	22.9	10.0	4.3	—	1.4	—
6～8歳	82	86.6	78.0	47.6	51.2	39.0	40.2	32.9	18.3	32.9	8.5	3.7	—	7.3	—
9～11歳	76	86.8	60.5	50.0	43.4	42.1	31.6	35.5	10.5	18.4	9.2	—	—	13.2	2.6
12～14歳	93	88.2	77.4	34.4	44.1	25.8	35.5	21.5	—	15.1	11.8	4.3	—	6.5	2.2
15～17歳	99	82.8	62.6	35.4	38.4	30.3	22.2	26.3	10.1	12.1	14.1	2.0	—	10.1	—
無回答	8	87.5	75.0	25.0	37.5	12.5	12.5	—	12.5	12.5	12.5	—	12.5	12.5	—

(3) 外出時の移動手段

[問23で「1」～「5」を選ばれた方におたずねします]

問23-2 どのような方法で、あるいはどのような移動手段を使って外出しますか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-57 外出時の移動手段】



月に1回以上外出する人に外出時の移動手段をたずねたところ、「自家用車」(79.4%)が8割を占めて最も多く、次いで「バス」(41.6%)、「徒歩のみ」(31.5%)、「地下鉄」(31.1%)となっている。

障がいの状況別にみると、重複障がい児では他に比べて「自家用車」(90.2%)や「車いす」(28.0%)等の割合が高く、知的障がい児(知的障がいのみ)では「バス」(49.8%)や「徒歩のみ」(38.5%)等の割合が高い。

年齢別にみると、12歳以上では「バス」の割合が高く、過半数となっている。

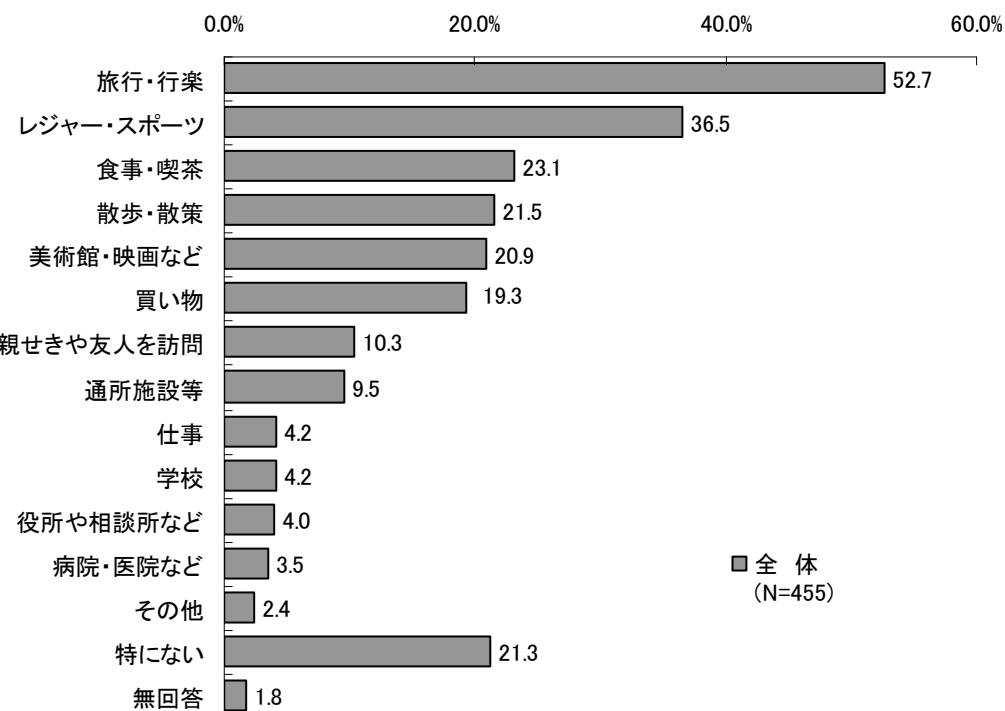
【図表6-58 障がいの状況別、年齢別 外出時の移動手段】(%)

	調査数 (人)	外出時の移動手段									
		自家用車	バス	徒歩のみ	地下鉄	JR・西鉄電車	自転車・バイク	タクシー	車いす	その他	無回答
全 体	447	79.4	41.6	31.5	31.1	22.6	19.5	9.8	8.5	3.8	0.2
状況の 分類	身体障がいのみ	80	77.5	32.5	26.3	27.5	20.0	20.0	13.8	18.8	5.0
	知的障がいのみ	283	77.0	49.8	38.5	35.3	26.1	23.3	7.4	—	3.2
	重複障がい	82	90.2	22.0	13.4	18.3	12.2	4.9	14.6	28.0	4.9
	無回答	2	50.0	50.0	—	100.0	50.0	50.0	—	—	—
全 体	447	79.4	41.6	31.5	31.1	22.6	19.5	9.8	8.5	3.8	0.2
年齢	0～2歳	19	73.7	15.8	21.1	31.6	15.8	—	21.1	5.3	10.5
	3～5歳	70	84.3	37.1	27.1	25.7	21.4	21.4	14.3	2.9	8.6
	6～8歳	82	86.6	28.0	36.6	23.2	13.4	20.7	7.3	8.5	1.2
	9～11歳	76	85.5	40.8	32.9	43.4	28.9	19.7	11.8	13.2	6.6
	12～14歳	93	76.3	54.8	38.7	32.3	25.8	19.4	8.6	11.8	3.2
	15～17歳	99	70.7	50.5	24.2	29.3	25.3	21.2	6.1	7.1	—
	無回答	8	62.5	25.0	37.5	50.0	12.5	12.5	—	—	—

(4) 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ

問24 今後、外出の回数を増やしたいところや、新たに外出したいところはどのようなところですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-59 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ】



外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところとしては「旅行・行楽」(52.7%)が半数強を占めて最も多く、次いで「レジャー・スポーツ」(36.5%)、「食事・喫茶」(23.1%)、「散歩・散策」(21.5%)、「美術館・映画など」(20.9%)が2割台で続いている。また、「特にない」(21.3%)も2割強を占めている。

年齢別にみると、0~2歳では「旅行・行楽」(73.7%)や「食事・喫茶」(42.1%)等の割合が高い。また、15~17歳では「通所施設」(22.0%)や「仕事」(11.0%)の割合が高くなっている。

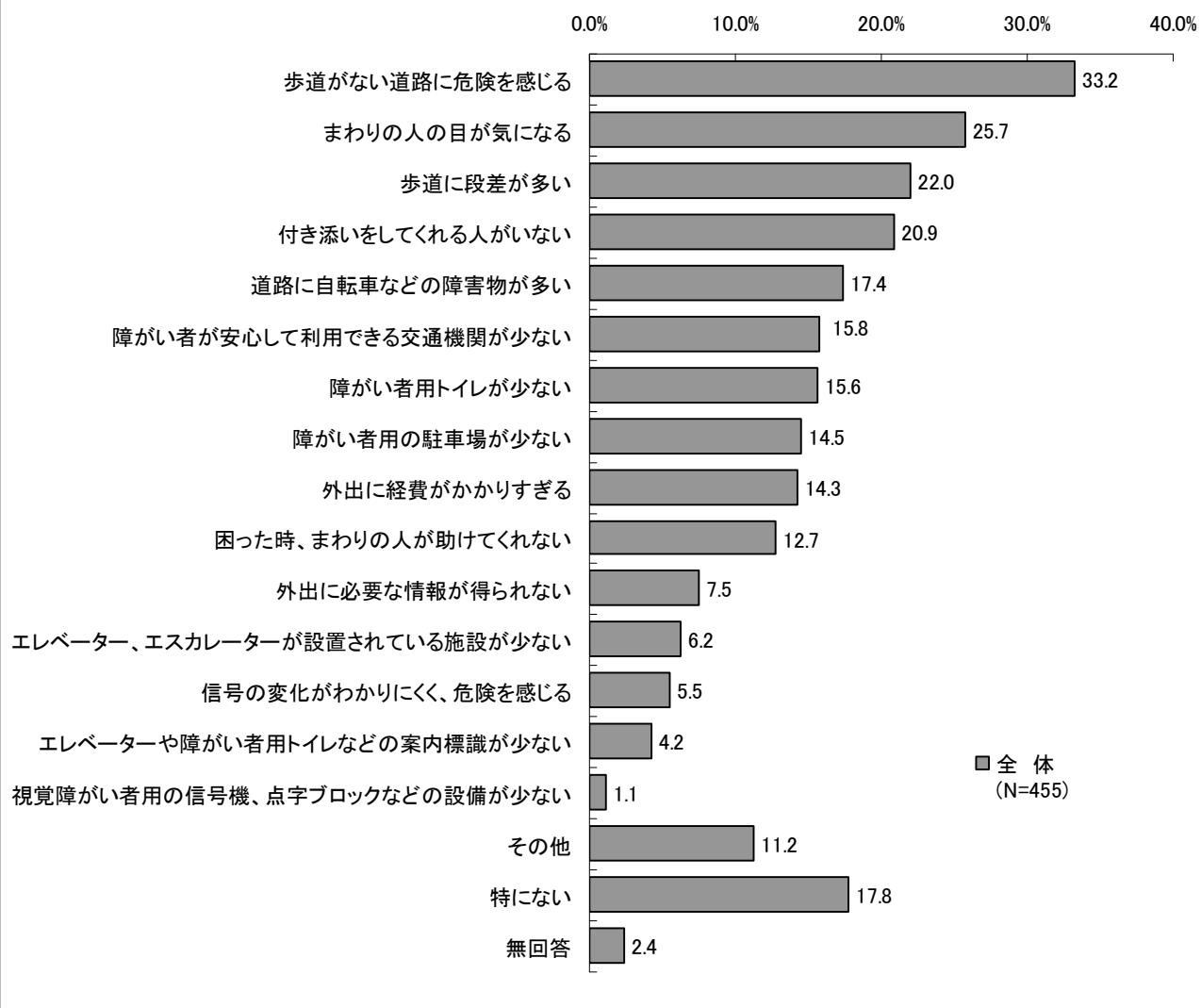
【図表6-60 年齢別 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ】(%)

調査数 (人)	外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ																
	旅行・行楽	ポーラジツヤース	食事・喫茶	散歩・散策	美術館・映画など	買い物	訪親せきや友人を	通所施設等	仕事	学校	役所や相談所など	病院・医院など	その他	特にない	無回答		
全 体	455	52.7	36.5	23.1	21.5	20.9	19.3	10.3	9.5	4.2	4.2	4.0	3.5	2.4	21.3	1.8	
年齢	0~2歳	19	73.7	31.6	42.1	31.6	5.3	15.8	10.5	5.3	—	—	—	—	15.8	—	
	3~5歳	70	54.3	38.6	25.7	18.6	18.6	15.7	11.4	5.7	—	1.4	—	1.4	2.9	24.3	1.4
	6~8歳	84	42.9	38.1	14.3	16.7	23.8	13.1	8.3	3.6	—	6.0	1.2	1.2	3.6	23.8	1.2
	9~11歳	78	56.4	38.5	26.9	28.2	21.8	16.7	15.4	6.4	1.3	5.1	5.1	5.1	2.6	21.8	1.3
	12~14歳	96	53.1	40.6	24.0	21.9	21.9	27.1	10.4	7.3	7.3	6.3	3.1	3.1	3.1	16.7	4.2
	15~17歳	100	52.0	31.0	22.0	20.0	20.0	22.0	7.0	22.0	11.0	2.0	9.0	6.0	1.0	22.0	1.0
	無回答	8	62.5	12.5	12.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	—	12.5	12.5	12.5	—	25.0	—

(5) 外出時に不便や困難を感じること

問25 お子さんの外出に関して、どのようなことに不便や困難を感じますか。(○は5つまで)

【図表6-61 外出時に不便や困難を感じること】



「歩道がない道路に危険を感じる」(33.2%) が3割強と最も多く、次いで「まわりの人の目が気になる」(25.7%)、「歩道に段差が多い」(22.0%)、「付き添いをしてくれる人がいない」(20.9%) が2割台で続いている。

障がいの状況別にみると、重複障がい児や身体障がい児（身体障がいのみ）では知的障がい児（知的障がいのみ）に比べて、「歩道に段差が多い」や「障がい者用駐車場が少ない」等の割合が高い。また、重複障がい児では他に比べて「障がい者用トイレが少ない」(37.5%) や「障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない」(28.4%)、「エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない」(18.2%) 等の割合が高い。一方、知的障がい児では他に比べて「困った時、まわりの人が助けてくれない」(16.8%) の割合が2割弱と高い。

年齢別にみると、5歳以下では「障がい者用の駐車場が少ない」や「エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない」の割合が高くなっている。

【図表6-62 障がいの状況別、年齢別 外出時に不便や困難を感じること】(%)

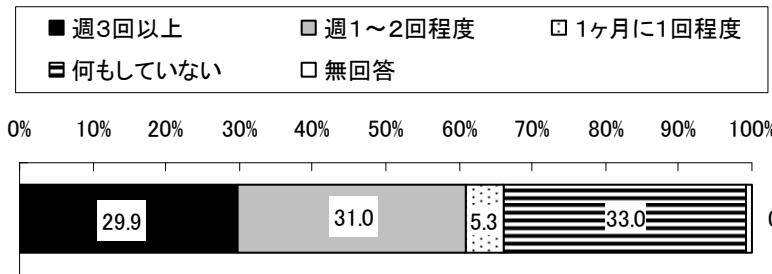
調査数(人)	外出時に不便や困難を感じること										
	歩道がない道路に危険を感じる人の目が気に	なるまわりの人の目が気に	歩道に段差が多い	人が付き添いをしてくれる	害道路が多い自転車などの障	な用障いがいする者が安心機関して少利	な障がい者用トイレが少	少障がない者用の駐車場が	外出に経費がかかりす		
全 体	455	33.2	25.7	22.0	20.9	17.4	15.8	15.6	14.5	14.3	
障	身体障がいのみ	80	30.0	11.3	41.3	10.0	20.0	15.0	12.5	22.5	11.3
状	知的障がいのみ	285	35.8	29.8	11.2	23.9	17.2	12.3	9.8	4.9	16.8
況	重複障がい	88	28.4	26.1	39.8	21.6	15.9	28.4	37.5	38.6	9.1
い	の無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体	455	33.2	25.7	22.0	20.9	17.4	15.8	15.6	14.5	14.3	
年 齢	0~2歳	19	21.1	36.8	36.8	15.8	21.1	15.8	15.8	31.6	10.5
	3~5歳	70	30.0	25.7	24.3	11.4	18.6	12.9	10.0	20.0	11.4
	6~8歳	84	45.2	22.6	22.6	16.7	16.7	13.1	13.1	11.9	11.9
	9~11歳	78	29.5	35.9	17.9	26.9	20.5	16.7	16.7	14.1	15.4
	12~14歳	96	33.3	26.0	20.8	27.1	13.5	12.5	24.0	14.6	15.6
	15~17歳	100	30.0	19.0	20.0	22.0	15.0	21.0	13.0	9.0	17.0
	無回答	8	37.5	12.5	37.5	12.5	50.0	37.5	12.5	25.0	12.5

調査数(人)	外出時に不便や困難を感じること										
	が困助つけて時、くれまなわいりの人	ら外出なにい必要な情報が得	いレエる レ施タベ設 一ががタ少設 一な置いさエられス	く信号、の危変化をが感わじかりに	標者エ識用レがトベ少イ なレタ ななどやの障案が内い	の機視設、覚備点障が字が少ブいな口者なツ用クのな信号	その他	特にない	無回答		
全 体	455	12.7	7.5	6.2	5.5	4.2	1.1	11.2	17.8	2.4	
障	身体障がいのみ	80	6.3	5.0	11.3	5.0	5.0	5.0	11.3	23.8	2.5
状	知的障がいのみ	285	16.8	8.4	1.1	7.4	2.5	0.4	10.2	20.0	2.5
況	重複障がい	88	5.7	6.8	18.2	-	9.1	-	14.8	3.4	2.3
い	の無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
全 体	455	12.7	7.5	6.2	5.5	4.2	1.1	11.2	17.8	2.4	
年 齢	0~2歳	19	-	10.5	15.8	-	-	-	-	15.8	5.3
	3~5歳	70	14.3	7.1	11.4	2.9	5.7	-	14.3	18.6	1.4
	6~8歳	84	9.5	6.0	1.2	6.0	1.2	-	15.5	13.1	3.6
	9~11歳	78	20.5	6.4	6.4	7.7	6.4	3.8	14.1	19.2	1.3
	12~14歳	96	12.5	3.1	5.2	5.2	1.0	7.3	11.5	4.2	
	15~17歳	100	12.0	13.0	6.0	6.0	3.0	1.0	10.0	26.0	1.0
	無回答	8	-	12.5	-	12.5	12.5	-	-	25.0	-

(6) スポーツの頻度

問26 お子さんは、どの程度スポーツ（散歩やランニング程度のものを含む）をしていますか。
(○は1つだけ)

【図表6-63 スポーツの頻度】



回答者全体では「何もしていない」(33.0%)が3割強を占めて最も多く、次いで「週1~2回程度」(31.0%)、「週3回以上」(29.9%)、「1か月に1回程度」(5.3%)となっている。

障がいの状況別にみると、スポーツを何もしていない人の割合は、身体障がい児や重複障がい児で高く、4~6割を占めている。

【図表6-64 障がい状況別 スポーツの頻度】(%)

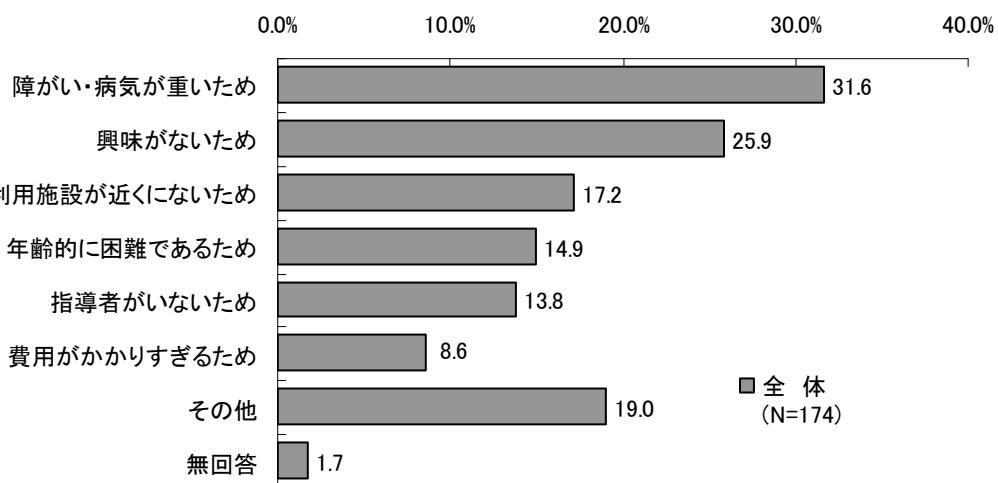
調査数 (人)		スポーツの頻度				
		週3回以上	週1~2回程度	1ヶ月に1回程度	何もしていない	無回答
全 体	455	29.9	31.0	5.3	33.0	0.9
障がい状況						
身体障がいのみ	80	27.5	25.0	1.3	45.0	1.3
知的障がいのみ	285	37.2	36.1	5.6	20.4	0.7
重複障がい	88	8.0	19.3	8.0	63.6	1.1
の無回答	2	50.0	50.0	—	—	—

(7) スポーツをしていない理由

[問26で「3」「4」を選ばれた方におたずねします]

問26-1 それはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-65 スポーツをしていない理由】



スポーツをしていない人、及び1ヶ月に1回程度しかしない人に、その理由をたずねたところ「障がい・病気が重いため」(31.6%) が3割強と最も多く、次いで「興味がないため」(25.9%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「年齢的に困難であるため」(27.0%) の割合が3割弱で高くなっている。また、身体障がい児と重複障がい児では「障がい・病気が重いため」の割合が4割を超えて高い。一方、知的障がい児では「興味がないため」(37.8%)、「指導者がいないため」(21.6%) 等の割合が高い。

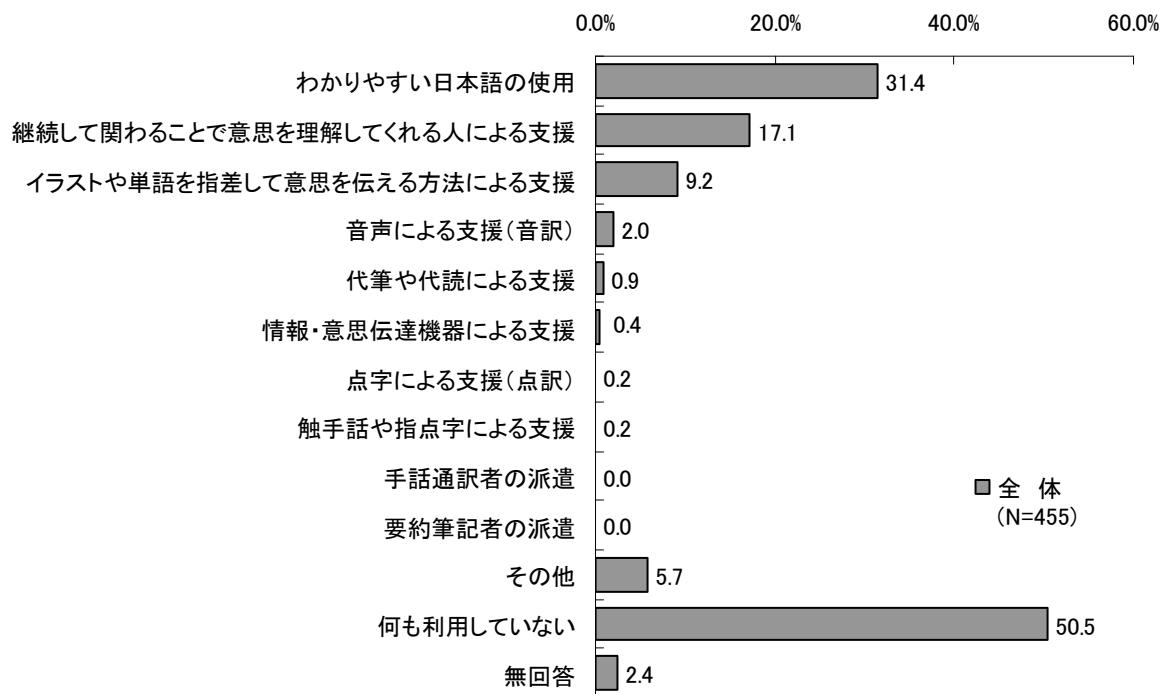
【図表6-66 障がいの状況別 スポーツをしていない理由】(%)

調査数 (人)	全 体	スポーツをしていない理由							
		た障 めが い ・ 病 気 が 重 い	興 味 が な い た め	い利 用 め 施 設 が 近 く に な る	た年 め 年 齢 的 に 困 難 で あ る	指 導 者 が い な い た め	た費 用 が か か り す ぎ る	そ の 他	無 回 答
全 体	174	31.6	25.9	17.2	14.9	13.8	8.6	19.0	1.7
障がいの状況	身体障がいのみ	37	45.9	21.6	5.4	27.0	5.4	5.4	16.2
	知的障がいのみ	74	6.8	37.8	23.0	12.2	21.6	12.2	24.3
	重複障がい	63	52.4	14.3	17.5	11.1	9.5	6.3	14.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

(8) 利用しているコミュニケーション支援

問27 お子さんは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表6-67 利用しているコミュニケーション支援】



「何も利用していない」(50.5%)が半数となっている。利用しているものとしては、「わかりやすい日本語の使用」(31.4%)、「継続して関わることで意思を理解してくれる人による支援」(17.1%)、「イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援」(9.2%)等が比較的多くなっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「何も利用していない」(80.0%)の割合が顕著に高く、8割となっている。また、知的障がい児では「わかりやすい日本語の使用」(41.1%)、重複障がい児では「継続して関わることで意思を理解してくれる人による支援」(34.1%)の割合がそれぞれ高くなっている。

年齢別にみると、0~2歳では「何も利用していない」(84.2%)の割合が顕著に高く、8割を超える。

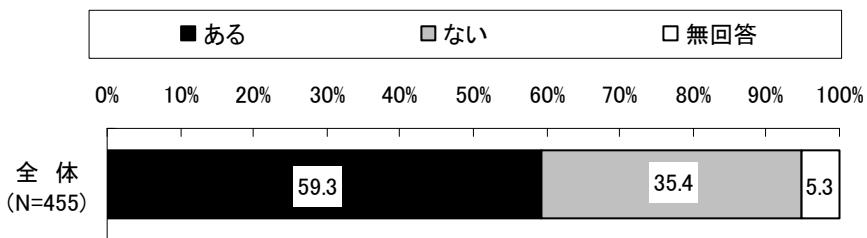
【図表6-68 障がいの状況別、年齢別 利用しているコミュニケーション支援】(%)

調査数(人)	利用しているコミュニケーション支援															
	のわ か り や す い 日 本 語	れで 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	れ 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	の 差 法 し ラ ー ス ト の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	イ ラ ー ス ト の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	音 声 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	音 声 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	代 筆 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	代 筆 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	に 情 よ 報 る 支 援 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	に 情 よ 報 る 支 援 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	手 話 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	手 話 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	要 約 筆 記 者 の 意 思 し に を よ 理 解 わ る 支 援 て こ く と	その 他	何 も 利 用 し て い な い
全 体	455	31.4	17.1	9.2	2.0	0.9	0.4	0.2	0.2	-	-	5.7	50.5	2.4		
障がいの状況別																
身体障がいのみ	80	7.5	6.3	1.3	2.5	1.3	2.5	1.3	1.3	-	-	2.5	80.0	3.8		
知的障がいのみ	285	41.1	15.1	11.9	1.8	0.4	-	-	-	-	-	6.0	45.3	2.1		
重複障がい	88	22.7	34.1	8.0	2.3	2.3	-	-	-	-	-	5.7	42.0	2.3		
無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-		
年齢別																
0~2歳	19	5.3	-	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	84.2	10.5		
3~5歳	70	25.7	5.7	7.1	1.4	-	-	-	-	-	-	17.1	55.7	2.9		
6~8歳	84	38.1	17.9	11.9	1.2	-	1.2	-	-	-	-	1.2	42.9	4.8		
9~11歳	78	28.2	24.4	10.3	-	1.3	-	-	-	-	-	5.1	50.0	-		
12~14歳	96	37.5	18.8	11.5	4.2	2.1	1.0	-	1.0	-	-	2.1	45.8	2.1		
15~17歳	100	31.0	21.0	6.0	3.0	1.0	-	1.0	-	-	-	7.0	52.0	1.0		
無回答	8	37.5	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-		

(9) コミュニケーションで困っていることの有無

問28 お子さんは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。（○は1つだけ）

【図表6-69 コミュニケーションで困っていることの有無】



「ある」(59.3%) が6割を占めており、「ない」(35.4%) を上回っている。

障がいの状況別にみると、知的・重複障がい児では、身体障がい児に比べてコミュニケーションで困っていることが「ある」の割合が高く、6割を超えていている。

年齢別にみると、0~2歳以外では、「ある」の割合が過半数となっている。

【図表6-70 障がいの状況別、年齢別 コミュニケーションで困っていることの有無】(%)

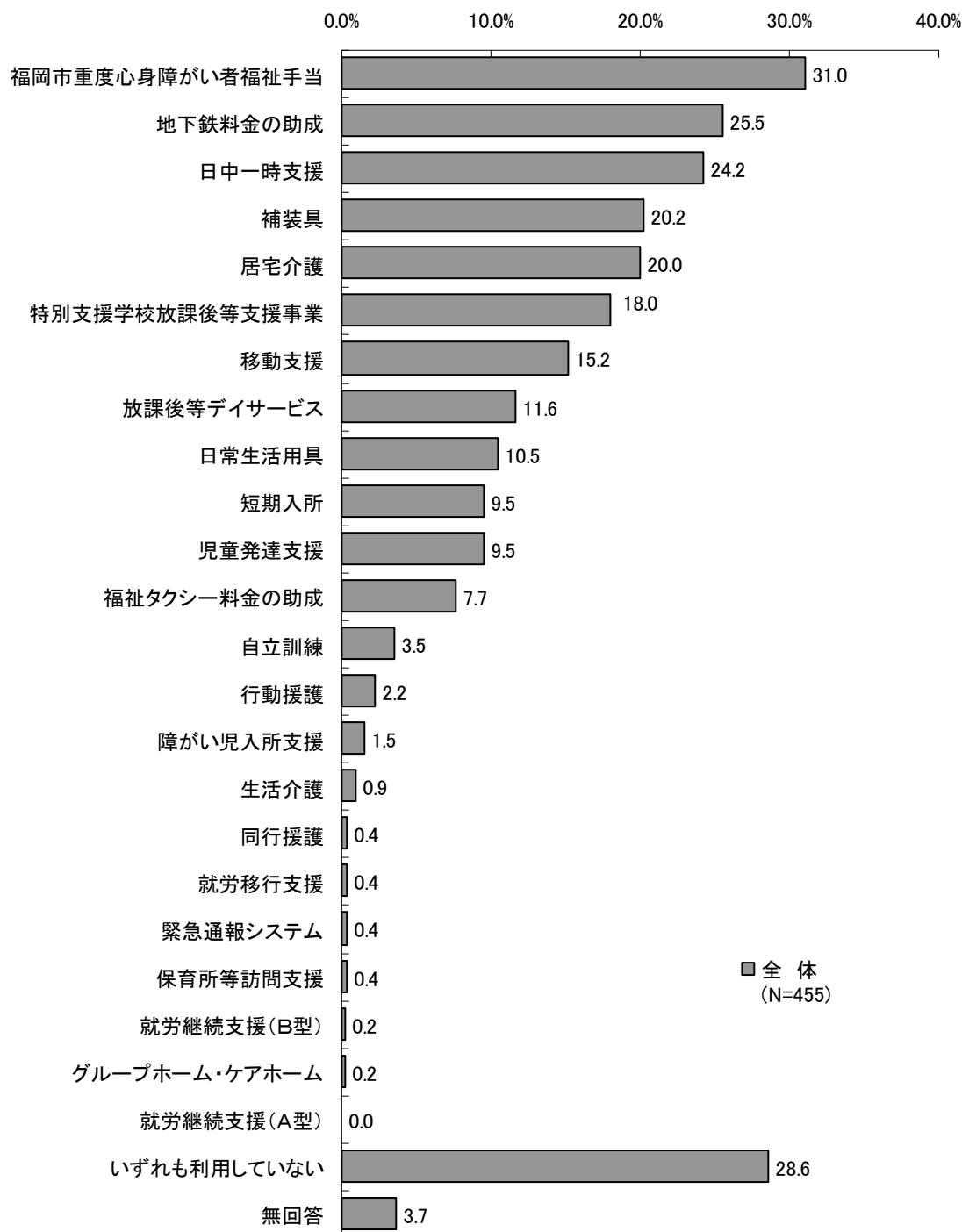
調査数（人）	コミュニケーションで困っていることの有無			無回答
	ある	ない	無回答	
全 体	455	59.3	35.4	5.3
障がいの状況				
身体障がいのみ	80	26.3	67.5	6.3
知的障がいのみ	285	66.3	29.5	4.2
重複障がい	88	67.0	25.0	8.0
無回答	2	50.0	50.0	-
全 体	455	59.3	35.4	5.3
年齢				
0~2歳	19	26.3	57.9	15.8
3~5歳	70	60.0	37.1	2.9
6~8歳	84	66.7	27.4	6.0
9~11歳	78	59.0	35.9	5.1
12~14歳	96	64.6	29.2	6.3
15~17歳	100	54.0	42.0	4.0
無回答	8	62.5	37.5	-

7. 福祉サービスの利用について

(1) 現在利用している福祉サービス

問29-1 1～23の福祉サービス・事業の中で、現在、利用しているものを選んでください。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-71 現在利用している福祉サービス】



現在利用している福祉サービスとしては「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(31.0%) が3割強を占めて最も多く、これに「地下鉄料金の助成」(25.5%)、「日中一時支援」(24.2%)、「補装具」(20.2%)、「居宅介護」(20.0%) がそれぞれ2割台で続いている。また、「いずれも利用していない」(28.6%) は3割弱となっている。

障がいの状況別にみると、重複障がい児では他に比べて「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(61.4%) や「補装具」(53.4%)、「居宅介護」(47.7%) をはじめ、多くの項目で利用している人の割合が高い。また、身体障がい児では「補装具」(47.5%) と「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(45.0%) の割合が高くなっている。一方、知的障がい児では「いずれも利用していない」(38.6%) の割合が4割弱で高い。

年齢別にみると、9歳以上では「居宅介護」や「短期入所」、「移動支援」、「地下鉄料金の助成」等で利用している人の割合が高い。また、9~14歳では「放課後デイサービス」と「特別支援学校放課後等支援事業」の割合が高くなっている。さらに、0~2歳では「補装具」(42.1%) の割合が4割強と高い。

【図表6-72 障がいの状況別、年齢別 現在利用している福祉サービス】(%)

調査数 (人)	現在利用している福祉サービス														
	が福 い 者 市 福 重 度 手 心 当 身 障	地 下 鉄 料 金 の 助 成	日 中 一 時 支 援	補 装 具	居 宅 介 護	後 特 別 支 援 事 業 校 放 課	移 動 支 援	ビ ス 放 課 後 等 デ イ サ ー	日 常 生 活 用 具	短 期 入 所	児 童 発 達 支 援	の 福 祉 タ ク シ ー 料 金	自 立 訓 練		
全 体	455	31.0	25.5	24.2	20.2	20.0	18.0	15.2	11.6	10.5	9.5	9.5	7.7	3.5	
障 状 況 の 重複障がいの無回答	80	45.0	31.3	15.0	47.5	16.3	5.0	6.3	5.0	18.8	3.8	13.8	10.0	8.8	
身体障がいのみ	285	17.9	22.1	22.1	2.1	12.6	19.6	14.0	12.6	—	8.8	9.1	4.9	1.4	
知的障がいのみ	88	61.4	31.8	39.8	53.4	47.7	25.0	27.3	14.8	37.5	17.0	6.8	14.8	5.7	
全 体	455	31.0	25.5	24.2	20.2	20.0	18.0	15.2	11.6	10.5	9.5	9.5	7.7	3.5	
年 齢	0~2歳	19	42.1	5.3	31.6	42.1	15.8	—	—	5.3	5.3	47.4	15.8	—	
	3~5歳	70	27.1	8.6	38.6	27.1	11.4	—	1.4	—	11.4	—	38.6	7.1	8.6
	6~8歳	84	22.6	14.3	27.4	19.0	9.5	13.1	4.8	11.9	11.9	2.4	7.1	2.4	1.2
	9~11歳	78	35.9	29.5	19.2	21.8	20.5	23.1	21.8	17.9	12.8	14.1	—	10.3	3.8
	12~14歳	96	31.3	35.4	18.8	20.8	28.1	34.4	25.0	18.8	9.4	13.5	1.0	9.4	3.1
	15~17歳	100	35.0	37.0	19.0	11.0	26.0	18.0	22.0	9.0	9.0	15.0	—	7.0	3.0
	無回答	8	25.0	37.5	25.0	12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	12.5	—	—	12.5	—

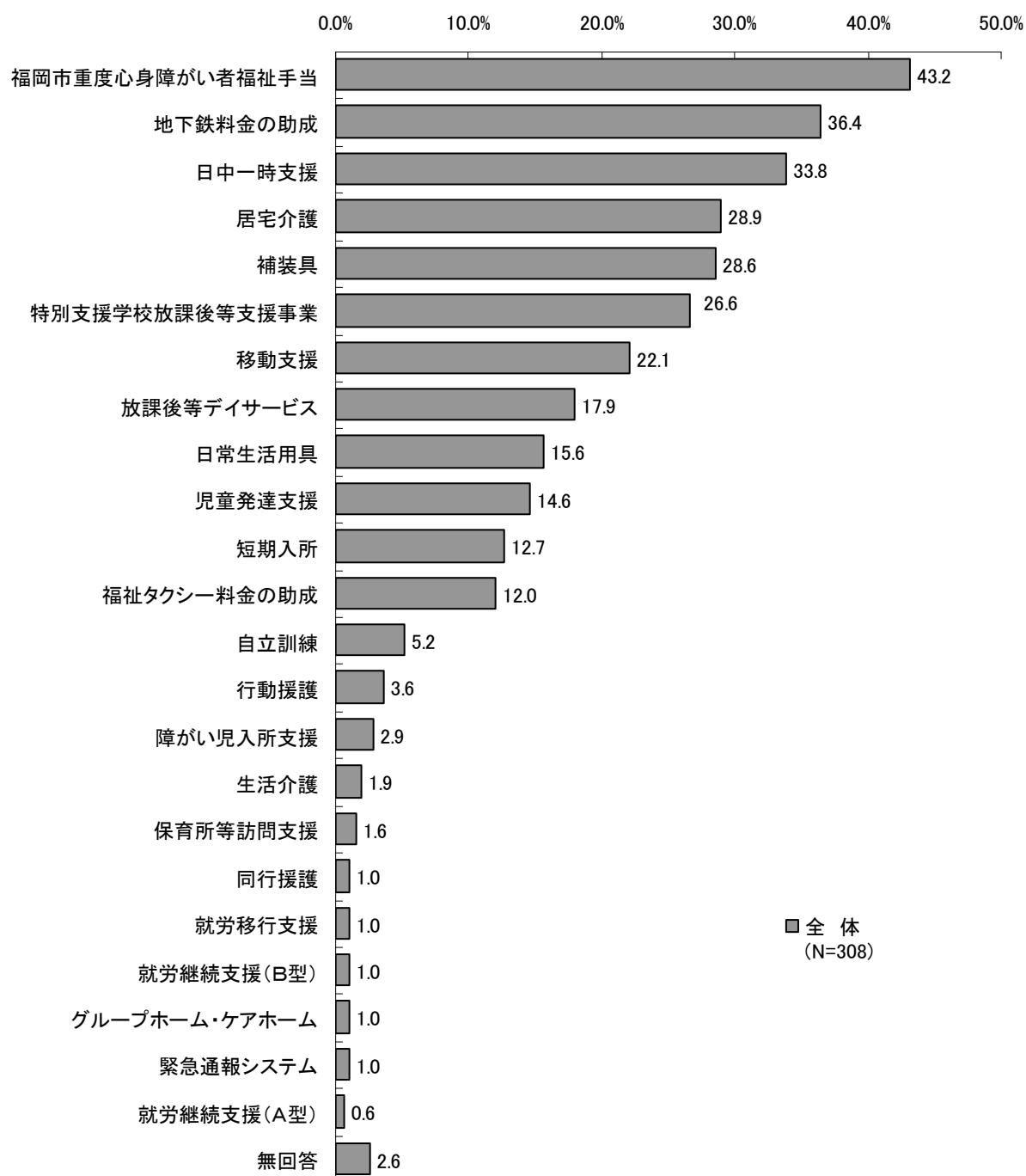
調査数 (人)	現在利用している福祉サービス												
	行 動 援 護	障 が い 児 入 所 支 援	生 活 介 護	同 行 援 護	就 労 移 行 支 援	緊 急 通 報 シ ス テ ム	保 育 所 等 訪 問 支 援	型 就 労 一 一 B	ケ グ 一 一 B	型 就 労 一 一 A	い い な ず れ も 利 用 し て	無 回 答	
全 体	455	2.2	1.5	0.9	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	—	28.6	3.7
障 状 況 の 重複障がいの無回答	80	—	1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	15.0	3.8
身体障がいのみ	285	2.8	1.4	1.4	0.7	0.7	0.4	0.7	0.4	—	—	38.6	4.2
知的障がいのみ	88	2.3	2.3	—	—	—	1.1	—	—	1.1	—	8.0	2.3
全 体	455	2.2	1.5	0.9	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	—	28.6	3.7
年 齢	0~2歳	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.5	—
	3~5歳	70	—	7.1	1.4	—	—	—	—	—	—	18.6	4.3
	6~8歳	84	—	1.2	—	—	1.2	2.4	—	1.2	—	36.9	2.4
	9~11歳	78	2.6	—	1.3	—	—	—	—	—	—	29.5	1.3
	12~14歳	96	1.0	1.0	—	1.0	—	—	—	—	—	29.2	6.3
	15~17歳	100	6.0	—	—	1.0	2.0	1.0	—	1.0	—	31.0	5.0
	無回答	8	12.5	—	25.0	—	—	—	—	—	—	25.0	—

(2) 役に立ったと思う福祉サービス

[問29-1で「1」～「23」を選ばれた方におたずねします]

問29-2 1～23の福祉サービス・事業の中で、役に立ったと思うものを選んでください。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-73 役に立ったと思う福祉サービス】



役に立った福祉サービスとしては「福岡市重度心身障がい者福祉手当」(43.2%) が4割強を占めて最も多く、次いで「地下鉄料金の助成」(36.4%)、「日中一時支援」(33.8%)、「居宅介護」(28.9%)、「補装具」(28.6%)、「特別支援学校放課後等支援事業」(26.6%) がそれぞれ3割前後で続いている。

障がいの状況別にみると、身体・重複障がい児では「日常生活用具」や「補装具」、「福岡市重度心身障がい者福祉手当」の割合が高い。また、重複障がい児では「居宅介護」(51.9%)の割合も高くなっている。一方、知的障がい児では「特別支援学校放課後等支援事業」(33.7%)の割合が3割強で高い。

年齢別にみると、9歳以上では「居宅介護」や「短期入所」、「移動支援」、「地下鉄料金の助成」等の割合が高い。また、9~14歳では「放課後デイサービス」と「特別支援学校放課後等支援事業」の割合が高くなっている。さらに、0~5歳では「日中一時支援」と「児童発達支援」の割合が高い。

【図表6-74 障がいの状況別、年齢別 役に立ったと思う福祉サービス】(%)

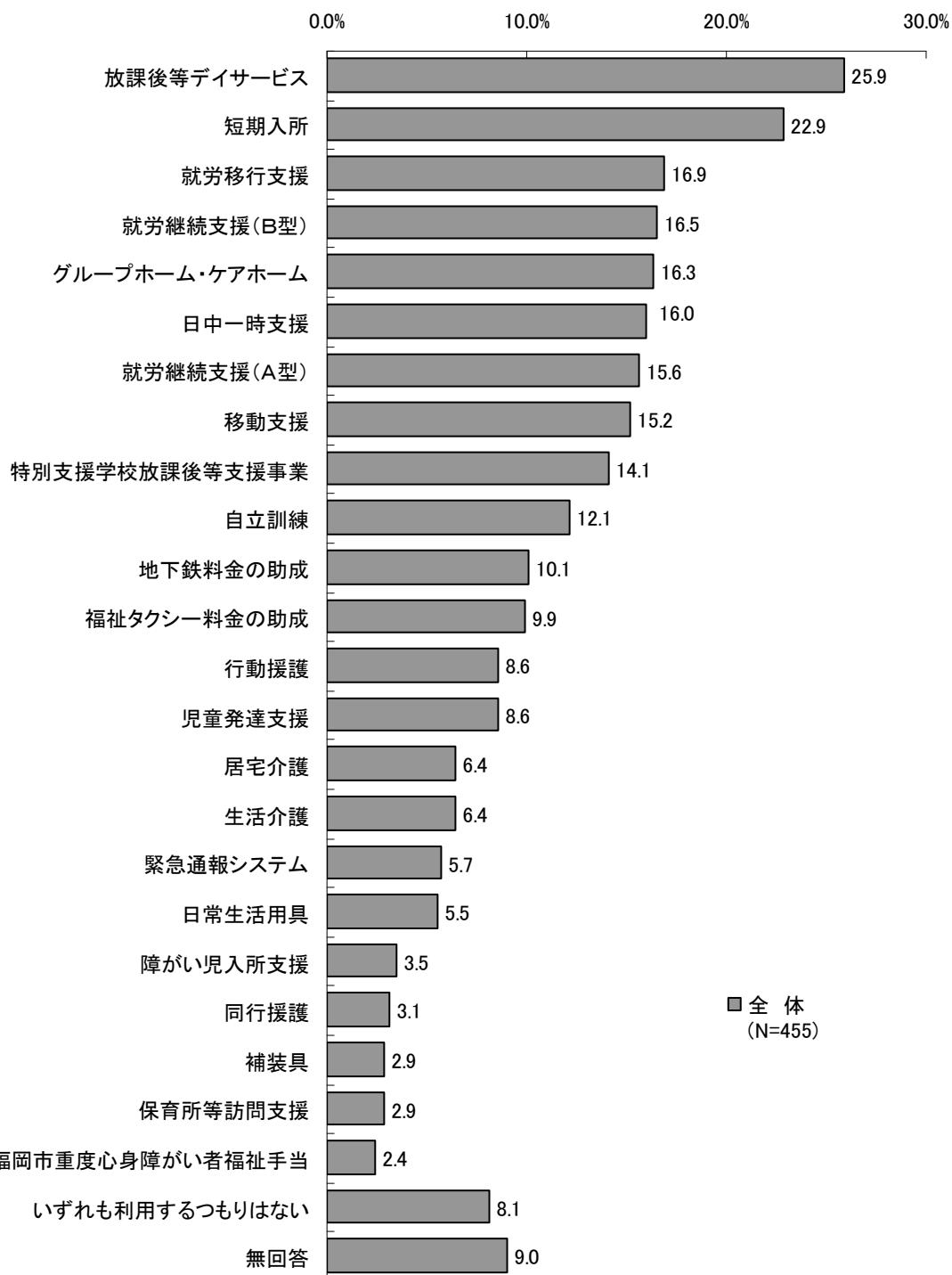
調査数(人)	が福 い岡 者市 重 度 社 度 手 心 当 身 障	役に立ったと思う福祉サービス											
		地下 鉄 料 金 の 助 成	日 中 一 時 支 援	居 宅 介 護	補 装 具	後 放 課 後 等 デ イ サ ー	特 別 支 援 事 業	移 動 支 援	ビ ス	日 常 生 活 用 具	児 童 癌 達 支 援	短 期 入 所	の福 助 成 タ ク シ ー 料 金
全 体	308	43.2	36.4	33.8	28.9	28.6	26.6	22.1	17.9	15.6	14.6	12.7	12.0
障 身 障 が い の み	65	56.9	41.5	20.0	20.0	58.5	9.2	10.8	7.7	23.1	15.4	4.6	13.8
状 が 知 的 障 が い の み	163	28.8	37.4	36.8	21.5	4.3	33.7	23.3	22.7	—	17.8	12.9	9.8
況 い 重 複 障 が い の 無回答	79	62.0	30.4	39.2	51.9	53.2	26.6	29.1	16.5	41.8	7.6	19.0	15.2
全 体	308	43.2	36.4	33.8	28.9	28.6	26.6	22.1	17.9	15.6	14.6	12.7	12.0
年 齢	0~2歳	17	47.1	5.9	35.3	11.8	41.2	—	—	5.9	47.1	—	17.6
	3~5歳	54	35.2	13.0	50.0	14.8	35.2	1.9	1.9	—	14.8	48.1	—
	6~8歳	51	35.3	23.5	43.1	17.6	27.5	23.5	7.8	23.5	17.6	13.7	5.9
	9~11歳	54	48.1	37.0	25.9	29.6	29.6	29.6	31.5	24.1	18.5	—	18.5
	12~14歳	62	46.8	58.1	24.2	43.5	32.3	54.8	38.7	29.0	16.1	3.2	19.4
	15~17歳	64	50.0	51.6	28.1	37.5	15.6	26.6	32.8	15.6	14.1	3.1	20.3
	無回答	6	16.7	50.0	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7	—	16.7

調査数(人)	役に立ったと思う福祉サービス												
	自 立 訓 練	行 動 援 護	障 が い 児 入 所 支 援	生 活 介 護	保 育 所 等 訪 問 支 援	同 行 援 護	就 労 移 行 支 援	型 就 労 移 行 支 援 (B)	ケ グ アル ホ ー プ ム ホ ー ム ・	緊 急 通 報 シ ス テ ム	型 就 労 移 行 支 援 (A)	無 回 答	
全 体	308	5.2	3.6	2.9	1.9	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6	2.6
障 身 障 が い の み	65	10.8	1.5	3.1	1.5	4.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
状 が 知 的 障 が い の み	163	3.1	4.9	3.1	3.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	0.6	2.5
況 い 重 複 障 が い の 無回答	79	5.1	2.5	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—	3.8
全 体	308	5.2	3.6	2.9	1.9	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6	2.6
年 齢	0~2歳	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.9
	3~5歳	54	9.3	—	9.3	1.9	1.9	—	—	—	—	—	1.9
	6~8歳	51	5.9	2.0	5.9	2.0	5.9	2.0	3.9	2.0	3.9	2.0	2.0
	9~11歳	54	5.6	3.7	—	1.9	—	—	—	—	—	—	7.4
	12~14歳	62	4.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	—	—	—	—	—
	15~17歳	64	3.1	9.4	—	—	—	1.6	1.6	3.1	1.6	3.1	1.6
	無回答	6	—	16.7	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—

(3) 今は利用していないが、今後利用したい福祉サービス

問29-3 1～23の福祉サービス・事業の中で、今は利用していないが今後利用したいと思うものを選んでください。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-75 今は利用していないが、今後利用したい福祉サービス】



今は利用していないが、今後利用したい福祉サービスとしては「放課後デイサービス」(25.9%)と「短期入所」(22.9%)がそれぞれ2割を超えており、これに「就労移行支援」(16.9%)、「就労継続支援(B型)」(16.5%)、「グループホーム・ケアホーム」(16.3%)、「日中一時支援」(16.0%)、「就労継続支援(A型)」(15.6%)、「移動支援」(15.2%)等が1割台で続いている。また、「いずれも利用するつもりはない」(8.1%)は1割未満となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「日常生活用具」と「福祉タクシー料金の助成」（それぞれ17.5%）、「緊急通報システム」（12.5%）の割合が高い。また、知的障がい児では「グループホーム・ケアホーム」（23.9%）や「就労移行支援」と「就労継続支援（A型）」（それぞれ22.8%）、「就労継続支援（B型）」（22.5%）等の割合が高くなっている。さらに、重複障がい児では「短期入所」（31.8%）の割合が高い。

年齢別にみると、15～17歳では「グループホーム・ケアホーム」（35.0%）の割合が3割を超えており、他、「就労継続支援（B型）」（28.0%）、「就労継続支援（A型）」（27.0%）、「就労移行支援」（25.0%）等の就労支援関係の項目の割合が高い。また、0～2歳では「障がい児入所支援」（15.8%）の割合が1割を超えて高くなっている。

【図表6-76 障がいの状況別、年齢別

今は利用していないが、今後利用したい福祉サービス】(%)

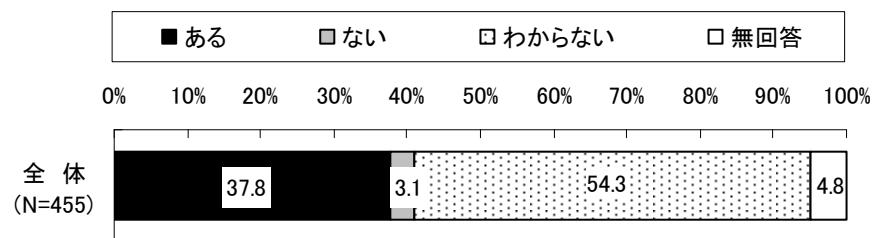
調査数 (人)	今は利用していないが、今後利用したい福祉サービス														
	放課後等デイサービス	短期入所	就労移行支援	就労継続支援（B型）	グループホーム・ケア	日中一時支援	就労継続支援（A型）	移動支援	特別支援学校放課後等	自立訓練	地下鉄料金の助成	福祉タクシー料金の助成	行動援護		
全 体	455	25.9	22.9	16.9	16.5	16.3	16.0	15.6	15.2	14.1	12.1	10.1	9.9	8.6	
障がいの状況															
身体障がいのみ	80	18.8	13.8	10.0	7.5	3.8	10.0	3.8	12.5	18.8	5.0	13.8	17.5	2.5	
知的障がいのみ	285	30.2	22.8	22.8	22.5	23.9	16.8	22.8	14.7	13.0	15.4	11.9	9.1	9.5	
重複障がい	88	19.3	31.8	4.5	5.7	3.4	19.3	3.4	19.3	13.6	8.0	—	4.5	11.4	
無回答	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	—	
全 体	455	25.9	22.9	16.9	16.5	16.3	16.0	15.6	15.2	14.1	12.1	10.1	9.9	8.6	
年齢	0～2歳	19	15.8	31.6	5.3	5.3	5.3	15.8	5.3	10.5	10.5	5.3	31.6	21.1	5.3
	3～5歳	70	28.6	14.3	8.6	7.1	5.7	8.6	8.6	12.9	28.6	10.0	10.0	7.1	11.4
	6～8歳	84	42.9	21.4	14.3	10.7	8.3	17.9	11.9	19.0	17.9	10.7	10.7	9.5	13.1
	9～11歳	78	32.1	21.8	12.8	9.0	9.0	17.9	10.3	20.5	17.9	5.1	6.4	12.8	5.1
	12～14歳	96	28.1	25.0	21.9	25.0	17.7	17.7	17.7	15.6	9.4	11.5	9.4	6.3	7.3
	15～17歳	100	7.0	26.0	25.0	28.0	35.0	17.0	27.0	10.0	4.0	19.0	10.0	11.0	8.0
	無回答	8	—	37.5	25.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	—	50.0	—	12.5	—

調査数 (人)	今は利用していないが、今後利用したい福祉サービス													
	児童発達支援	居宅介護	生活介護	緊急通報システム	日常生活用具	障がい児入所支援	同行援護	補装具	保育所等訪問支援	者福祉手当	りいはんなも利用するつも	無回答		
全 体	455	8.6	6.4	6.4	5.7	5.5	3.5	3.1	2.9	2.9	2.4	8.1	9.0	
障がいの状況														
身体障がいのみ	80	7.5	7.5	3.8	12.5	17.5	6.3	2.5	7.5	8.8	2.5	17.5	11.3	
知的障がいのみ	285	10.9	4.9	6.0	4.6	3.2	2.8	3.2	1.4	1.4	2.5	6.7	8.1	
重複障がい	88	2.3	10.2	10.2	3.4	2.3	3.4	3.4	3.4	2.3	2.3	3.4	10.2	
無回答	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	
全 体	455	8.6	6.4	6.4	5.7	5.5	3.5	3.1	2.9	2.9	2.4	8.1	9.0	
年齢	0～2歳	19	15.8	5.3	—	—	15.8	15.8	—	15.8	10.5	—	5.3	15.8
	3～5歳	70	15.7	10.0	5.7	4.3	4.3	5.7	2.9	4.3	12.9	1.4	10.0	14.3
	6～8歳	84	8.3	4.8	1.2	4.8	3.6	4.8	3.6	1.2	—	4.8	7.1	8.3
	9～11歳	78	11.5	2.6	2.6	3.8	6.4	2.6	5.1	2.6	—	1.3	9.0	10.3
	12～14歳	96	7.3	7.3	6.3	9.4	9.4	1.0	—	3.1	2.1	2.1	10.4	5.2
	15～17歳	100	1.0	8.0	16.0	7.0	2.0	2.0	5.0	1.0	—	3.0	6.0	8.0
	無回答	8	12.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(4) 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービスの有無

問30 1～23の福祉サービス・事業の中で、利用対象・範囲の拡大等を図るべきだと思うものがありますか。(○は1つだけ)

【図表6-77 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービスの有無】



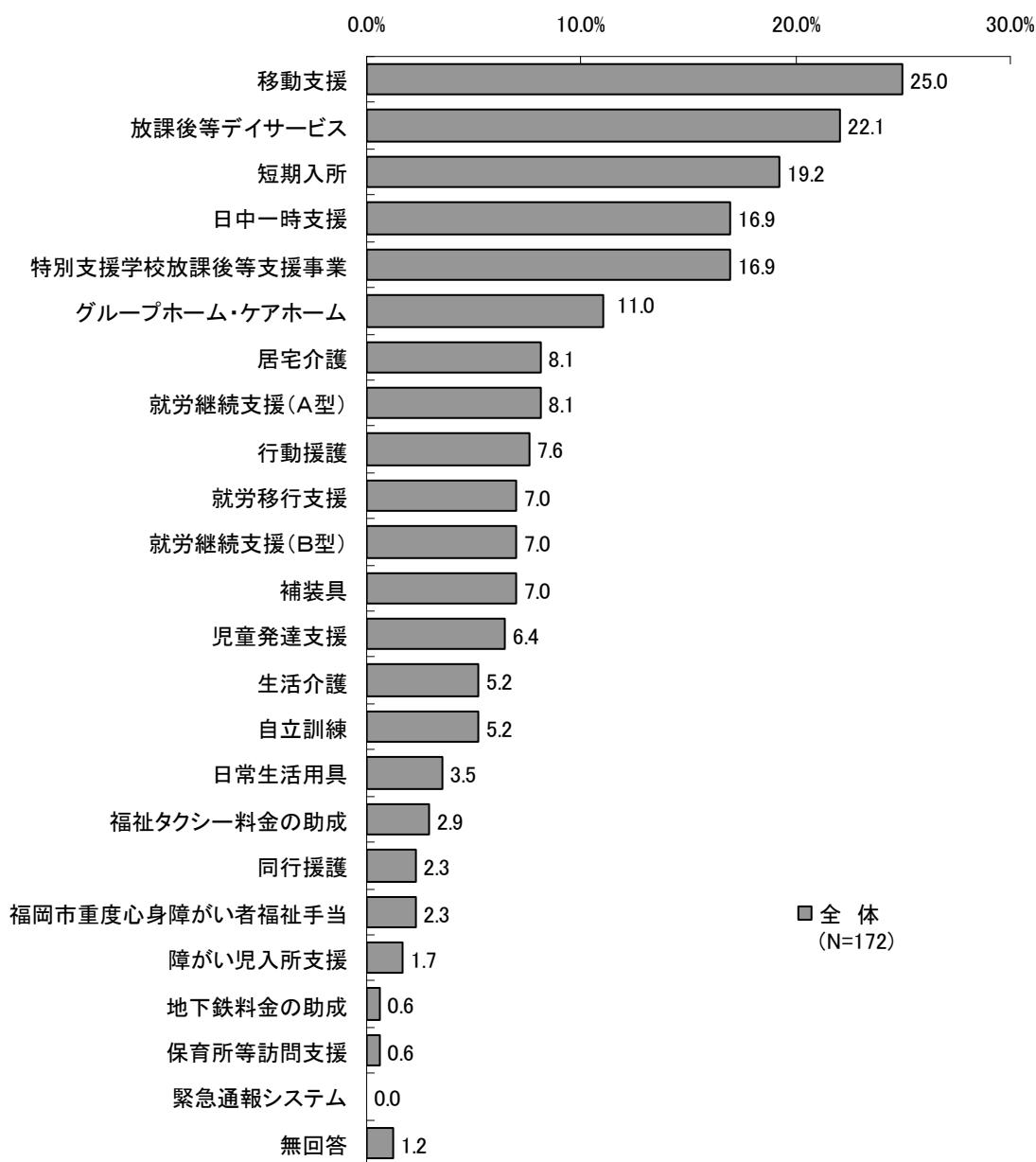
回答者全体では「ある」(37.8%) が4割弱、「ない」は3.1%となっている。また「わからない」(54.3%) が過半数となっている。

(5) 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス

[問30で「1」を選ばれた方におたずねします]

問30-1 それはどの福祉サービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを3つまで選んでください。(事業番号は1~23の数字を記入してください)

【図表6-78 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス】



対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービスとしては「移動支援」(25.0%)が最も多く、次いで「放課後デイサービス」(22.1%)、「短期入所」(19.2%)、「日中一時支援」、「特別支援学校放課後等支援事業」(それぞれ16.9%)となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「補装具」(28.0%)、重複障がい児では「短期入所」(37.8%)の割合がそれぞれ他の障がい児に比べて高くなっている。

年齢別にみると、0~8歳では「日中一時支援」の割合が3割を超えて高くなっている。また、12歳以上では「グループホーム・ケアホーム」や「移動支援」の割合が高い。さらに、12~14歳では、「就労継続支援(A・B型)」(18.6%)や「就労移行支援」(16.3%)といった就労支援関係の項目の割合が高くなっている。

【図表6-79 障がいの状況別、年齢別 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス】(%)

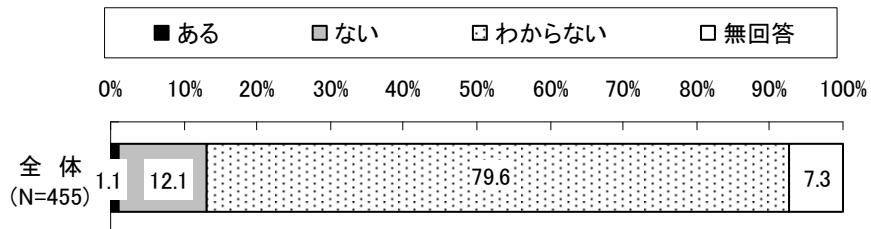
	調査数 (人)	対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス											
		移動支援	サ放課後ビス等デイ	短期入所	日中一時支援	課特別支援学校放事業	ムグ・ルーケー・アプホー・ム	居宅介護	(A型)就労継続支援	行動援護	就労移行支援	(B型)就労継続支援	補装具
全 体	172	25.0	22.1	19.2	16.9	16.9	11.0	8.1	8.1	7.6	7.0	7.0	7.0
障	身体障がいのみ	25	16.0	16.0	20.0	12.0	12.0	4.0	12.0	—	—	—	4.0
状	知的障がいのみ	109	24.8	26.6	12.8	16.5	18.3	14.7	5.5	11.9	11.0	11.0	10.1
況	重複障がい	37	32.4	13.5	37.8	21.6	16.2	5.4	13.5	2.7	2.7	—	8.1
い	の無回答	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0
全 体	172	25.0	22.1	19.2	16.9	16.9	11.0	8.1	8.1	7.6	7.0	7.0	7.0
年齢	0~2歳	5	—	—	20.0	40.0	—	—	—	20.0	—	—	40.0
	3~5歳	21	9.5	19.0	14.3	33.3	23.8	4.8	4.8	4.8	9.5	—	14.3
	6~8歳	26	3.8	50.0	11.5	34.6	26.9	—	11.5	—	7.7	—	3.8
	9~11歳	36	27.8	19.4	19.4	11.1	22.2	2.8	8.3	5.6	2.8	5.6	5.6
	12~14歳	43	25.6	23.3	20.9	11.6	11.6	18.6	7.0	18.6	4.7	16.3	18.6
	15~17歳	37	43.2	10.8	24.3	2.7	10.8	21.6	8.1	8.1	13.5	8.1	5.4
	無回答	4	75.0	—	25.0	25.0	—	25.0	25.0	—	—	—	—

	調査数 (人)	対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス											
		児童発達支援	生活介護	自立訓練	日常生活用具	金福の祉助タクシ一料	同行援護	当障福がい市者重福度祉心手身	援障がい児入所支	成地下鉄料金の助	援保育所等訪問支	ム緊急通報システ	無回答
全 体	172	6.4	5.2	5.2	3.5	2.9	2.3	2.3	1.7	0.6	0.6	—	1.2
障	身体障がいのみ	25	4.0	8.0	4.0	—	4.0	—	12.0	4.0	—	—	—
状	知的障がいのみ	109	7.3	4.6	5.5	1.8	2.8	3.7	0.9	1.8	0.9	0.9	1.8
況	重複障がい	37	5.4	5.4	5.4	10.8	2.7	—	—	—	—	—	—
い	の無回答	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全 体	172	6.4	5.2	5.2	3.5	2.9	2.3	2.3	1.7	0.6	0.6	—	1.2
年齢	0~2歳	5	20.0	—	—	20.0	—	—	20.0	20.0	—	—	—
	3~5歳	21	19.0	—	—	4.8	4.8	—	4.8	4.8	—	—	—
	6~8歳	26	3.8	3.8	19.2	3.8	—	—	3.8	—	—	—	—
	9~11歳	36	5.6	—	2.8	2.8	5.6	—	2.8	2.8	—	—	2.8
	12~14歳	43	7.0	4.7	4.7	4.7	—	—	—	—	2.3	—	—
	15~17歳	37	—	16.2	2.7	—	5.4	10.8	—	—	—	2.7	—
	無回答	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25.0

(6) 優先度が低い福祉サービスの有無

問31 1～23の福祉サービス・事業の中で、他のサービス・事業よりも、それを実施する優先度が低いと思うものがありますか。(○は1つだけ)

【図表6-80 優先度が低い福祉サービスの有無】



優先度が低い福祉サービスについて「ある」が1.1%、「ない」が12.1%となっている。また「わからない」(79.6%) が8割となっている。

(7) 優先度が低い福祉サービス

[問31で「1」を選ばれた方におたずねします]

問31-1 それはどの福祉サービス・事業ですか。3つまで選んでください。(事業番号は1～23の数字を記入してください)

【図表6-81 優先度が低い福祉サービス】(上段=人、下段=%)

調査数	優先度が低い福祉サービス												
	就労移行支援	補装具	者福岡市重度心身障がい	生活介護	就労継続支援（A型）	日常生活用具	地下鉄料金の助成	居宅介護	短期入所	行動援護	同行援護	自立訓練	
5 100.0	2 40.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	- -	- -	- -	

調査数	優先度が低い福祉サービス												
	就労継続支援（B型）	ホグーム	ムーブホーム・ケア	移動支援	日中一時支援	成福祉タクシー料金の助成	緊急通報システム	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障がい児入所支援	支援事業学校放課後等	無回答
5 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

優先度が低い福祉サービスとして、「就労移行支援」、「補装具」、「福岡市重度心身障がい者福祉手当」を選んだ人がそれぞれ2人、「生活介護」、「就労継続支援（A型）」、「日常生活用具」、「地下鉄料金の助成」を選んだ人がそれぞれ1人となっている。

【参考 各サービスの利用状況別 対象・範囲の拡大をしてほしい福祉サービス】

(上段=人、下段=%)

		問30-1 対象・範囲の拡大をしてほしいサービス											
		移動支援	放課後等デイサービス	短期入所	日中一時支援	支援事業	特別支援学校放課後等	ホグーム・ケア	居宅介護	就労継続支援（A型）	行動援護	就労移行支援	就労継続支援（B型）
全 体		43	38	33	29	29	19	14	14	13	12	12	12
現在の利用状況	利用している	16	5	12	16	10	—	8	—	2	—	—	9
	利用していない	37.2	13.2	36.4	55.2	34.5	—	57.1	—	15.4	—	—	75.0
	無回答	27	33	21	13	18	19	5	14	11	12	12	3
		62.8	86.8	63.6	44.8	62.1	100.0	35.7	100.0	84.6	100.0	100.0	25.0

		問30-1 対象・範囲の拡大をしてほしいサービス											
		児童発達支援	生活介護	自立訓練	日常生活用具	成福祉タクシー料金の助成	同行援護	者福祉手当	福岡市重度心身障がい児入所支援	障がい児入所支援	地下鉄料金の助成	保育所等訪問支援	緊急通報システム
全 体		11	9	9	6	5	4	4	3	1	1	1	—
現在の利用状況	利用している	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
	利用していない	4	—	—	2	—	1	—	1	—	—	—	—
	無回答	36.4	—	—	33.3	—	25.0	—	33.3	—	—	—	—
		6	9	9	3	4	3	4	2	1	1	—	—
全 体		54.5	100.0	100.0	50.0	80.0	75.0	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0	—
現在の利用状況	利用していない	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	9.1	—	—	16.7	20.0	—	—	—	—	—	—	—

【参考 各サービスの利用状況別 優先度が低い福祉サービス】

(上段=人、下段=%)

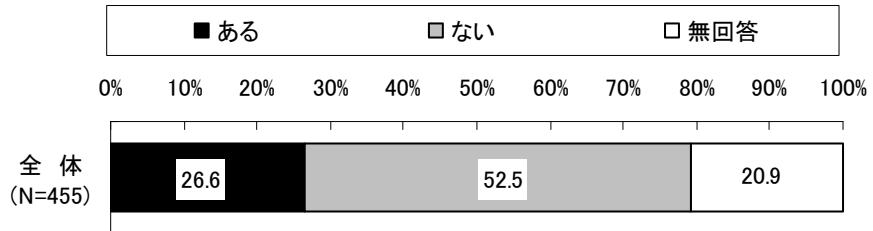
		問31-1 優先度が低いサービス											
		就労移行支援	補装具	者福祉手当	福岡市重度心身障がい児入所支援	生活介護	就労継続支援（A型）	日常生活用具	地下鉄料金の助成	居宅介護	短期入所	行動援護	同行援護
全 体		2	2	2	1	1	1	1	1	—	—	—	—
現在の利用状況	利用している	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
	利用していない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

		問31-1 優先度が低いサービス											
		就労継続支援（B型）	ホグーム・ケア	移動支援	日中一時支援	成福祉タクシー料金の助成	緊急通報システム	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障がい児入所支援	特別支援事業	特別支援学校放課後等
全 体		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
現在の利用状況	利用している	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	利用していない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(8) 新たに実施してほしい福祉サービスの有無

問32 現在行われていない福祉サービス・事業で、新たに実施してほしいと思うものがありますか。(○は1つだけ)

【図表6-82 新たに実施してほしい福祉サービスの有無】



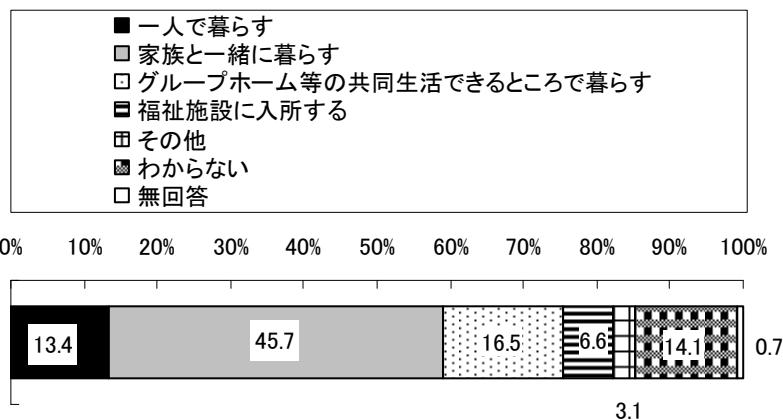
回答者全体では「ある」が26.6%、「ない」が52.5%となっている。

8. 今後の暮らし方について

(1) 将来の暮らし方

問33 お子さんが、将来、成人した後、どのように暮らしてほしいと思いますか。
(○は1つだけ)

【図表6-83 将来の暮らし方】



「家族と一緒に暮らす」(45.7%) が4割を超えて最も多く、このほか「グループホーム等の共同生活できるところで暮らす」(16.5%) や「一人で暮らす」(13.4%) がそれぞれ1割台となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「一人で暮らす」(28.8%) の割合が高く、知的障がい児では「グループホーム等の共同生活できるところで暮らす」(21.8%) の割合が高く、それぞれ2割を超えている。

年齢別にみると、5歳以下では「一人で暮らす」の割合が3割弱と高い。また、「グループホーム等の共同生活できるところで暮らす」や「福祉施設に入所する」の割合は年齢が高くなるほど高まっており、12歳以上では将来的にグループホームを希望する人が2割強を占めている。

【図表6-84 障がいの状況別、年齢別 将来の暮らし方】(%)

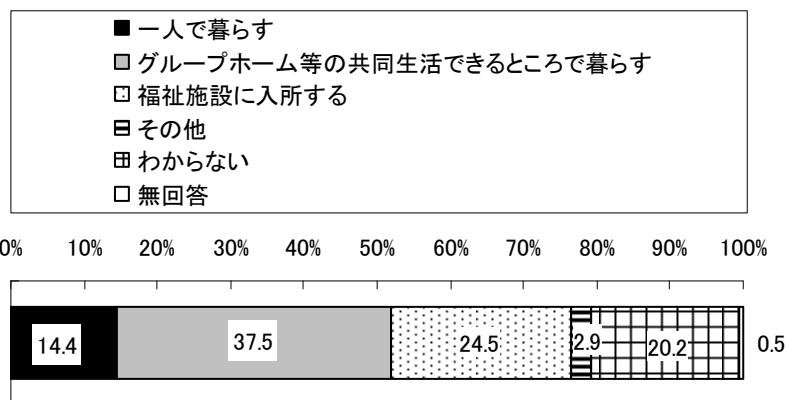
	調査数(人)	将来の暮らし方						
		一人で暮らす	家族と一緒に暮らす	ろ共グ で同ル 暮生 ら活 暮す 暮 る と等 の こ	福 祉 施 設 入 所 す る	その 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体	455	13.4	45.7	16.5	6.6	3.1	14.1	0.7
障 状 況 の 無回答	80	28.8	41.3	3.8	2.5	6.3	16.3	1.3
身体障がいのみ	285	10.5	45.3	21.8	6.3	2.5	13.0	0.7
知的障がいのみ	88	8.0	52.3	11.4	11.4	1.1	15.9	-
重複障がい	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-
全 体	455	13.4	45.7	16.5	6.6	3.1	14.1	0.7
年 齢	0~2歳	19	26.3	26.3	-	-	5.3	42.1
	3~5歳	70	28.6	38.6	5.7	-	5.7	20.0
	6~8歳	84	9.5	47.6	15.5	3.6	2.4	21.4
	9~11歳	78	10.3	51.3	17.9	5.1	1.3	14.1
	12~14歳	96	9.4	46.9	21.9	12.5	3.1	5.2
	15~17歳	100	10.0	47.0	21.0	10.0	3.0	8.0
無回答	8	12.5	50.0	25.0	12.5	-	-	-

(2) 将来、家族と同居できない場合に希望する暮らし方

[問33-1は、問33で「2.」を選ばれた方におたずねします]

問33-1 将来、お子さんが成人した後、さまざまな理由でご家族との同居ができなくなったとき、どのように暮らしてほしいと思いますか。(○は1つだけ)

【図表6-85 将来、家族と同居できない場合に希望する暮らし方】



「グループホーム等の共同生活できるところで暮らす」(37.5%) が最も多く、次いで「福祉施設に入所する」(24.5%)、「一人で暮らす」(14.4%) となっている。また、「わからない」(20.2%) も2割を占めている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「一人で暮らす」(39.4%)、知的障がい児では「グループホーム等の共同生活できるところで暮らす」(45.0%)、重複障がい児では「福祉施設に入所する」(45.7%) の割合がそれほかに比べて高い。

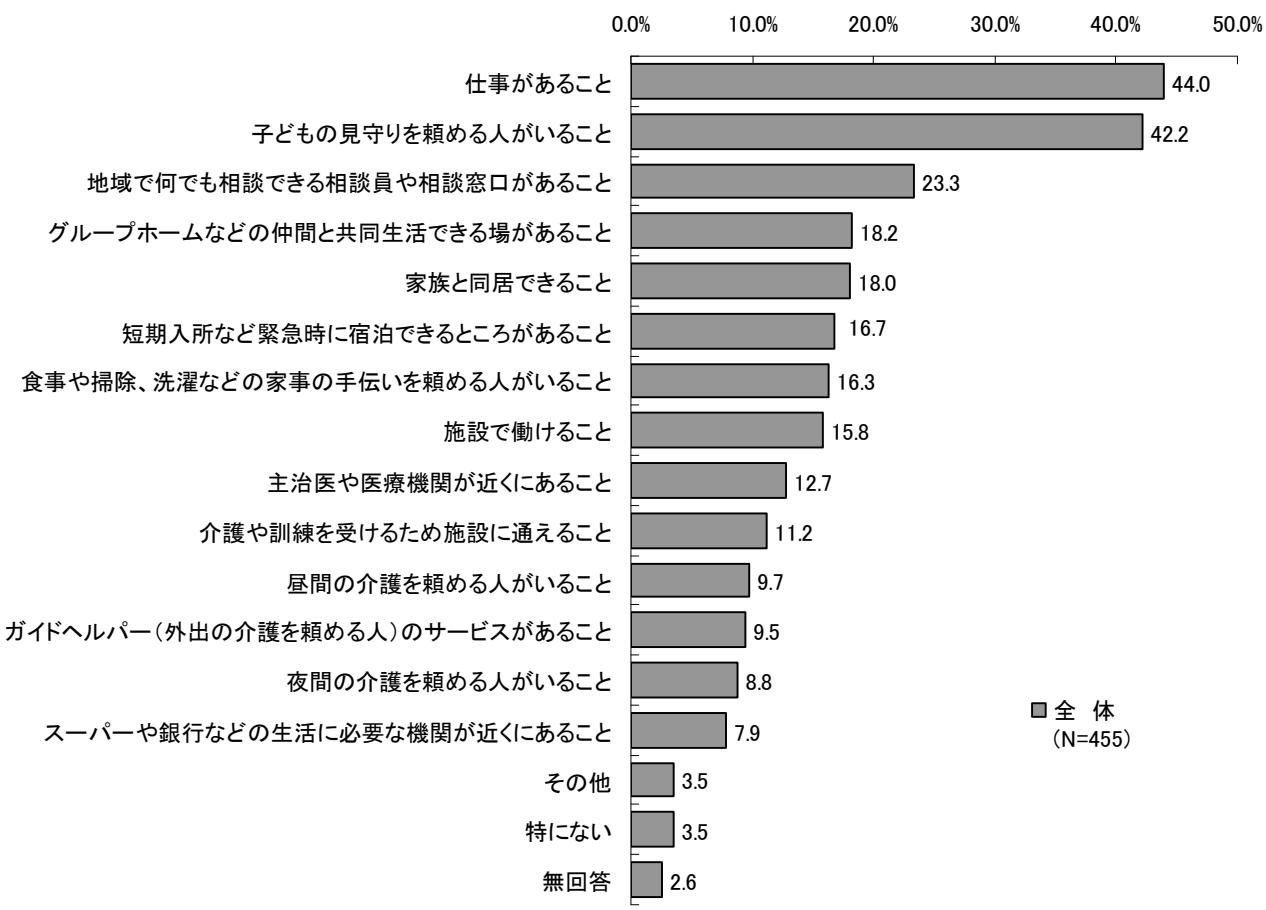
【図表6-86 障がいの状況別 将来、家族と同居できない場合に希望する暮らし方】(%)

調査数(人)	将来、家族と同居できない場合に希望する暮らし方					
	一人で暮らす	とのっこ共る同で生暮らすきムる等	る福祉施設に入所す	その他	わからぬ	無回答
全 体	208	14.4	37.5	24.5	2.9	20.2
障がいの状況						
身体障がいのみ	33	39.4	30.3	12.1	3.0	15.2
知的障がいのみ	129	12.4	45.0	20.2	3.9	17.8
重複障がい	46	2.2	21.7	45.7	—	30.4
無回答	—	—	—	—	—	—

(3) 自宅や地域で生活するために必要なこと

問34 お子さんが、自宅や地域で生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

【図表6-87 自宅や地域で生活するために必要なこと】



「仕事があること」(44.0%) が4割強と最も多く、次いで「子どもの見守りを頼める人がいること」(42.2%)、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(23.3%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「主治医や医療機関が近くにあること」(23.8%) の割合が高く、知的障がい児では「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(23.2%) 等の割合が高い。身体障がい児と知的障がい児では「仕事があること」の割合が過半数となっている。また、重複障がい児では他に比べて「短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること」(29.5%) や「昼間の介護を頼める人がいること」(23.9%) 等の見守りや介護に関する項目の割合が高い。

年齢別にみると、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」は年齢が高いほど割合が高い。

【図表6-88 障がいの状況別、年齢別 自宅や地域で生活するために必要なこと】(%)

調査数 (人)	仕事があること	自宅や地域で生活するために必要なこと									
		る子どもがいる見守りを頼め	ある相談で何でも相談窓口でがき	ある相談で何でも相談窓口でがき	場仲間と共同生活など	グループホームなど	家族と同居できること	る宿泊入所など緊急が時	るの食事や掃除手伝いの伝	施設で働くこと	く主治医や医療機関が近
全 体	455	44.0	42.2	23.3	18.2	18.0	16.7	16.3	15.8	12.7	
障 状 況 が い の の	身体障がいのみ	80	56.3	35.0	25.0	5.0	13.8	15.0	12.5	3.8	23.8
	知的障がいのみ	285	50.2	44.2	25.6	23.2	18.6	13.3	17.5	19.3	7.7
	重複障がい	88	13.6	43.2	14.8	14.8	20.5	29.5	15.9	15.9	19.3
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体	455	44.0	42.2	23.3	18.2	18.0	16.7	16.3	15.8	12.7	
年 齢	0~2歳	19	52.6	52.6	42.1	5.3	5.3	15.8	10.5	10.5	21.1
	3~5歳	70	45.7	45.7	17.1	8.6	24.3	8.6	14.3	5.7	15.7
	6~8歳	84	44.0	48.8	23.8	15.5	20.2	11.9	16.7	14.3	14.3
	9~11歳	78	38.5	41.0	20.5	20.5	17.9	21.8	12.8	19.2	12.8
	12~14歳	96	46.9	36.5	24.0	22.9	13.5	19.8	16.7	19.8	10.4
	15~17歳	100	44.0	39.0	24.0	24.0	18.0	20.0	19.0	19.0	11.0
	無回答	8	25.0	37.5	37.5	12.5	25.0	12.5	37.5	12.5	-

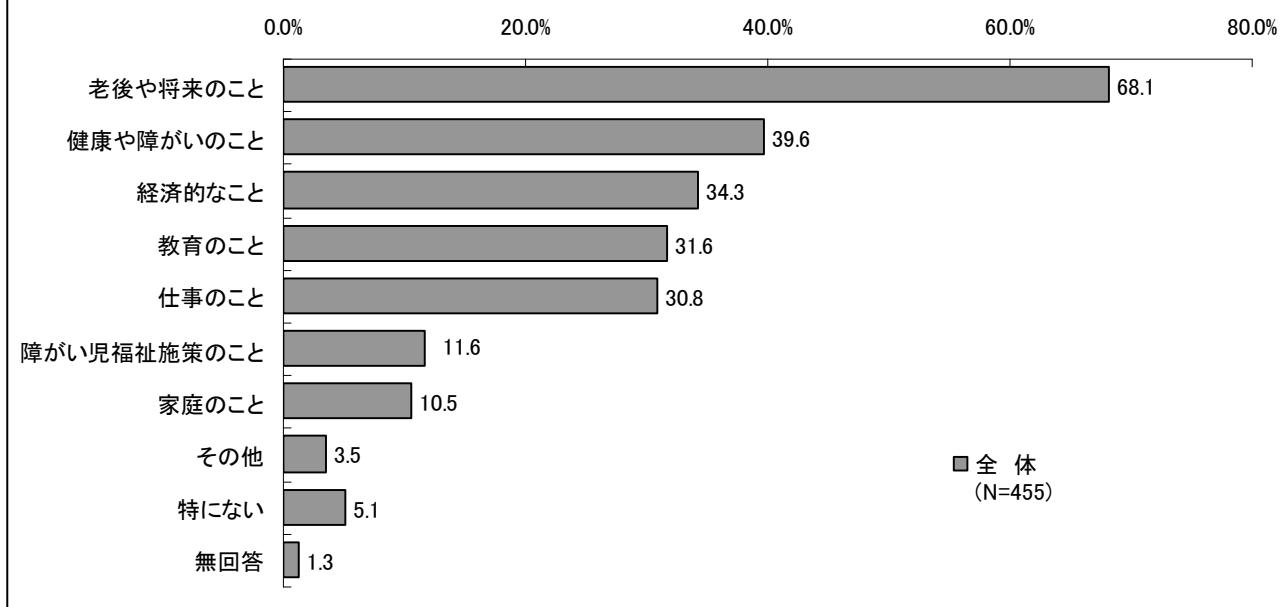
調査数 (人)	め介護施設やに訓練を通える受けること	自宅や地域で生活るために必要なこと								
		が昼間の介護を頼める人	サのガードスをへが頼るための出	が夜間の介護を頼める人	く生生活にあにパ	その他の	特にない	無回答		
全 体	455	11.2	9.7	9.5	8.8	7.9	3.5	3.5	2.6	
障 状 況 が い の の	身体障がいのみ	80	13.8	6.3	8.8	7.5	12.5	3.8	5.0	1.3
	知的障がいのみ	285	8.4	6.3	8.4	6.3	7.4	3.5	2.8	3.2
	重複障がい	88	18.2	23.9	13.6	18.2	5.7	3.4	2.3	2.3
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	100.0	-
全 体	455	11.2	9.7	9.5	8.8	7.9	3.5	3.5	2.6	
年 齢	0~2歳	19	10.5	5.3	-	-	15.8	5.3	-	-
	3~5歳	70	14.3	1.4	4.3	5.7	7.1	4.3	2.9	1.4
	6~8歳	84	14.3	4.8	6.0	4.8	7.1	3.6	4.8	6.0
	9~11歳	78	10.3	14.1	14.1	14.1	7.7	5.1	2.6	1.3
	12~14歳	96	10.4	10.4	15.6	11.5	5.2	1.0	3.1	4.2
	15~17歳	100	7.0	16.0	9.0	10.0	10.0	3.0	4.0	1.0
	無回答	8	25.0	12.5	-	-	12.5	12.5	12.5	-

9. 情報収集や相談について

(1) 困っていることや心配なこと

問35 お子さんを育てていくうえで、困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。(○は3つまで)

【図表6-89 困っていることや心配なこと】



「老後や将来のこと」(68.1%) が7割弱と最も多く、次いで「健康や障がいのこと」(39.6%)、「経済的なこと」(34.3%)、「教育のこと」(31.6%)、「仕事のこと」(30.8%) となっている。

障がいの状況別にみると、各障がいとも「老後や将来のこと」が最も多いが、この割合は身体障がい児に比べて、知的障がい児や重複障がい児で高く、7割を超えており。また、身体障がい児では「教育のこと」(42.5%)、重複障がい児では「健康や障がいのこと」(48.9%) や「経済的なこと」(44.3%) の割合がそれぞれ他に比べて高い。

年齢別にみると、「仕事のこと」や「老後や将来のこと」は概ね年齢が高いほど割合も高く、6歳以上になると7割以上の人人が「老後や将来のこと」について心配や悩みをかかえている。また、3~5歳では他に比べて「教育のこと」(60.0%) や「健康や障がいのこと」(52.9%) の割合が高い。

世帯の状況別にみると、母子家庭では他に比べて「経済的なこと」(62.1%) の割合が6割と高くなっている。

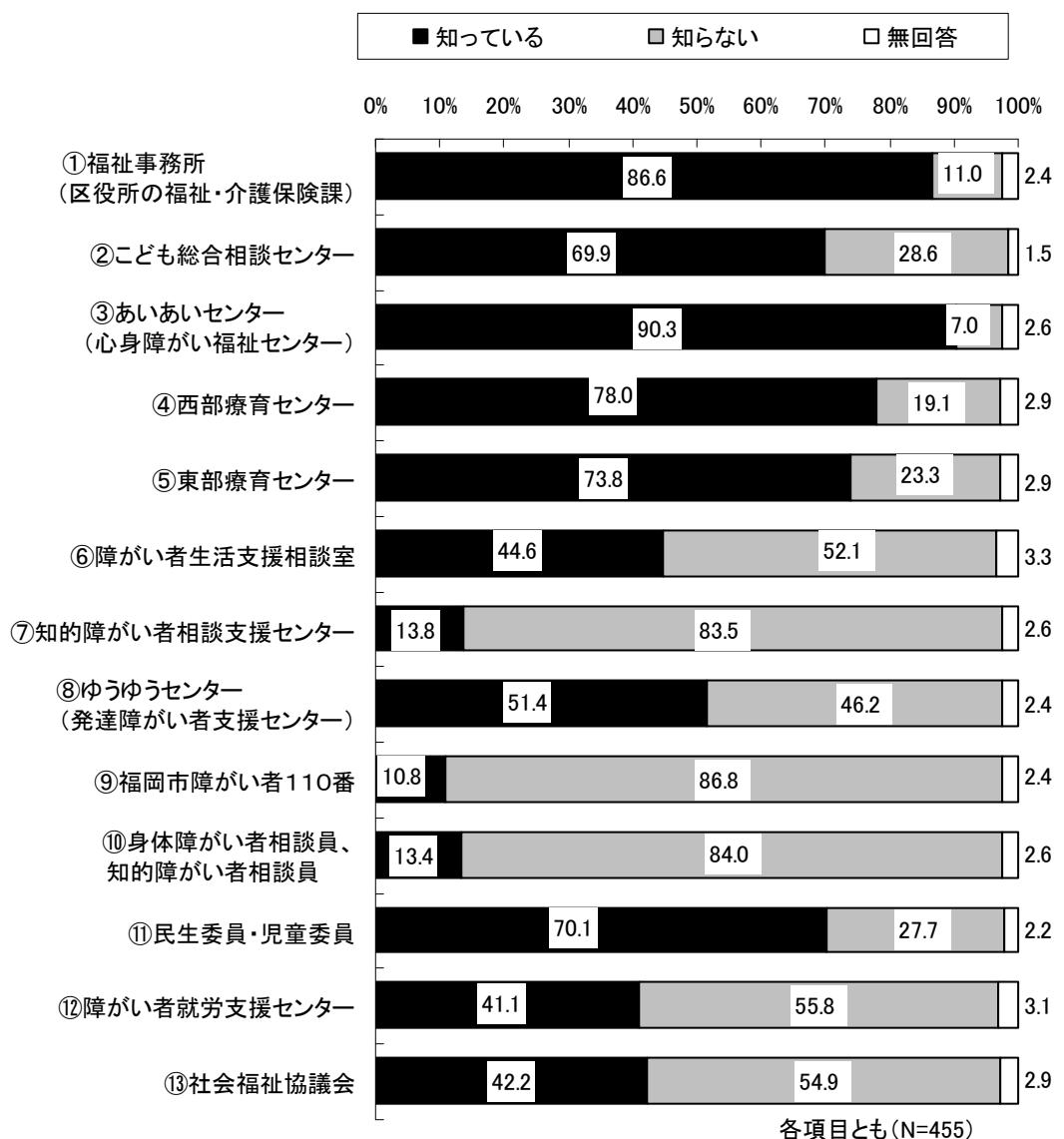
【図表6-90 障がいの状況別、年齢別、世帯状況別 困っていることや心配なこと】(%)

	調査数 (人)	困っていることや心配なこと									
		老後や将来のこと	と健康や障がいのこと	経済的なこと	教育のこと	仕事のこと	の障がい児福祉施策	家庭のこと	その他	特になし	無回答
全 体	455	68.1	39.6	34.3	31.6	30.8	11.6	10.5	3.5	5.1	1.3
障状況の無回答	80	53.8	47.5	28.8	42.5	31.3	6.3	10.0	3.8	5.0	-
身体障がいのみ	285	70.2	34.7	33.0	33.0	34.0	12.6	10.5	3.5	4.6	2.1
知的障がいのみ	88	76.1	48.9	44.3	18.2	20.5	13.6	11.4	3.4	4.5	-
重複障がい	2	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
全 体	455	68.1	39.6	34.3	31.6	30.8	11.6	10.5	3.5	5.1	1.3
年齢	0~2歳	19	36.8	47.4	31.6	31.6	15.8	-	10.5	5.3	15.8
	3~5歳	70	48.6	52.9	25.7	60.0	17.1	11.4	10.0	1.4	7.1
	6~8歳	84	72.6	35.7	26.2	34.5	33.3	10.7	9.5	4.8	3.6
	9~11歳	78	71.8	39.7	35.9	33.3	28.2	12.8	16.7	5.1	2.6
	12~14歳	96	71.9	40.6	34.4	31.3	35.4	12.5	10.4	2.1	6.3
	15~17歳	100	78.0	33.0	45.0	9.0	37.0	13.0	8.0	4.0	2.0
世帯状況	無回答	8	62.5	12.5	50.0	25.0	50.0	12.5	-	-	-
	全 体	455	68.1	39.6	34.3	31.6	30.8	11.6	10.5	3.5	5.1
	親と子のみ(母子家庭)	58	67.2	24.1	62.1	31.0	29.3	12.1	8.6	1.7	1.7
	親と子のみ(父子家庭)	6	66.7	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	-	-
	親と子のみ(両親あり)	341	69.8	44.0	30.2	30.8	28.2	11.7	10.9	4.4	5.3
	三世代同居(親と子と祖父母)	36	66.7	27.8	33.3	36.1	58.3	2.8	8.3	-	5.6
その他	その他	6	-	33.3	16.7	66.7	33.3	16.7	33.3	-	16.7
	無回答	8	62.5	25.0	37.5	37.5	25.0	25.0	-	-	12.5

(2) 相談機関の認知度

問36 福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる場として、次のような場所（機関）があります。あなたは、これらの相談場所（機関）があることを知っていますか。また、利用したことがありますか。さらに、今後利用したいと思いますか。①～⑬の項目ごとに、認知度と利用状況・利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

【図表6-91 相談機関の認知度】



相談機関の認知度（「知っている」の割合）は、「③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」（90.3%）が9割を占めて高く、次いで「①福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）」（86.6%）、「④西部療育センター」（78.0%）、「⑤東部療育センター」（73.8%）となっている。

障がいの状況別にみると、知的障がい児では他に比べて「②こども総合相談センター」（77.2%）や「⑧ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター）」（61.8%）等の認知度が高く、重複障がい児では「⑪民生委員・児童委員」（77.3%）や「⑩身体障がい者相談員、知的障がい者相談員」（22.7%）等の割合が高い。

年齢別にみると、「⑫障がい者就労支援センター」や「⑦知的障がい者相談支援センター」等は概ね年齢が高くなるほど認知度も高くなっている。

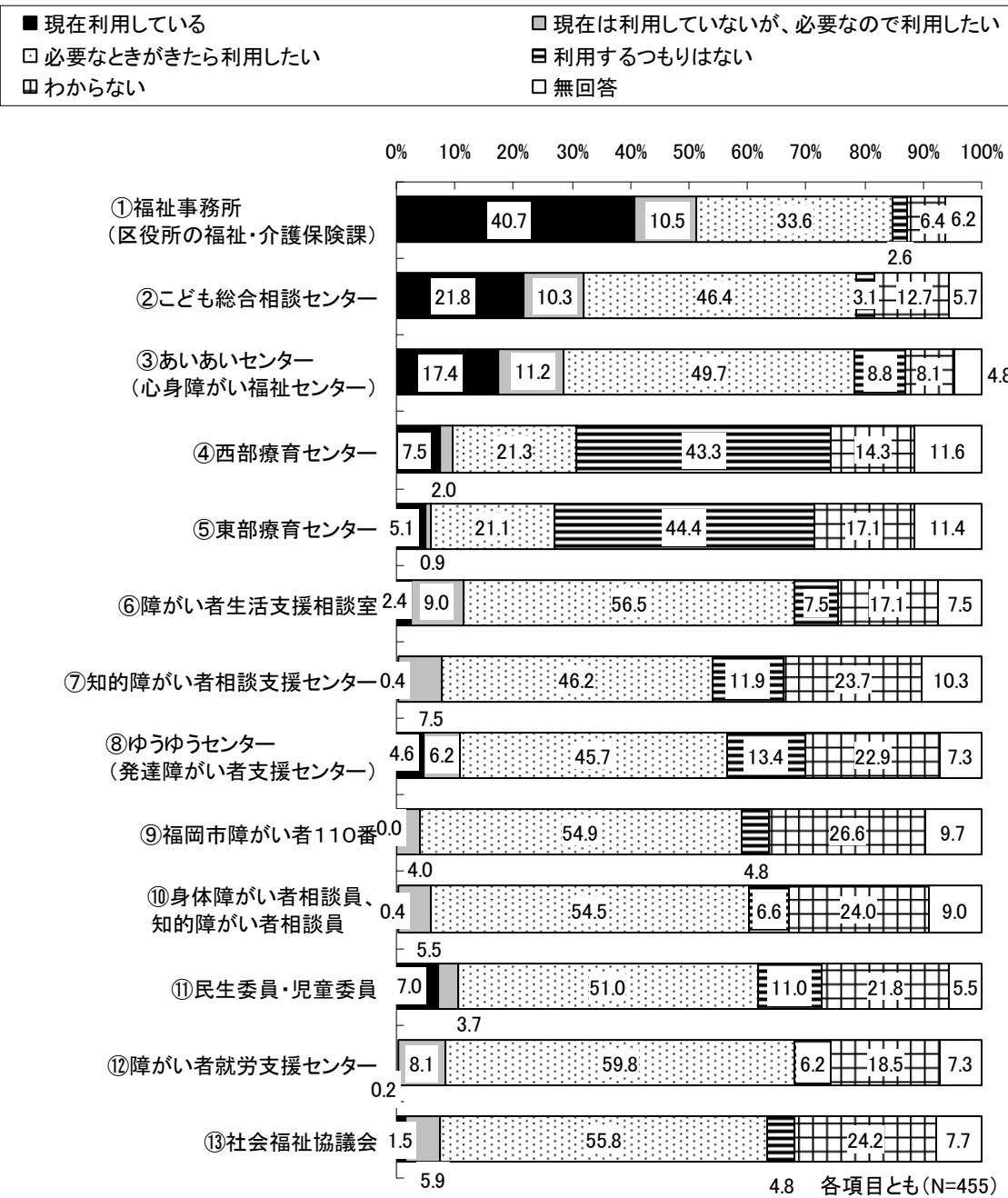
【図表6-92 障がいの状況別、年齢別 相談機関の認知度（知っている）】（%）

調査数（人）	相談機関の認知度（知っている）														
	祉① ・福祉 介祉事 務所 保険課 （～区 役所の 福	② こども 総合相 談セ ンタ ー	障③ がい 福祉 セセ ンタ ー	④ 西部 療育 セン タ	⑤ 東部 療育 セン タ	⑥ 障がい 者生 活支 援相 談室	⑦ 知的 障がい 者相 談支 援セ	障⑧ がい 者支 援セ ンタ ー（ ～発 達	⑨ 福 岡市 障がい 者1 10 番	的⑩ 身が い障 がい 者相 談員 、知	⑪ 民 生委 員・ 児童 委員	タ ー 障 がい 者就 労支 援セ ン	⑬ 社会 福 祉協 議会		
全 体	455	86.6	69.9	90.3	78.0	73.8	44.6	13.8	51.4	10.8	13.4	70.1	41.1	42.2	
障状況の	身体障がいのみ	80	82.5	38.8	86.3	66.3	60.0	38.8	6.3	25.0	8.8	12.5	63.8	22.5	37.5
	知的障がいのみ	285	86.7	77.2	90.9	80.4	76.1	44.2	16.8	61.8	10.9	10.9	69.5	45.6	41.1
	重複障がい	88	92.0	75.0	93.2	83.0	80.7	52.3	11.4	42.0	12.5	22.7	77.3	43.2	48.9
	無回答	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	100.0	50.0	100.0
全 体	455	86.6	69.9	90.3	78.0	73.8	44.6	13.8	51.4	10.8	13.4	70.1	41.1	42.2	
年齢	0～2歳	19	73.7	47.4	89.5	84.2	84.2	42.1	-	21.1	15.8	26.3	63.2	15.8	36.8
	3～5歳	70	91.4	64.3	92.9	78.6	77.1	38.6	8.6	38.6	7.1	8.6	61.4	27.1	30.0
	6～8歳	84	89.3	70.2	92.9	88.1	84.5	50.0	11.9	60.7	15.5	9.5	73.8	34.5	44.0
	9～11歳	78	84.6	74.4	91.0	79.5	73.1	47.4	12.8	53.8	11.5	14.1	71.8	34.6	34.6
	12～14歳	96	86.5	75.0	91.7	76.0	75.0	42.7	11.5	60.4	8.3	13.5	72.9	47.9	47.9
	15～17歳	100	86.0	71.0	86.0	69.0	59.0	44.0	24.0	47.0	9.0	17.0	70.0	60.0	51.0
	無回答	8	75.0	50.0	75.0	75.0	87.5	50.0	25.0	62.5	25.0	12.5	75.0	37.5	37.5

(3) 相談機関の利用状況・利用意向

問36 福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる場として、次のような場所（機関）があります。あなたは、これらの相談場所（機関）があることを知っていますか。また、利用したことがありますか。さらに、今後利用したいと思いますか。①～⑬の項目ごとに、認知度と利用状況・利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

【図表6-93 相談機関の利用状況・利用意向】



相談機関の利用状況・利用意向についてみると、利用状況は「①福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）」（40.7%）が4割と最も多く、次いで「②こども総合相談センター」（21.8%）、「③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」（17.4%）となっており、その他はいずれも10%未満である。

「現在利用している」と「現在は利用していないが、必要なので利用したい」の合計を『利用意向』として整理すると、「①福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）」（51.2%）が半数を超えて最も多く、次いで「②こども総合相談センター」（32.1%）、「③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」（28.6%）となっている。

この『利用意向』について、障がいの状況別にみると、重複障がい児では他に比べて「①福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）」（68.2%）等の割合が高く、知的障がい児では他に比べて「⑦知的障がい者相談支援センター」（10.9%）や「⑧ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター）」（13.7%）、「⑫障がい者就労支援センター」（10.2%）等の割合が高い。

年齢別にみると、「③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）」や「④西部療育センター」等は5歳以下で利用意向が高くなっている。

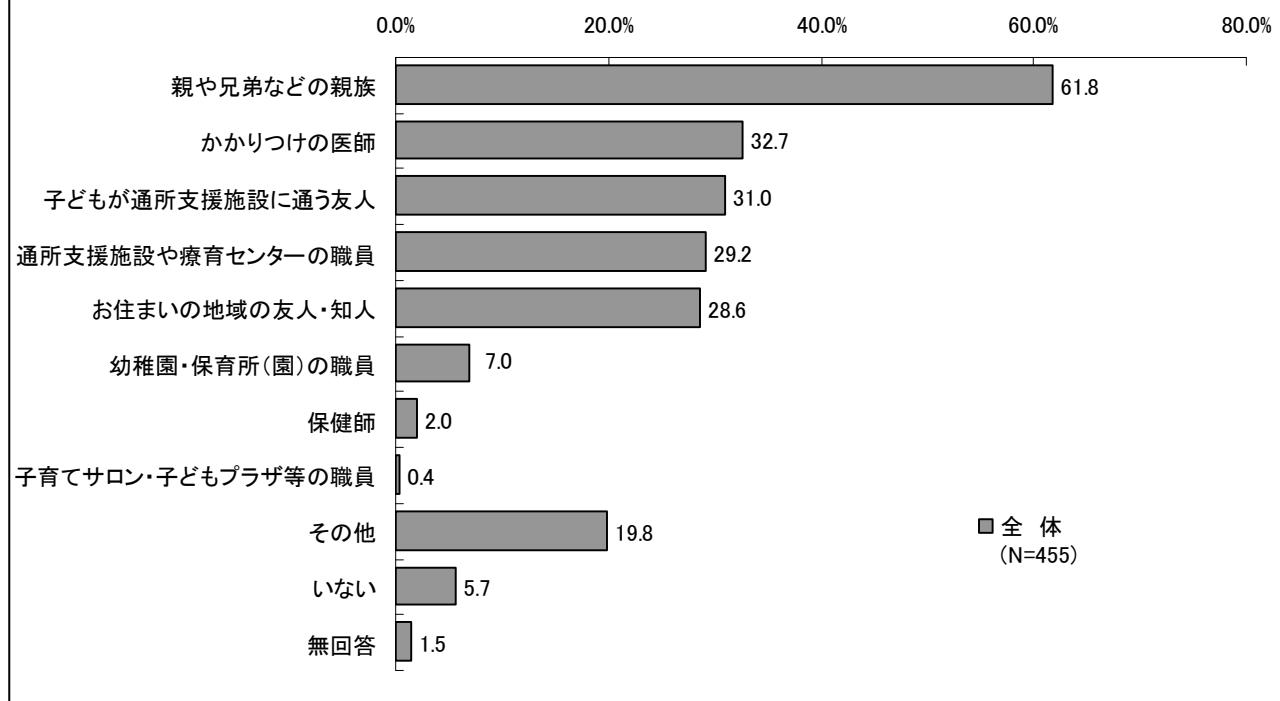
【図表6-94 障がいの状況別、年齢別 相談機関の利用意向（現在利用+必要で利用したい）】（%）

調査数（人）	相談機関の利用意向（現在利用+必要で利用したい）													
	①福祉・介護事務所（区役所の福 祉・介護保険課）	②こども総合相談センター	が③いあい福祉セイセイセント ター（心身障	④西部療育セ ンター	⑤東部療育セ ンター	⑥障がい者生活支 援相談室	タ ー	⑦知的障がい者相 談支援セン	が⑧いゆう支 援セイセント ー（発達障	⑨福岡市障がい者 110番	障⑩が身体障が い者相談員、相 談員、知的	⑪民生委員・児童委員	⑫障がい者就労支 援センター	⑬社会福祉協議会
全 体	455	51.2	32.1	28.6	9.5	5.9	11.4	7.9	10.8	4.0	5.9	10.8	8.4	7.5
障 状 況 の 無回答	80	46.3	21.3	32.5	5.0	8.8	10.0	1.3	3.8	3.8	7.5	10.0	5.0	6.3
身体障がいのみ	285	47.7	33.7	26.0	9.1	4.9	11.6	10.9	13.7	4.2	5.3	11.6	10.2	7.7
知的障がいのみ	88	68.2	37.5	34.1	14.8	6.8	12.5	4.5	8.0	3.4	6.8	9.1	5.7	8.0
重複障がい	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体	455	51.2	32.1	28.6	9.5	5.9	11.4	7.9	10.8	4.0	5.9	10.8	8.4	7.5
年 齢	0~2歳	19	42.1	31.6	42.1	21.1	21.1	10.5	-	-	5.3	5.3	-	-
	3~5歳	70	34.3	25.7	44.3	24.3	15.7	14.3	4.3	5.7	4.3	5.7	5.7	4.3
	6~8歳	84	50.0	27.4	25.0	10.7	7.1	4.8	7.1	10.7	3.6	6.0	7.1	2.4
	9~11歳	78	52.6	33.3	23.1	6.4	3.8	11.5	10.3	14.1	2.6	5.1	11.5	3.8
	12~14歳	96	58.3	34.4	25.0	4.2	2.1	11.5	6.3	15.6	6.3	7.3	14.6	10.4
	15~17歳	100	58.0	40.0	27.0	3.0	1.0	15.0	12.0	8.0	4.0	6.0	15.0	18.0
無回答	8	50.0	-	12.5	12.5	-	12.5	12.5	25.0	-	-	-	25.0	12.5

(4) 育児に関する相談相手

問37 育児に関して、相談できる相手は誰ですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-95 育児に関する相談相手】



育児に関する相談相手としては「親や兄弟などの親族」(61.8%)が6割強と多く、次いで「かかりつけの医師」(32.7%)、「子どもが通所支援施設に通う友人」(31.0%)、「通所支援施設や療育センターの職員」(29.2%)、「お住まいの地域の友人・知人」(28.6%)となっている。また、「いない」は5.7%となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「親や兄弟などの親族」(71.3%)の割合が高く、重複障がい児では他に比べて「かかりつけの医師」(45.5%)の割合が高い。

年齢別にみると、「子どもが通所支援施設に通う友人」や「通所支援施設や療育センターの職員」、「かかりつけの医師」の割合は概ね年齢が低いほど高い。

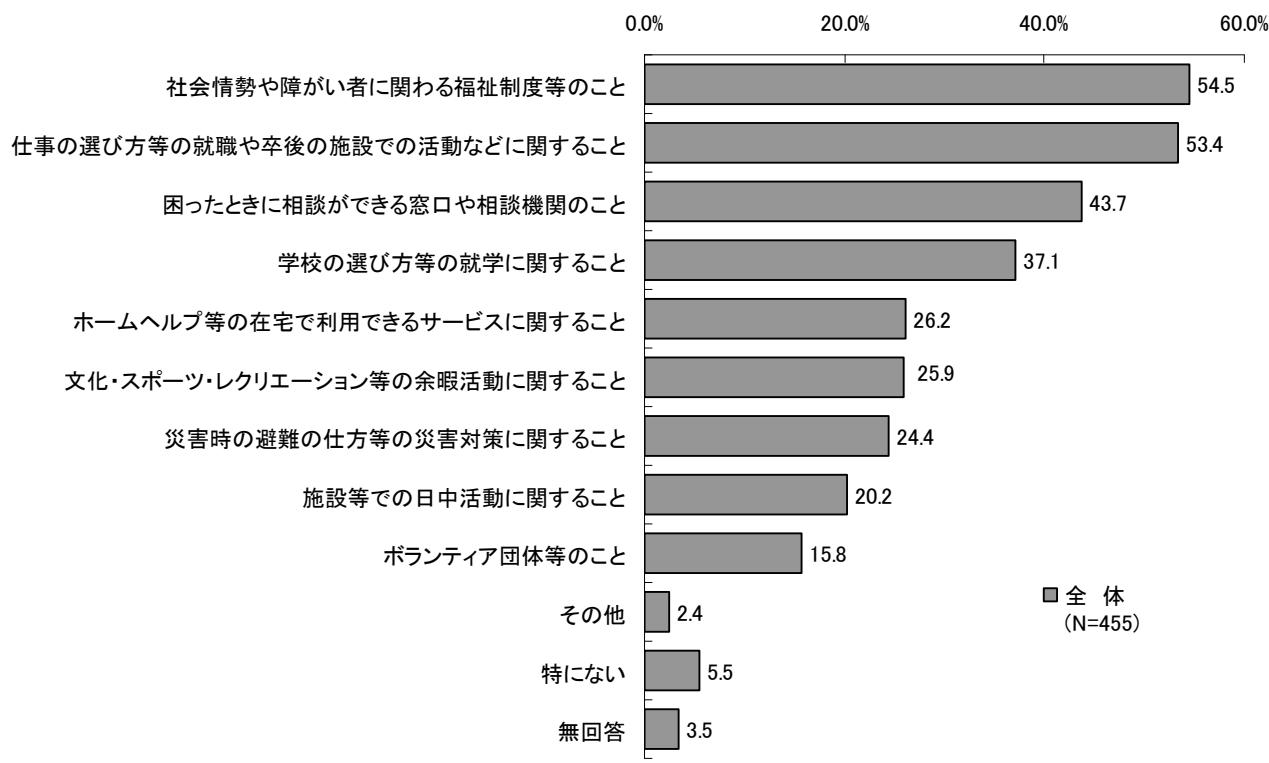
【図表6-96 障がいの状況別、年齢別 育児に関する相談相手】(%)

	調査数 (人)	育児に関する相談相手										
		族親や兄弟などの親	かかりつけの医師	施設にも通がう通友所人支援	子ども支援センターの設施や員療	育通セ所支援施の設や員療	友お人住・まい人の地域の	へ幼稚園の・職保員育所	保健師	員ども育てラサザロ等ン・職子	その他	いな
全 体	455	61.8	32.7	31.0	29.2	28.6	7.0	2.0	0.4	19.8	5.7	1.5
身体障がいのみ	80	71.3	40.0	23.8	27.5	36.3	3.8	1.3	—	12.5	6.3	1.3
知的障がいのみ	285	61.8	26.7	31.6	29.8	28.8	8.4	2.1	0.7	22.1	6.0	1.4
重複障がい	88	52.3	45.5	36.4	29.5	20.5	5.7	2.3	—	19.3	4.5	2.3
無回答	2	100.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—
全 体	455	61.8	32.7	31.0	29.2	28.6	7.0	2.0	0.4	19.8	5.7	1.5
0~2歳	19	63.2	57.9	47.4	63.2	36.8	5.3	15.8	10.5	15.8	—	—
3~5歳	70	71.4	41.4	45.7	67.1	25.7	15.7	2.9	—	7.1	—	—
6~8歳	84	73.8	33.3	48.8	31.0	33.3	13.1	4.8	—	11.9	2.4	—
9~11歳	78	60.3	33.3	15.4	19.2	34.6	3.8	—	—	28.2	3.8	1.3
12~14歳	96	57.3	24.0	24.0	14.6	29.2	5.2	—	—	22.9	11.5	2.1
15~17歳	100	52.0	29.0	22.0	18.0	21.0	1.0	—	—	26.0	9.0	4.0
無回答	8	37.5	37.5	25.0	12.5	12.5	—	—	—	25.0	12.5	—

(5) 知りたい情報

問38 お子さんの生活に関することで、どのような情報が知りたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表6-97 知りたい情報】



「社会情勢や障がい者に関する福祉制度等のこと」(54.5%) と「仕事の選び方等の就職や卒後の施設での活動などに関すること」(53.4%) が半数強と多く、次いで「困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと」(43.7%)、「学校の選び方等の就学に関すること」(37.1%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「学校の選び方等の就学に関するここと」(55.0%) の割合が高く、知的障がい児では「仕事の選び方等の就職や卒後の施設での活動などに関するここと」(62.1%) や「文化・スポーツ・レクリエーション等の余暇活動に関するここと」(31.9%) 等の割合が高い。

年齢別にみると、「学校の選び方等の就学に関するここと」の割合は概ね年齢が低いほど高く、5歳以下では6割を超えており。一方、「仕事の選び方等の就職や卒後の施設での活動などに関するここと」の割合は概ね年齢が高いほど高く、12~14歳では7割を超えている。

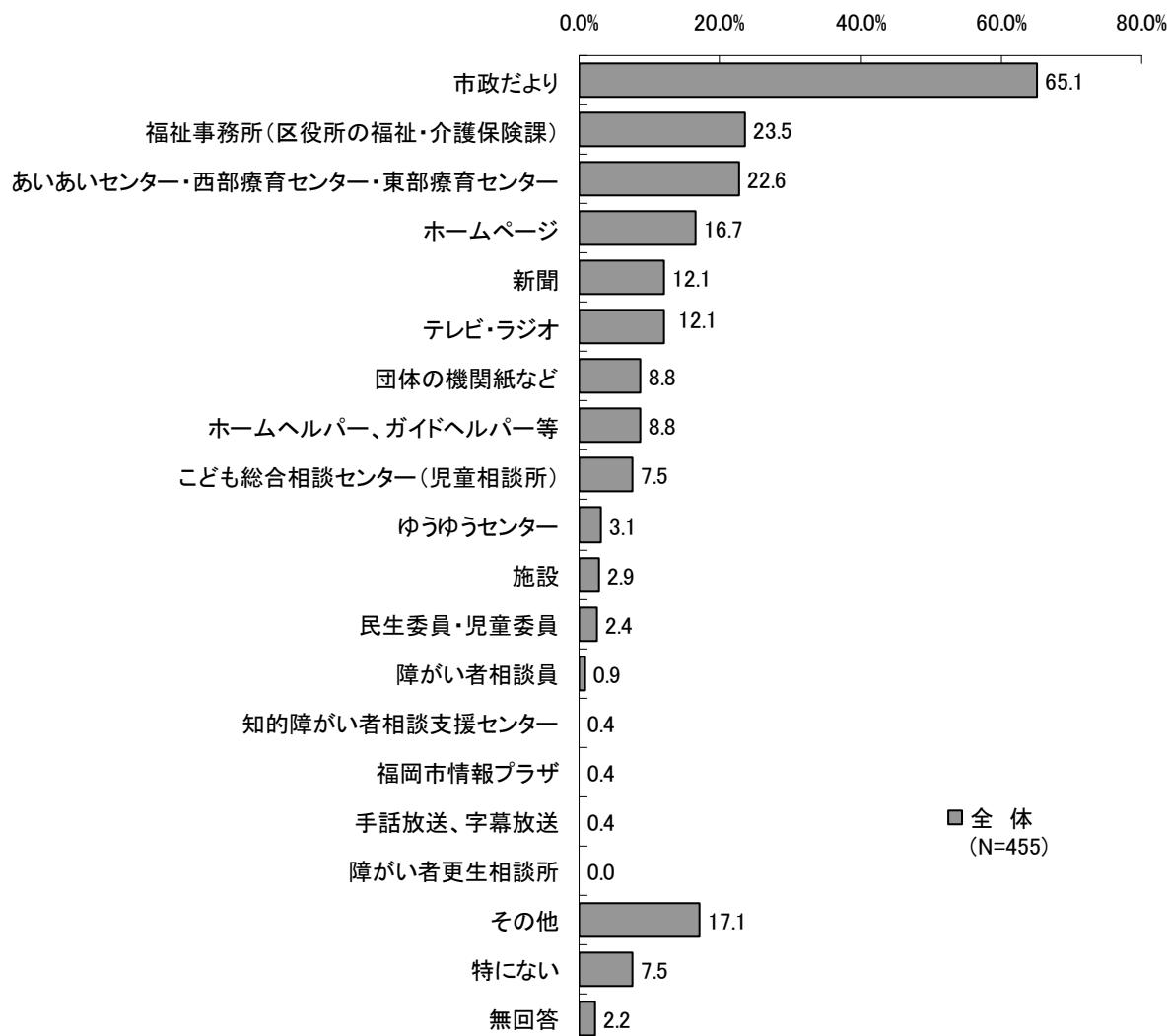
【図表6-98 障がいの状況別、年齢別 知りたい情報】(%)

	調査数 (人)	知りたい情報											特 に な い	無回答
		制度社会情勢等のことで障がい者に関する福祉	仕事での活動などに就職や卒後の施設	困ったときに相談ができる窓口や	相談機関のこと	学校の選び方等の就学に関するこ	ホームヘルプに関する在宅で利用でき	ホーミング等の余暇活動に関すること	文化・スポーツ・レクリエーション等の余暇活動に関するエーカー・ショ	に災害時の避難の仕方等の災害対策	施設等での日中活動に関するこ	ボランティア団体等のこと		
全 体	455	54.5	53.4	43.7	37.1	26.2	25.9	24.4	20.2	15.8	2.4	5.5	3.5	
障状況の無回答	80	57.5	45.0	47.5	55.0	26.3	18.8	27.5	8.8	12.5	2.5	11.3	2.5	
身体障がいのみ	285	55.8	62.1	45.3	37.2	23.9	31.9	24.2	23.2	16.5	2.1	3.2	2.8	
知的障がいのみ	88	48.9	34.1	36.4	21.6	34.1	13.6	22.7	21.6	17.0	3.4	5.7	6.8	
重複障がい	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
全 体	455	54.5	53.4	43.7	37.1	26.2	25.9	24.4	20.2	15.8	2.4	5.5	3.5	
年 齢	0~2歳	19	57.9	10.5	47.4	63.2	21.1	10.5	26.3	15.8	10.5	—	21.1	—
	3~5歳	70	50.0	30.0	40.0	68.6	21.4	11.4	17.1	14.3	12.9	2.9	5.7	4.3
	6~8歳	84	57.1	52.4	45.2	40.5	32.1	29.8	19.0	20.2	11.9	—	4.8	4.8
	9~11歳	78	46.2	46.2	39.7	33.3	29.5	32.1	30.8	16.7	19.2	3.8	3.8	2.6
	12~14歳	96	56.3	72.9	47.9	34.4	22.9	35.4	32.3	24.0	15.6	3.1	4.2	2.1
	15~17歳	100	60.0	66.0	44.0	13.0	27.0	24.0	23.0	23.0	20.0	2.0	6.0	5.0
無回答	8	50.0	50.0	37.5	37.5	12.5	—	—	37.5	12.5	12.5	—	—	—

(6) 福岡市の福祉施策情報の入手先

問39 福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛りとなっているのは、次のどれですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-99 福岡市の福祉施策情報の入手先】



「市政だより」(65.1%) が6割を超えて最も多く、これに「福祉事務所(区役所の福祉・介護保険課)」(23.5%) や「あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」(22.6%) がそれぞれ2割台で続いている。また、「ホームページ」(16.7%)、「新聞」、「テレビ・ラジオ」(それぞれ12.1%) も1割台を占めている。

障がいの状況別にみても各障がいとも「市政だより」が半数を超えて最も多く、大きな違いは見られないが、重複障がい児では他に比べて「福祉事務所(区役所の福祉・介護保険課)」(34.1%) 等の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」の割合は5歳以下で高く、半数以上が各センターから情報を入手している。

【図表6-100 障がいの状況別、年齢別 福岡市の福祉施策情報の入手先】(%)

調査数 (人)	福岡市の福祉施策情報の入手先										
	市政 だより	福祉 ・事務 介護所 保 険区 課 役 所 の	福 祉 部 セ 育 セ ン タ ン セ ン タ ン タ ー 東 ・ 西	あ い 育 あ ン セ ン タ ン セ ン タ ン タ ー 東 ・ 西	ホ ー ム ペ ー ジ	新 聞	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	団 体 の 機 関 紙 な ど	ド ホ ー ム ペ ル バ ー 等	ホ ー ム ペ ル バ ー 、 ガ イ	こ ど も 児 童 相 談 セ ン タ ー
全 体	455	65.1	23.5	22.6	16.7	12.1	12.1	8.8	8.8	7.5	3.1
障 状 が 況 い の	身体障がいのみ	80	61.3	26.3	30.0	21.3	5.0	13.8	3.8	5.0	2.5
	知的障がいのみ	285	68.8	19.6	17.9	16.5	12.6	12.6	10.2	7.0	10.2
	重複障がい	88	56.8	34.1	31.8	12.5	17.0	9.1	9.1	18.2	3.4
	無回答	2	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—	—
全 体	455	65.1	23.5	22.6	16.7	12.1	12.1	8.8	8.8	7.5	3.1
年 齢	0~2歳	19	68.4	21.1	68.4	15.8	5.3	5.3	—	—	5.3
	3~5歳	70	52.9	17.1	57.1	12.9	5.7	2.9	2.9	1.4	2.9
	6~8歳	84	70.2	22.6	25.0	19.0	6.0	15.5	13.1	6.0	9.5
	9~11歳	78	65.4	17.9	15.4	19.2	16.7	15.4	5.1	12.8	3.8
	12~14歳	96	64.6	27.1	10.4	14.6	14.6	14.6	12.5	12.5	7.3
	15~17歳	100	69.0	30.0	7.0	17.0	18.0	13.0	11.0	11.0	13.0
	無回答	8	62.5	25.0	—	25.0	—	—	—	12.5	—

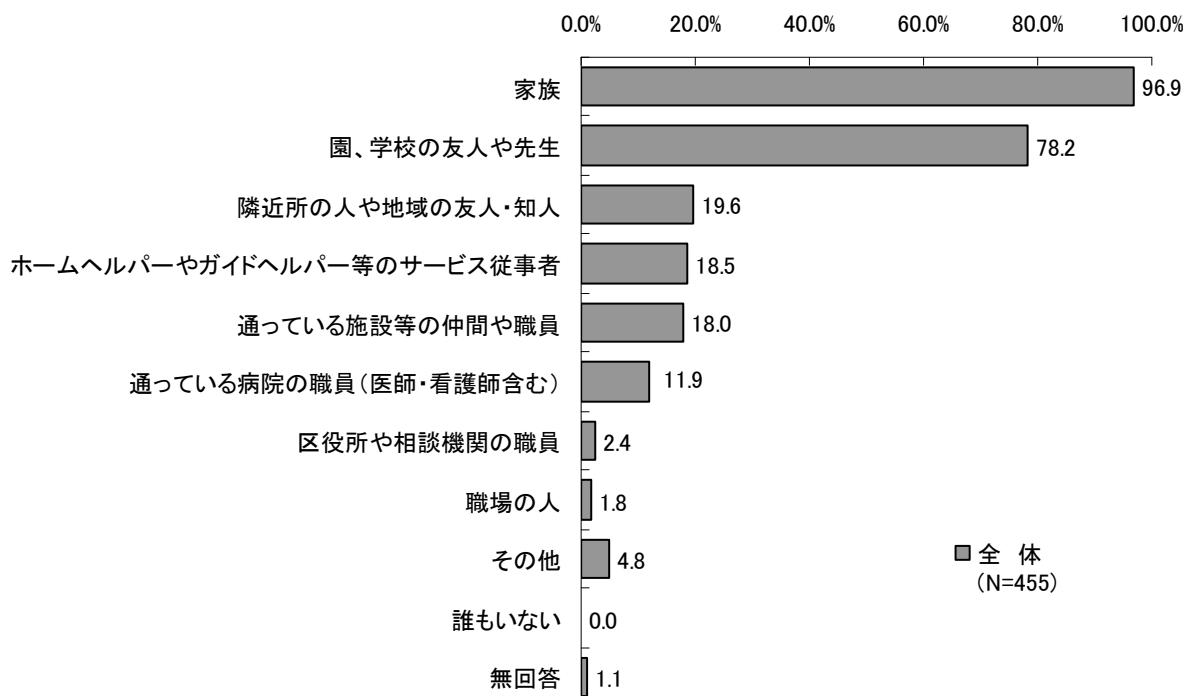
調査数 (人)	福岡市の福祉施策情報の入手先											
	施設	民生委員・児童委員	障がい者相談員	センターバイブル	福岡市情報プラザ	手話放送・字幕放送	障がい者更生相談所	その他	特にない	無回答		
全 体	455	2.9	2.4	0.9	0.4	0.4	0.4	-	17.1	7.5	2.2	
障状況の	身体障がいのみ	80	2.5	1.3	1.3	-	1.3	2.5	-	8.8	7.5	1.3
	知的障がいのみ	285	3.9	2.8	0.7	0.4	0.4	-	-	19.6	8.1	1.4
	重複障がい	88	-	2.3	1.1	1.1	-	-	-	17.0	4.5	5.7
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
全 体	455	2.9	2.4	0.9	0.4	0.4	0.4	-	17.1	7.5	2.2	
年齢	0~2歳	19	-	5.3	5.3	-	-	5.3	-	5.3	5.3	-
	3~5歳	70	5.7	-	-	-	-	-	-	15.7	4.3	-
	6~8歳	84	2.4	-	1.2	-	-	-	-	17.9	8.3	2.4
	9~11歳	78	1.3	3.8	-	-	-	-	-	17.9	6.4	2.6
	12~14歳	96	2.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	17.7	9.4	3.1
	15~17歳	100	4.0	6.0	1.0	1.0	1.0	-	-	17.0	7.0	3.0
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	-	37.5	25.0	-

10. 地域とのかかわり・福祉施策全般について

(1) 一緒に過ごしたり会話をする人

問40 お子さん(家族の方も含む)は、ふだんどのような人と一緒にすごしたり、会話をすることが多いですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-101 一緒に過ごしたり会話をする人】



「家族」(96.9%) が9割を超えて大半を占めており、「園、学校の友人や先生」(78.2%) も8割弱を占めている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では「隣近所の人や地域の友人・知人」(30.0%)、重複障がい児では「ホームヘルパー・ガイドヘルパー等のサービス従事者」(42.0%) の割合がそれぞれ他に比べて高い。

年齢別にみると、「通っている施設等の仲間や職員」や「通っている病院の職員(医師・看護師含む)」等は、概ね年齢が低いほど割合が高く、0~2歳ではそれぞれ半数弱を占めている。一方、「園、学校の友人や先生」等は概ね年齢が高いほど割合が高く、6歳以上では8割を超えていている。

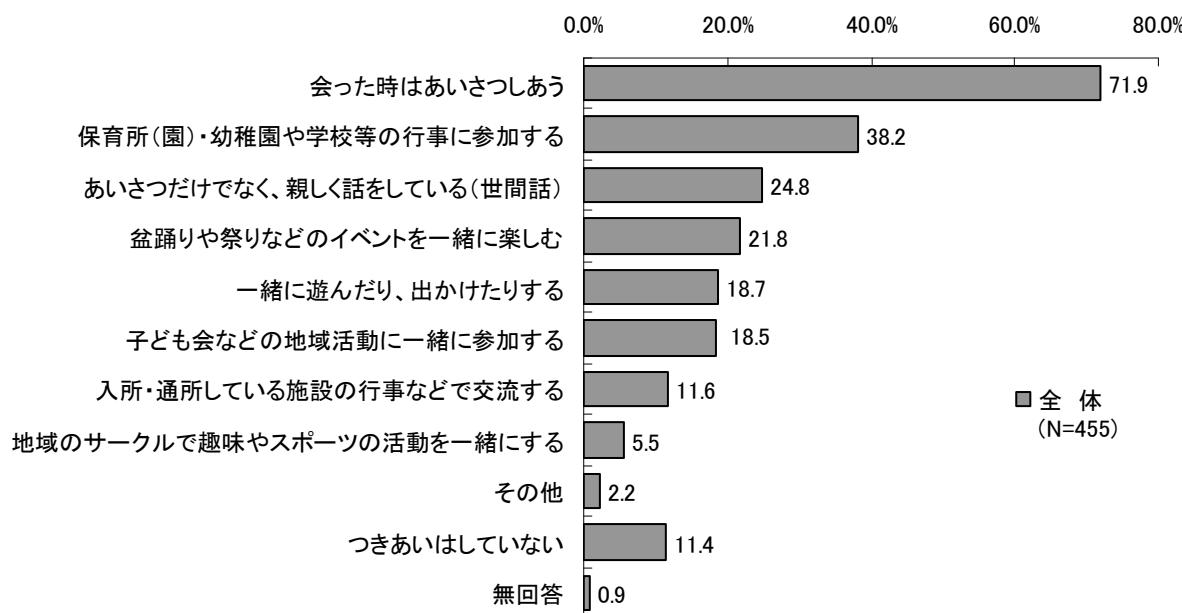
【図表6-102 障がいの状況別、年齢別 一緒に過ごしたり会話をする人】(%)

調査数 (人)	一緒に過ごしたり会話をする人											
	家族	園、学校の友人や先生	人隣近所の人や地域の友人・知	パホームヘルパー等のサービスや従事者	ドヘル	員通つている施設等の仲間や職	師通つて看護師の職員	・看護師の職員	区役所や相談機関の職員	職場の人	その他	誰もいない
全 体	455	96.9	78.2	19.6	18.5	18.0	11.9	2.4	1.8	4.8	-	1.1
障状が	身体障がいのみ	80	97.5	68.8	30.0	15.0	22.5	16.3	3.8	2.5	3.8	-
況いの	知的障がいのみ	285	97.5	82.1	17.9	12.3	16.1	8.1	2.5	1.4	4.6	-
の	重複障がい	88	94.3	73.9	13.6	42.0	20.5	19.3	1.1	2.3	6.8	-
	無回答	2	100.0	100.0	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-
全 体	455	96.9	78.2	19.6	18.5	18.0	11.9	2.4	1.8	4.8	-	1.1
年 齢	0~2歳	19	94.7	15.8	31.6	10.5	47.4	47.4	15.8	-	5.3	-
	3~5歳	70	98.6	50.0	22.9	10.0	44.3	17.1	2.9	1.4	2.9	-
	6~8歳	84	95.2	84.5	25.0	7.1	19.0	14.3	-	2.4	6.0	-
	9~11歳	78	97.4	88.5	14.1	20.5	11.5	11.5	-	2.6	5.1	-
	12~14歳	96	99.0	89.6	19.8	24.0	9.4	7.3	4.2	1.0	3.1	-
	15~17歳	100	95.0	88.0	16.0	28.0	7.0	4.0	2.0	1.0	6.0	-
	無回答	8	100.0	50.0	-	25.0	12.5	12.5	-	12.5	12.5	-

(2) 地域の方とのつきあいの状況

問41 お子さん(家族の方も含む)は、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-103 地域の方とのつきあいの状況】



「会った時はあいさつしあう」(71.9%) が7割強で最も多く、次いで「保育所(園)・幼稚園や学校等の行事に参加する」(38.2%)、「あいさつだけでなく、親しく話をしている(世間話)」(24.8%)、「盆踊りや祭りなどのイベントを一緒に楽しむ」(21.8%) となっている。

障がいの状況別にみると、全般的に、身体障がい児で他に比べて割合が高く、特に「あいさつだけでなく、親しく話をしている(世間話)」(38.8%)と「一緒に遊んだり、出かけたりする」(33.8%)で他を10ポイント超上回って顕著に高い。

年齢別にみると、「入所・通所している施設の行事などで交流する」の割合は概ね年齢が低いほど高く、3~5歳で3割を超えており、また、6~8歳では「会った時はあいさつしあう」(82.1%)の割合が8割を超えて特に高い。

通園・通学先別にみると、小・中学校(通常学級)は他に比べて全般的に割合が高く、特に「一緒に遊んだり、出かけたりする」(56.0%)や「子ども会などの地域活動に一緒に参加する」(52.0%)、「盆踊りや祭りなどのイベントを一緒に楽しむ」(48.0%)等で高い。特別支援学校高等部では他に比べて地域との交流が少ない人の割合が高く、「つきあいはしていない」(21.4%)が2割強となっている。

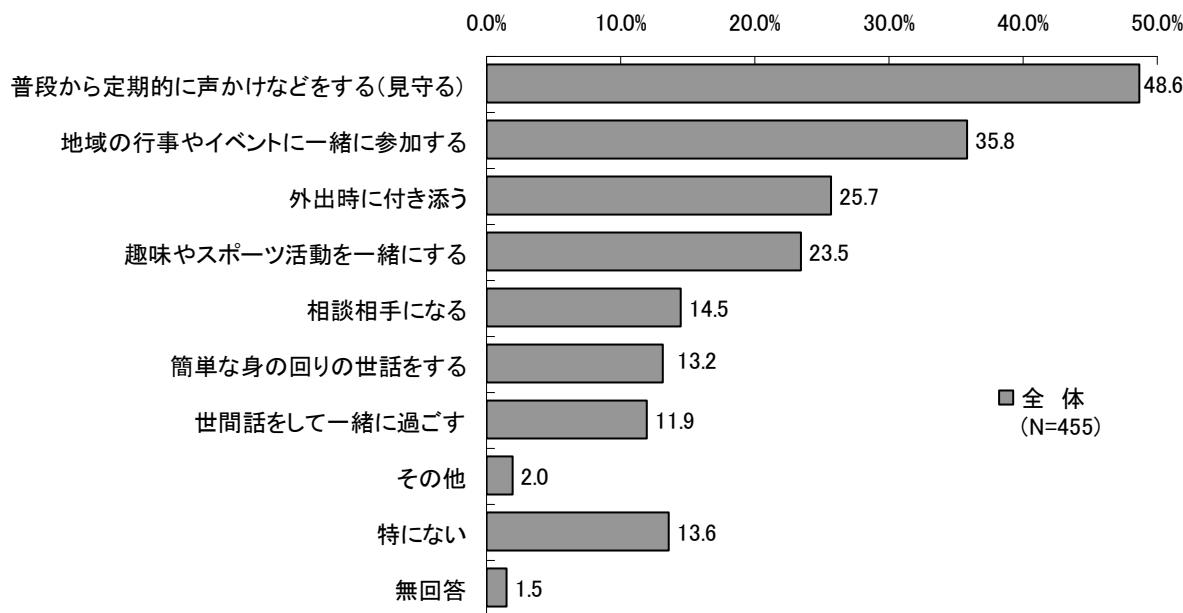
【図表6-104 障がいの状況別、年齢別、通園・通学先別 地域の方とのつきあいの状況】(%)

	調査数 (人)	地域の方とのつきあいの状況											無回答
		会つた時はあいさつしあう	等保の行事(園に参加する)・幼稚園や学校	話をいさつていただけで世間話(親しく)	盆踊りや祭りなど	一緒に遊んだり、出かけたり	一緒に遊んだり、出かけたり	一緒に遊んだり、出かけたり	事入所などで交流している施設の行	ボーダーランチのサークルで一緒に活動をする	その他	つきあいはしていない	
全 体	455	71.9	38.2	24.8	21.8	18.7	18.5	11.6	5.5	2.2	11.4	0.9	
障がいの状況													
身体障がいのみ	80	71.3	48.8	38.8	31.3	33.8	23.8	13.8	11.3	2.5	10.0	-	
知的障がいのみ	285	73.3	39.3	22.1	21.8	17.9	18.9	8.8	5.3	1.8	11.2	1.4	
重複障がい	88	67.0	23.9	19.3	11.4	5.7	10.2	19.3	-	3.4	13.6	-	
無回答	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	50.0	-	-	-	
全 体	455	71.9	38.2	24.8	21.8	18.7	18.5	11.6	5.5	2.2	11.4	0.9	
年齢	0~2歳	19	63.2	15.8	26.3	5.3	5.3	15.8	26.3	5.3	5.3	21.1	-
	3~5歳	70	60.0	38.6	22.9	18.6	22.9	15.7	34.3	2.9	-	12.9	-
	6~8歳	84	82.1	54.8	19.0	31.0	17.9	23.8	14.3	2.4	2.4	4.8	2.4
	9~11歳	78	74.4	43.6	30.8	25.6	24.4	24.4	2.6	9.0	3.8	14.1	-
	12~14歳	96	76.0	39.6	27.1	24.0	18.8	18.8	5.2	7.3	3.1	5.2	1.0
	15~17歳	100	68.0	26.0	25.0	14.0	14.0	11.0	5.0	6.0	1.0	16.0	1.0
	無回答	8	62.5	-	12.5	25.0	25.0	25.0	-	-	-	37.5	-
全 体	455	71.9	38.2	24.8	21.8	18.7	18.5	11.6	5.5	2.2	11.4	0.9	
通園・通学先	幼稚園・保育所	29	65.5	72.4	13.8	20.7	27.6	20.7	10.3	6.9	-	10.3	-
	障がい児通園施設等	25	68.0	24.0	20.0	28.0	20.0	24.0	52.0	-	-	4.0	-
	小・中学校(通常学級)	25	84.0	68.0	56.0	48.0	56.0	52.0	4.0	24.0	-	-	-
	小・中学校(特別支援学級)	122	77.9	55.7	27.0	32.0	22.1	24.6	4.1	5.7	2.5	4.9	2.5
	特別支援学校小・中学部	113	75.2	29.2	17.7	14.2	9.7	12.4	6.2	2.7	4.4	14.2	-
	高校	12	83.3	25.0	50.0	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	-	-	-
	特別支援学校高等部	70	61.4	24.3	22.9	12.9	8.6	10.0	4.3	5.7	1.4	21.4	1.4
その他(訪問教育等)	21	66.7	14.3	23.8	9.5	28.6	-	38.1	-	-	-	19.0	-
通っていない	34	58.8	14.7	29.4	11.8	8.8	14.7	35.3	5.9	2.9	20.6	-	-
無回答	4	75.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-

(3) 地域から受けたい支援・交流の内容

問42 お子さんに関することで、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があつたらいいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-105 地域から受けたい支援・交流の内容】



「普段から定期的に声かけなどをする(見守る)」(48.6%)が半数弱を占めて最も多く、次いで「地域の行事やイベントに一緒に参加する」(35.8%)、「外出時に付き添う」(25.7%)、「趣味やスポーツ活動を一緒にする」(23.5%)となっている。また、「特ない」(13.6%)が1割強となっている。

障がいの状況別にみても、大きな違いは見られない。

年齢別にみると、6~8歳では他に比べて「普段から定期的に声かけなどをする(見守る)」(61.9%)や「地域の行事やイベントに一緒に参加する」(50.0%)等の割合が高い。また、9~11歳では「外出時に付き添う」(42.3%)や「簡単な身の回りの世話をする」(21.8%)の割合が高くなっている。

【図表6-106 障がいの状況別、年齢別 地域から受けたい支援・交流の内容】(%)

調査数 (人)	調査内容	地域から受けたい支援・交流の内容									
		普段から定期的に声かけなどをする(見守る)	地域の行事やイベントに一緒に参加する	外出時に付き添う	趣味やスポーツ活動を一緒にする	相談相手になる	簡単な身の回りの世話をする	世間話をして一緒に過ごす	その他	特ない	無回答
全 体	455	48.6	35.8	25.7	23.5	14.5	13.2	11.9	2.0	13.6	1.5
障がいの状況	身体障がいのみ	80	45.0	38.8	12.5	20.0	16.3	10.0	13.8	1.3	20.0
	知的障がいのみ	285	52.6	36.5	28.8	28.1	17.2	11.6	12.3	1.8	11.9
	重複障がい	88	39.8	31.8	28.4	12.5	4.5	21.6	9.1	3.4	11.4
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
年齢	全 体	455	48.6	35.8	25.7	23.5	14.5	13.2	11.9	2.0	13.6
	0~2歳	19	26.3	21.1	5.3	10.5	31.6	5.3	26.3	-	21.1
	3~5歳	70	48.6	32.9	24.3	20.0	11.4	17.1	17.1	-	17.1
	6~8歳	84	61.9	50.0	16.7	22.6	3.6	7.1	8.3	2.4	3.6
	9~11歳	78	47.4	34.6	42.3	20.5	16.7	21.8	9.0	3.8	14.1
	12~14歳	96	49.0	37.5	21.9	27.1	18.8	12.5	8.3	2.1	14.6
	15~17歳	100	42.0	29.0	27.0	29.0	17.0	10.0	14.0	1.0	18.0
	無回答	8	50.0	25.0	50.0	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	-

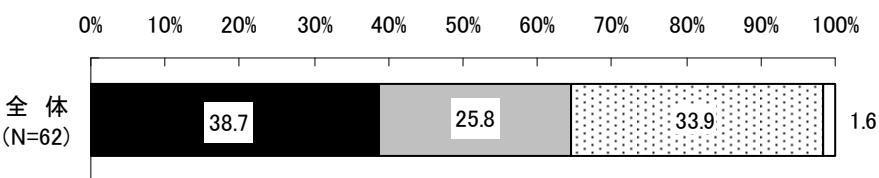
(4) 地域からの支援・交流を望まない理由

[問42で「9」を選ばれた方におたずねします]

問42-1 それはなぜですか。(○は1つだけ)

【図表6-107 地域からの支援・交流を望まない理由】

- 支援・交流の必要性を感じないから
- 支援・交流をどちらかと言えば望まないから
- その他
- 無回答

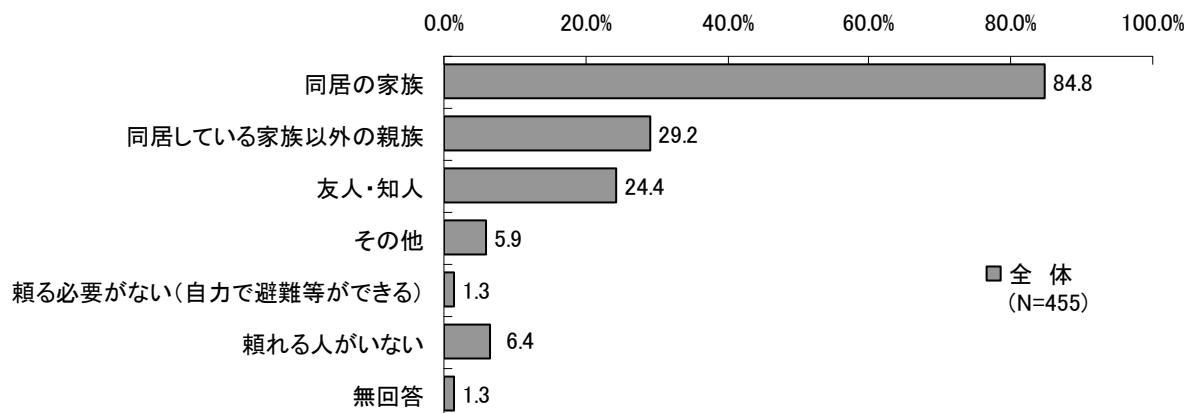


「支援・交流の必要性を感じないから」が38.7%、「支援・交流をどちらかと言えば望まないから」が25.8%となっている。

(5) 災害時に頼れる人

問43 水害や地震などが発生したときに、お子さんの安全の確保などで頼れる人はどなたですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-108 災害時に頼れる人】



「同居の家族」(84.8%)が8割を超えて最も多く、次いで「同居している家族以外の親族」(29.2%)、「友人・知人」(24.4%)となっている。また、「頼れる人がいない」は6.4%である。

障がいの状況別・年齢別にみても、大きな違いは見られない。

世帯の状況別にみると、母子家庭では「頼れる人がいない」(13.8%)の割合が1割を超えていている。

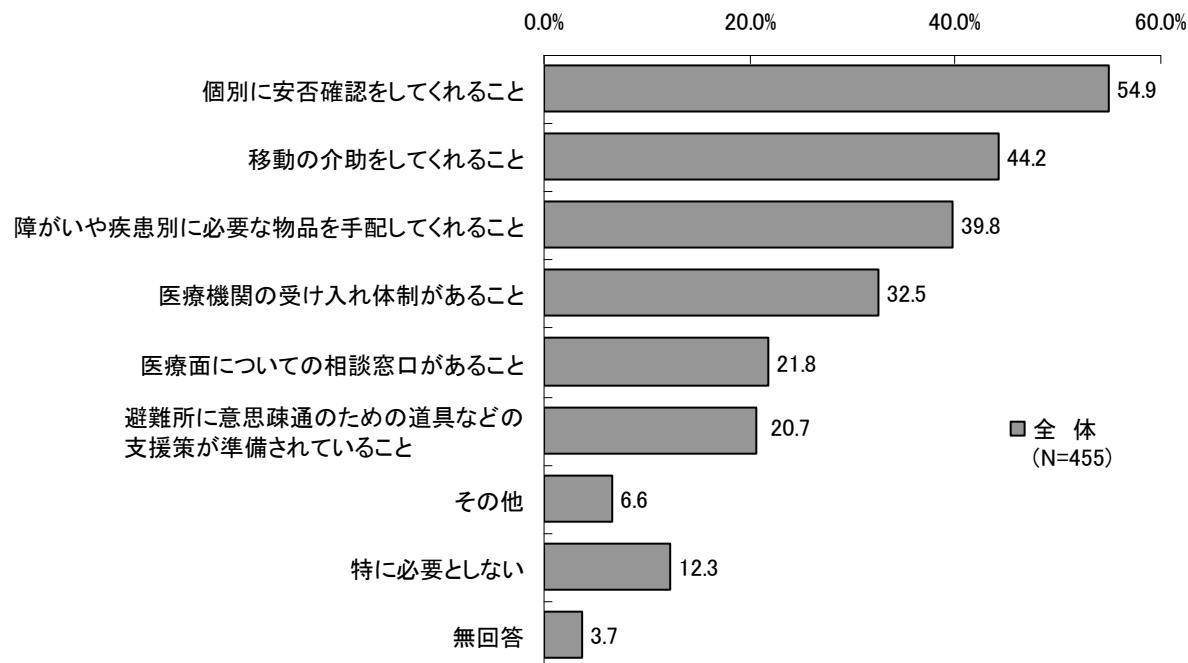
【図表6-109 障がいの状況別、年齢別、世帯状況別 災害時に頼れる人】(%)

	調査数 (人)	災害時に頼れる人						
		同居の家族	族同以外しての親い族る家	友人・知人	その他	がへ頼で自るき力必るで要(避が難な等い	い頼れる人がいな	無回答
全 体	455	84.8	29.2	24.4	5.9	1.3	6.4	1.3
障がいの状況								
身体障がいのみ	80	87.5	32.5	32.5	10.0	1.3	3.8	-
知的障がいのみ	285	87.7	30.2	23.2	4.6	1.1	5.6	2.1
重複障がい	88	73.9	22.7	20.5	6.8	1.1	11.4	-
無回答	2	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-
全 体	455	84.8	29.2	24.4	5.9	1.3	6.4	1.3
年齢								
0~2歳	19	73.7	52.6	15.8	5.3	-	10.5	-
3~5歳	70	87.1	28.6	18.6	4.3	-	4.3	1.4
6~8歳	84	84.5	38.1	27.4	7.1	-	6.0	2.4
9~11歳	78	83.3	21.8	26.9	7.7	1.3	10.3	1.3
12~14歳	96	85.4	27.1	29.2	5.2	1.0	6.3	1.0
15~17歳	100	87.0	26.0	21.0	5.0	4.0	4.0	1.0
無回答	8	75.0	25.0	25.0	12.5	-	12.5	-
全 体	455	84.8	29.2	24.4	5.9	1.3	6.4	1.3
世帯状況								
親と子のみ(母子家庭)	58	60.3	31.0	22.4	8.6	1.7	13.8	1.7
親と子のみ(父子家庭)	6	83.3	50.0	16.7	-	-	-	-
親と子のみ(両親あり)	341	89.1	27.9	24.9	5.6	1.5	5.0	1.2
三世代同居(親と子と祖父母)	36	91.7	36.1	25.0	5.6	-	8.3	-
その他	6	83.3	16.7	16.7	-	-	-	16.7
無回答	8	50.0	37.5	25.0	12.5	-	12.5	-

(6) 災害時に必要な支援

問44 お子さんは、災害時には行政や地域などからどのような支援を必要としますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-110 災害時に必要な支援】



「個別に安否確認をしてくれること」(54.9%)が半数を超えて最も多く、次いで「移動の介助をしてくれること」(44.2%)、「障がいや疾患別に必要な物品を手配してくれること」(39.8%)、「医療機関の受け入れ体制があること」(32.5%)となっている。

障がいの状況別にみると、知的障がい児では「個別に安否確認をしてくれること」(61.4%)、重複障がい児では「移動の介助をしてくれること」(71.6%)や「障がいや疾患別に必要な物品を手配してくれること」(62.5%)、「医療機関の受け入れ体制があること」(59.1%)等の割合がそれぞれ他に比べて高い。

年齢別にみると、0~2歳では他に比べて「障がいや疾患別に必要な物品を手配してくれること」と「医療機関の受け入れ体制があること」(それぞれ63.2%)の割合が高い。

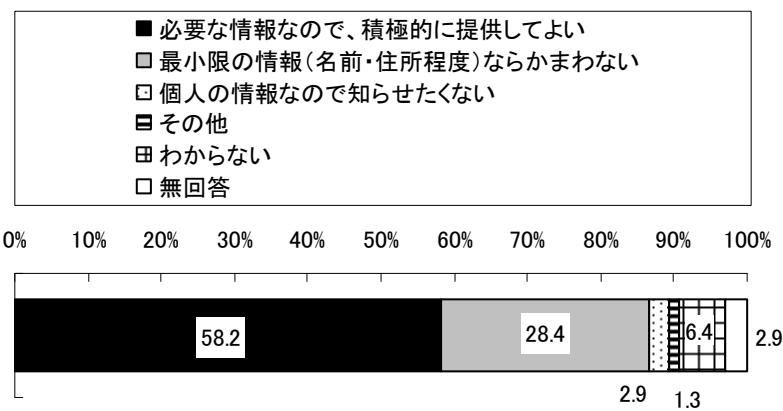
【図表6-111 障がいの状況別、年齢別 災害時に必要な支援】(%)

調査数 (人)	災害時に必要な支援									
	く個別に安否確認をしてくる	移動ことの介助をしてくれ	るな物が品いをや手疾配患してにくれ	障がいをや手疾配患してにくれ	制医がある機関こと受け入れ体	窓医療があることの相談	がめ避難準備道所具に意で思いの疎通の相談	その他の	特に必要としない	無回答
全 体	455	54.9	44.2	39.8	32.5	21.8	20.7	6.6	12.3	3.7
障がいの状況										
身体障がいのみ	80	36.3	32.5	50.0	42.5	25.0	22.5	6.3	16.3	5.0
知的障がいのみ	285	61.4	39.3	30.2	21.8	19.6	20.4	8.4	14.0	3.5
重複障がい	88	52.3	71.6	62.5	59.1	26.1	20.5	1.1	1.1	3.4
の無回答	2	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
全 体	455	54.9	44.2	39.8	32.5	21.8	20.7	6.6	12.3	3.7
年 齢										
0~2歳	19	52.6	42.1	63.2	63.2	26.3	21.1	—	5.3	—
3~5歳	70	52.9	30.0	35.7	28.6	21.4	15.7	4.3	14.3	—
6~8歳	84	52.4	44.0	38.1	23.8	16.7	16.7	6.0	13.1	2.4
9~11歳	78	57.7	50.0	42.3	32.1	19.2	23.1	7.7	11.5	6.4
12~14歳	96	52.1	51.0	36.5	35.4	28.1	21.9	7.3	10.4	5.2
15~17歳	100	61.0	44.0	41.0	32.0	20.0	26.0	8.0	13.0	5.0
無回答	8	37.5	37.5	37.5	62.5	37.5	—	12.5	25.0	—

(7) 災害時支援のための事前の個人情報提供意向

問45 災害時に行政や地域などからの支援を受けるため、あらかじめ、お子さんの個人情報（お名前、住所、世帯の状況、障がいの状況、緊急連絡先等）を福岡市などに提供することについて、どう思いますか。（○は1つだけ）

【図表6-112 災害時支援のための事前の個人情報提供意向】



「必要な情報なので、積極的に提供してよい」（58.2%）が6割弱を占めて最も多く、次いで「最小限の情報（名前・住所程度）ならかまわない」（28.4%）となっており、「個人の情報なので知らせたくない」（2.9%）との回答は1割に満たなかった。

障がいの状況別にみても、大きな違いは見られない。

年齢別にみると、0～2歳では「必要な情報なので、積極的に提供してよい」（73.7%）の割合が7割を超えて高くなっている。

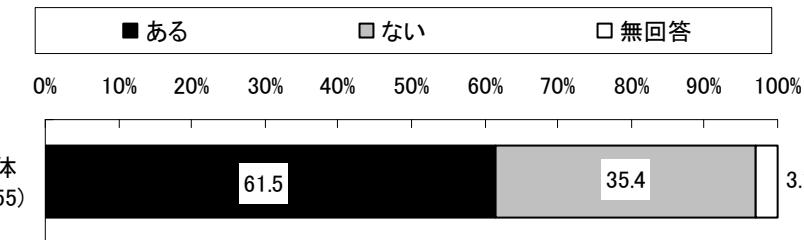
【図表6-113 障がいの状況別、年齢別 災害時支援のための事前の個人情報提供意向】(%)

調査数（人）	災害時支援のための事前の個人情報提供意向					
	い積必要的に情報提供なしのでよ、	か前最も・小わ住限な所のい程情度報～へな名ら	ら個人のく情な報いなので知	その他	わからな	無回答
全 体	455	58.2	28.4	2.9	1.3	6.4
障 身体障がいのみ	80	58.8	20.0	3.8	2.5	11.3
状 が 知的障がいのみ	285	57.2	31.9	2.8	0.7	4.6
況 い 重複障がい	88	62.5	23.9	2.3	1.1	8.0
の 無回答	2	—	50.0	—	50.0	—
全 体	455	58.2	28.4	2.9	1.3	6.4
年 齢	0～2歳	19	73.7	15.8	5.3	—
	3～5歳	70	54.3	31.4	2.9	—
	6～8歳	84	56.0	33.3	2.4	1.2
	9～11歳	78	50.0	32.1	5.1	—
	12～14歳	96	65.6	20.8	2.1	3.1
	15～17歳	100	57.0	30.0	2.0	2.0
	無回答	8	87.5	12.5	—	—

(8) 差別を受けたり、いやな思いをした経験

問46 これまでに障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。
(○は1つだけ)

【図表6-114 差別を受けたり、いやな思いをした経験】



「ある」が61.5%、「ない」が35.4%となっており、差別やいやな思いをした経験がある人が、経験がない人を上回っている。

障がいの状況別にみても、大きな違いは見られない。

年齢別にみると、差別やいやな思いをした経験がある人の割合は8歳以下では6割未満であるが、9歳以上では6割を超えており、特に9~11歳では「ある」(70.5%)が7割を占めている。

通園・通学先別にみると、差別やいやな思いをした経験がある人の割合は特別支援学校で他に比べて高く、小・中学部では70.8%、高等部では71.4%とともに7割を超えていている。

【図表6-115 障がいの状況別、年齢別、通園・通学先別

差別を受けたり、いやな思いをした経験】(%)

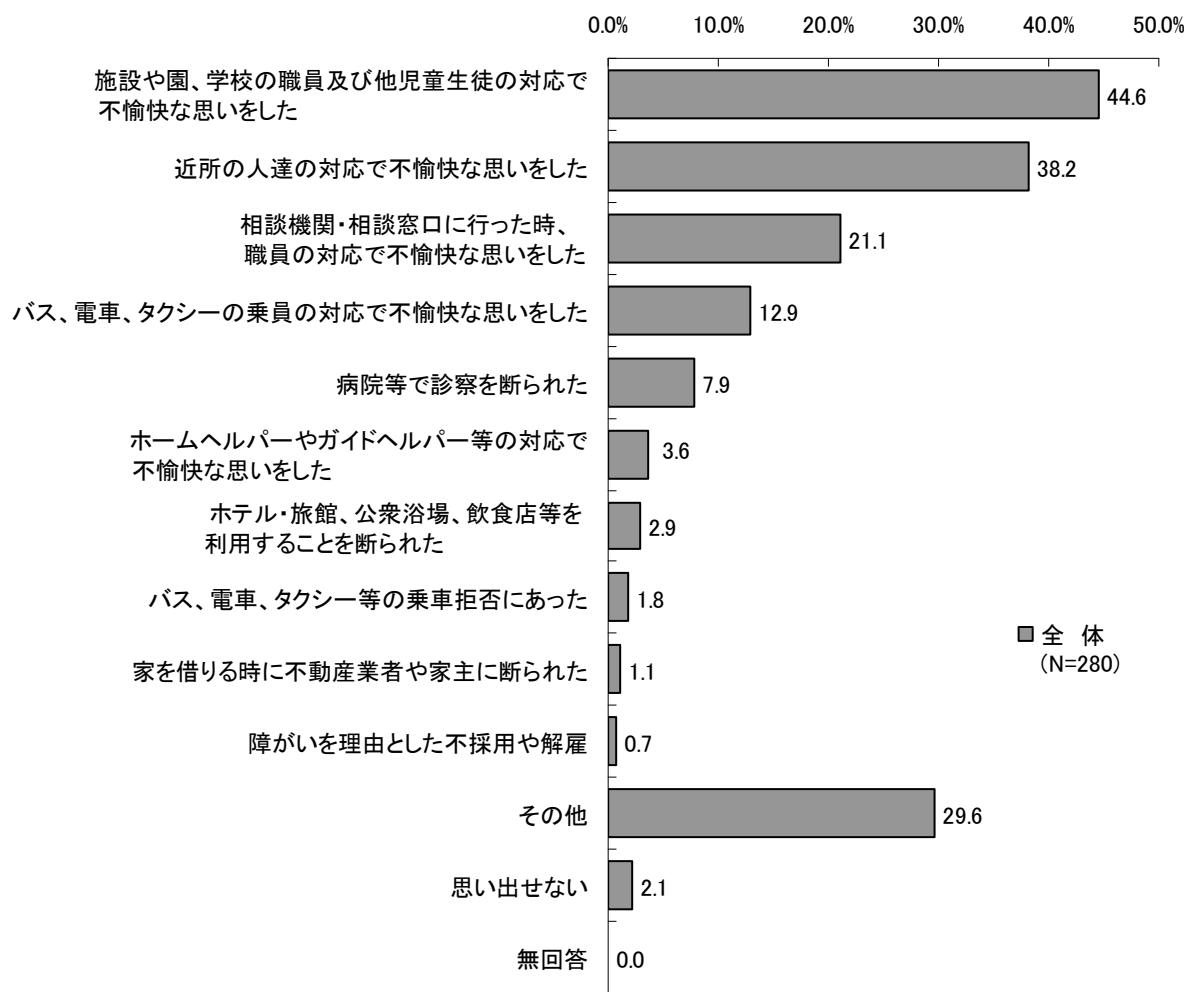
	調査数 (人)	差別を受けたり、いやな思いをした経験		
		ある	ない	無回答
全 体	455	61.5	35.4	3.1
障 身体障がいのみ	80	53.8	41.3	5.0
状 知的障がいのみ	285	64.9	32.6	2.5
況 重複障がい	88	58.0	38.6	3.4
の 無回答	2	50.0	50.0	-
全 体	455	61.5	35.4	3.1
年 齢	0~2歳	19	36.8	63.2
	3~5歳	70	50.0	48.6
	6~8歳	84	57.1	40.5
	9~11歳	78	70.5	25.6
	12~14歳	96	65.6	28.1
	15~17歳	100	67.0	31.0
	無回答	8	62.5	37.5
全 体	455	61.5	35.4	3.1
通園・通学先	幼稚園・保育所	29	41.4	55.2
	障がい児通園施設等	25	52.0	48.0
	小・中学校(通常学級)	25	56.0	36.0
	小・中学校(特別支援学級)	122	59.0	36.9
	特別支援学校小・中学部	113	70.8	25.7
	高校	12	58.3	41.7
	特別支援学校高等部	70	71.4	27.1
	その他(訪問教育等)	21	66.7	28.6
	通っていない	34	44.1	55.9
	無回答	4	75.0	25.0

(9) 差別を受けたり、いやな思いをした内容

[問46で「1」を選ばれた方におたずねします]

問46-1 どのようなことで、いやな思いをしましたか。(○はあてはまるものすべて)

【図表6-116 差別を受けたり、いやな思いをした内容】



障がいのために差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人に、その内容をたずねたところ、「施設や園、学校の職員及び他児童生徒の対応で不愉快な思いをした」(44.6%)が最も多く、次いで「近所の人達の対応で不愉快な思いをした」(38.2%)、「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」(21.1%)と多くなっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児や知的障がい児では、重複障がい児に比べて「施設や園、学校の職員及び他児童生徒の対応で不愉快な思いをした」の割合が過半数と高い。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」の割合が高くなっている。

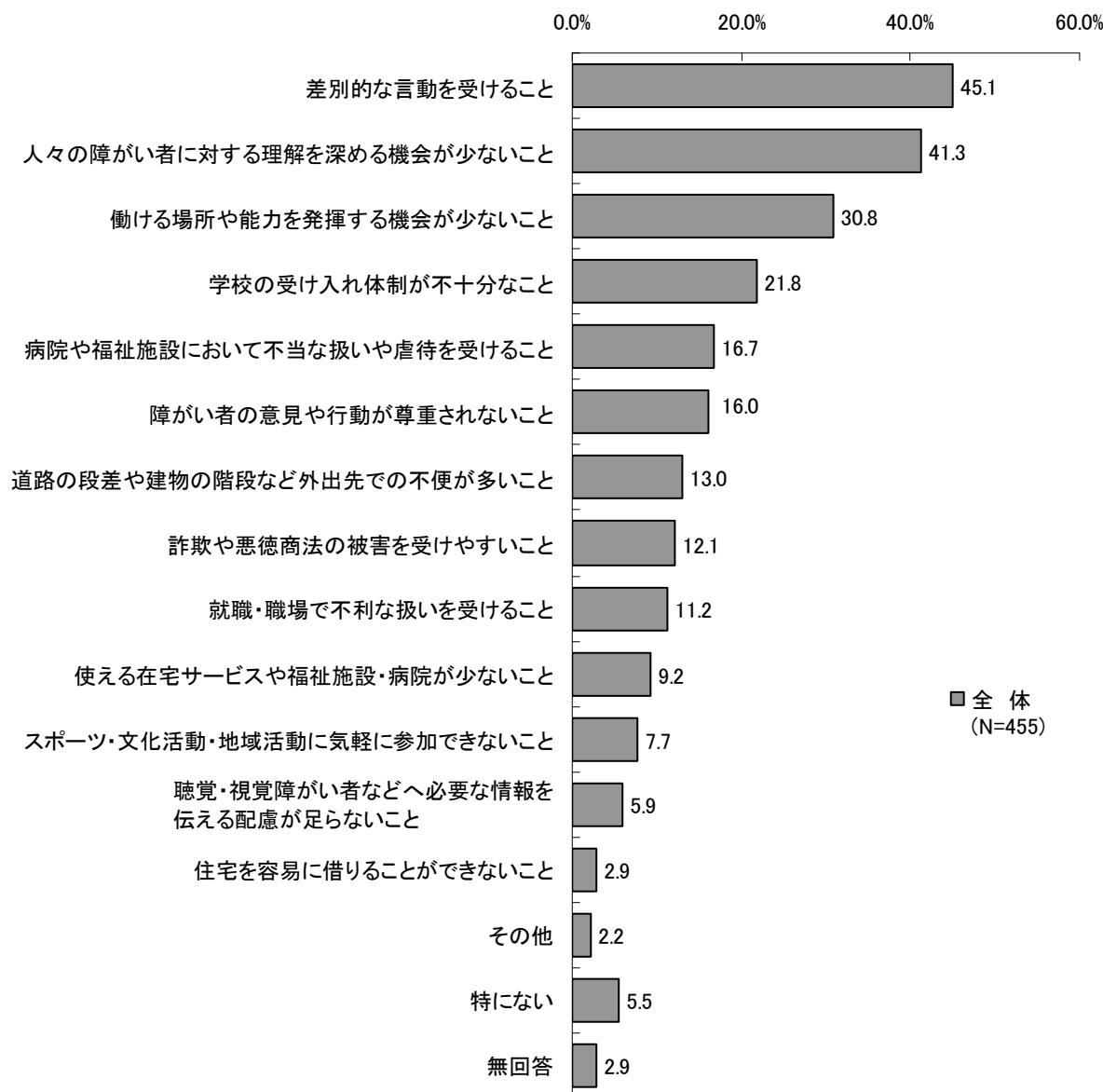
【図表6-117 障がいの状況別、年齢別 差別を受けたり、いやな思いをした内容】(%)

		調査数 (人)	差別を受けたり、いやな思いをした内容													
			徒施設や応園で不学校快のな職員い及び他児童生	近所の人達の対応で不愉快な思いを	相談機関で不相快な思いを行つた時、職	員の対応でバス、電車、タクシーの乗員の対応	でバス、愉快な思いをした	病院等で診察を断られた	のホームヘルパー等	ホテル利用することを断られた	にバス、電車、タクシー等の乗車拒否	断家を借りる時に不動産業者や家主に	障がいを理由とした不採用や解雇	その他	思い出せない	無回答
全 体		280	44.6	38.2	21.1	12.9	7.9	3.6	2.9	1.8	1.1	0.7	29.6	2.1	-	
障 状	身体障がいのみ	43	51.2	32.6	20.9	18.6	4.7	4.7	-	4.7	-	2.3	32.6	2.3	-	
が	知的障がいのみ	185	51.9	42.2	21.6	10.8	9.2	3.2	3.2	1.1	0.5	-	27.6	1.1	-	
い	重複障がい	51	11.8	29.4	19.6	15.7	5.9	3.9	3.9	2.0	3.9	2.0	35.3	5.9	-	
の	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全 体		280	44.6	38.2	21.1	12.9	7.9	3.6	2.9	1.8	1.1	0.7	29.6	2.1	-	
年 齢	0~2歳	7	-	42.9	14.3	14.3	-	-	-	-	-	14.3	28.6	-	-	
	3~5歳	35	28.6	45.7	17.1	20.0	2.9	2.9	2.9	-	-	-	42.9	-	-	
	6~8歳	48	43.8	27.1	18.8	8.3	8.3	2.1	2.1	-	-	-	33.3	2.1	-	
	9~11歳	55	52.7	43.6	23.6	9.1	3.6	7.3	1.8	-	1.8	1.8	16.4	1.8	-	
	12~14歳	63	49.2	44.4	31.7	9.5	12.7	3.2	3.2	4.8	3.2	-	27.0	3.2	-	
	15~17歳	67	46.3	31.3	14.9	16.4	9.0	3.0	4.5	3.0	-	-	32.8	3.0	-	
	無回答	5	60.0	40.0	-	40.0	20.0	-	-	-	-	-	40.0	-	-	

(10) 障がい者の人権に関して問題があると思うこと

問47 障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

【図表6-118 障がい者の人権に関して問題があると思うこと】



「差別的な言動を受けること」(45.1%) が4割を超えて最も多く、次いで「人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」(41.3%)、「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」(30.8%)、「学校の受け入れ体制が不十分なこと」(21.8%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「学校の受け入れ体制が不十分なこと」(33.8%) や「聴覚・視覚障がい者などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと」と「道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと」(それぞれ21.3%) 等の割合が高くなっている。また、知的障がい児では「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」(39.6%)、重複障がい児では「使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと」(18.2%) の割合がそれぞれ高い。

年齢別にみると、「働く場所や能力を発揮する機会が少ないこと」は年齢が高くなるほど割合も高くなり、15～17歳では4割を超えている。

【図表6-119 障がいの状況別、年齢別 障がい者の人権に関して問題があると思うこと】(%)

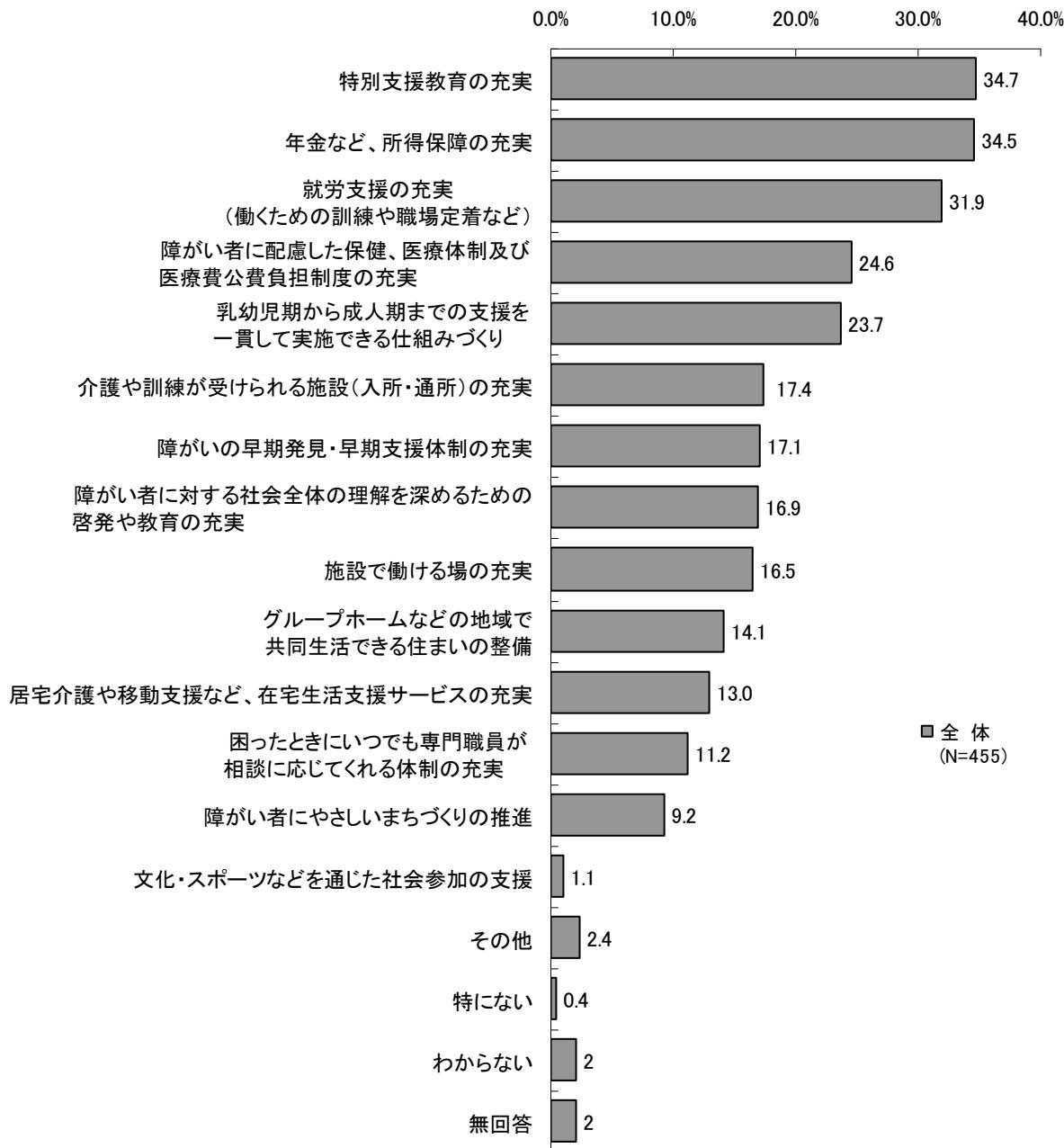
調査数(人)	障がい者的人権に関して問題があると思うこと								
	ことと差別的な言動を受ける	少る人々の理的な解きを深いものに会う	と揮動する機会がや少能な力を発	不学校の受け入れ体制が	受けた病院や福祉施設に待遇をい	が障がい重い者の意見や行動	が段道が多いなど外差や建物の便階	を詐欺や悪徳商法の被害	
全 体	455	45.1	41.3	30.8	21.8	16.7	16.0	13.0	12.1
障 状	身体障がいのみ	80	43.8	31.3	13.8	33.8	11.3	22.5	21.3
が	知的障がいのみ	285	49.5	44.6	39.6	20.7	16.8	15.8	4.9
い	重複障がい	88	33.0	40.9	18.2	14.8	21.6	11.4	31.8
の	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-
全 体	455	45.1	41.3	30.8	21.8	16.7	16.0	13.0	12.1
年 齢	0~2歳	19	47.4	42.1	5.3	26.3	5.3	15.8	31.6
	3~5歳	70	54.3	32.9	15.7	25.7	20.0	15.7	10.0
	6~8歳	84	38.1	52.4	33.3	20.2	17.9	20.2	15.5
	9~11歳	78	46.2	34.6	29.5	16.7	17.9	16.7	12.8
	12~14歳	96	44.8	38.5	33.3	26.0	16.7	11.5	11.5
	15~17歳	100	44.0	46.0	45.0	17.0	15.0	17.0	10.0
	無回答	8	37.5	37.5	-	50.0	12.5	12.5	25.0

調査数(人)	障がい者的人権に関して問題があると思うこと							
	い就職を受ける職場と不利な扱	い福祉施設を施設在宅病院で病院がビンスナや	で地域スキーポーな活動と院に活動参加	るど聴配へ必・が要視足な情報がいをいとえな	と住が宅を容易に借りるこ	その他	特にない	無回答
全 体	455	11.2	9.2	7.7	5.9	2.9	2.2	5.5
障 状	身体障がいのみ	80	8.8	7.5	5.0	21.3	2.5	-
が	知的障がいのみ	285	14.0	7.0	7.7	2.5	2.5	2.8
い	重複障がい	88	4.5	18.2	10.2	3.4	4.5	2.3
の	無回答	2	-	-	-	-	-	100.0
全 体	455	11.2	9.2	7.7	5.9	2.9	2.2	5.5
年 齢	0~2歳	19	5.3	15.8	10.5	5.3	-	5.3
	3~5歳	70	10.0	7.1	4.3	10.0	5.7	1.4
	6~8歳	84	14.3	7.1	8.3	3.6	1.2	2.4
	9~11歳	78	12.8	12.8	11.5	3.8	1.3	3.8
	12~14歳	96	10.4	6.3	9.4	9.4	4.2	2.1
	15~17歳	100	9.0	12.0	5.0	4.0	3.0	1.0
	無回答	8	25.0	-	-	-	-	12.5

(11) 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと

問48 障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、国や県、市に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(○は3つまで)

【図表6-120 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】



「特別支援教育の充実」(34.7%)、「年金など、所得保障の充実」(34.5%)、「就労支援の充実」(31.9%)がそれぞれ3割を超えており、これに「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」(24.6%)、「乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり」(23.7%)が2割台で続く。

障がいの状況別にみると、身体障がい児では他に比べて「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」(36.3%)の割合が高く、知的障がい児では「就労支援の充実」(36.1%)や「施設で働く場の充実」(21.4%)、「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」(17.9%)の割合が高い。また、重複障がい児では他に比べて「居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実」(34.1%)や「介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実」(29.5%)等の介護や支援サービスの充実に関するものの割合が高く、それぞれ3割前後を占めている。

年齢別にみると、「乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり」等は概ね年齢が低いほど割合が高い。一方、「就労支援の充実」や「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」等は概ね年齢が高いほど割合も高くなっている。さらに、3~5歳では「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」(38.6%)と「障がいの早期発見・早期支援体制の充実」(31.4%)の割合がそれぞれ3割を超えて高い。

【図表6-121 障がいの状況別、年齢別

障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】(%)

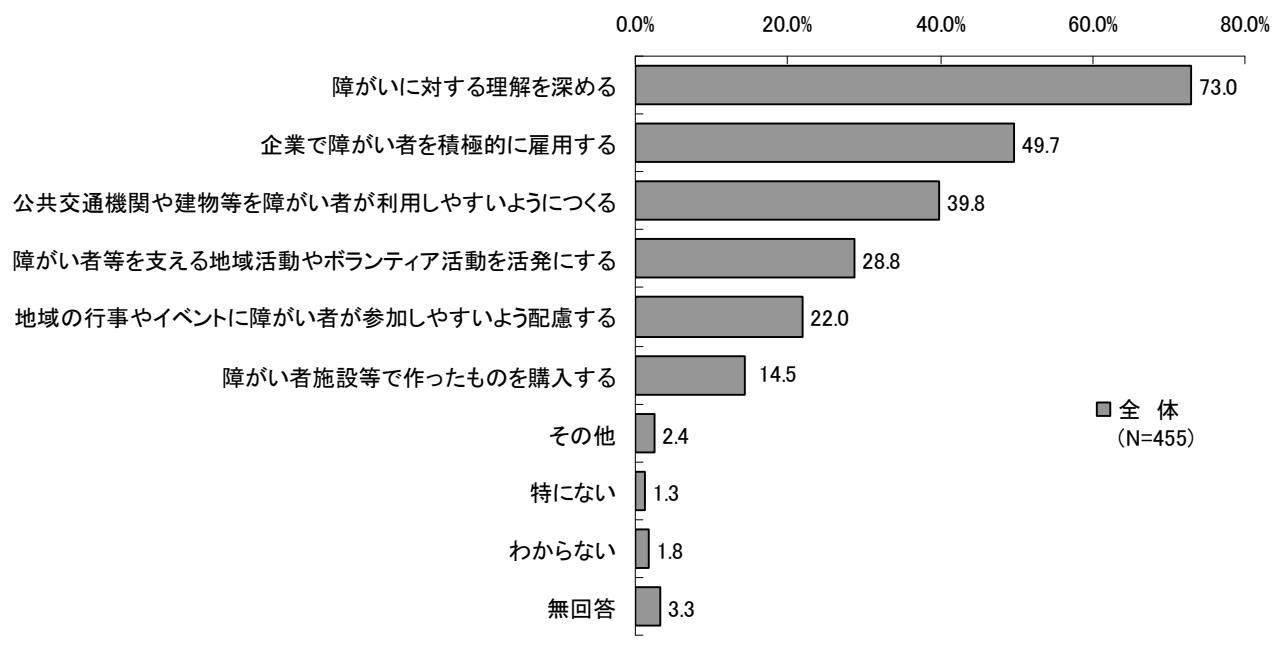
調査数 (人)	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと											
	特別支援教育の充実	充実金など	就労支援の充実	費公費医療者の負担体制に配慮のびし充医した実療保	健障がい者の支援期組みみづし期	施乳育児期から成年期まで	施設で乳児期から成年期まで	の介護施設や訓練所が受けられ	の介護施設や訓練所が受けられ	期障が援いの体制の早期発見充実	期障が援いの体制の早期発見充実	め全障が啓のい発や理解に教を深める充実の社会
全 体	455	34.7	34.5	31.9	24.6	23.7	17.4	17.1	16.9	16.5		
障	身体障がいのみ	80	27.5	35.0	27.5	36.3	25.0	13.8	22.5	13.8	8.8	
状	知的障がいのみ	285	37.5	37.5	36.1	20.7	24.6	14.4	17.9	18.6	21.4	
況	重複障がい	88	33.0	25.0	22.7	26.1	20.5	29.5	9.1	14.8	8.0	
い	の 無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	50.0	-	-	
全 体	455	34.7	34.5	31.9	24.6	23.7	17.4	17.1	16.9	16.5		
年齢	0~2歳	19	36.8	36.8	5.3	15.8	42.1	21.1	15.8	21.1	5.3	
	3~5歳	70	31.4	25.7	15.7	38.6	32.9	15.7	31.4	17.1	8.6	
	6~8歳	84	44.0	28.6	33.3	25.0	32.1	11.9	11.9	31.0	16.7	
	9~11歳	78	38.5	25.6	39.7	23.1	21.8	10.3	14.1	10.3	19.2	
	12~14歳	96	34.4	35.4	37.5	22.9	20.8	22.9	12.5	16.7	16.7	
	15~17歳	100	26.0	50.0	38.0	19.0	12.0	22.0	19.0	10.0	23.0	
	無回答	8	37.5	50.0	-	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	-	

調査数 (人)	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと													
	住地 ま 域 い い の 共 整 同 備 生 活 で な き ど る	地 域 ル ー の 共 整 同 備 生 活 で な き ど る	ビ ス の 在 充 充 実 生 活 移 支 動 援 支 援 サ ー な	居 、 宅 介 宅 護 や 休 制 動 支 援 サ ー な	て く 介 れ 職 務 生 や 休 制 相 の 充 充 実 応 で じ も	専 困 つ た れ 職 務 生 や 休 制 相 の 充 充 実 応 で じ も	困 つ た れ 職 務 生 や 休 制 相 の 充 充 実 応 で じ も	障 が く り の に 推 進 さ い ま	障 が く り の に 推 進 さ い ま	通 文 化 じ た ・ 社 会 参 加 ツ の な ど 援 を	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	455	14.1	13.0	11.2	9.2	1.1	2.4	0.4	2.0	2.0				
障 状 況 い の	身体障がいのみ	80	6.3	8.8	16.3	18.8	5.0	5.0	-	3.8	-			
	知的障がいのみ	285	17.9	7.7	10.2	4.2	0.4	2.1	0.7	0.7	2.1			
	重複障がい	88	9.1	34.1	10.2	17.0	-	1.1	-	3.4	3.4			
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-			
全 体	455	14.1	13.0	11.2	9.2	1.1	2.4	0.4	2.0	2.0				
年 齢	0~2歳	19	5.3	-	21.1	26.3	5.3	5.3	-	5.3	-			
	3~5歳	70	2.9	11.4	12.9	14.3	1.4	-	1.4	2.9	1.4			
	6~8歳	84	9.5	14.3	7.1	7.1	-	2.4	-	2.4	1.2			
	9~11歳	78	14.1	17.9	11.5	10.3	-	5.1	1.3	-	3.8			
	12~14歳	96	19.8	11.5	11.5	7.3	2.1	3.1	-	2.1	2.1			
	15~17歳	100	21.0	14.0	12.0	5.0	1.0	1.0	-	2.0	1.0			
	無回答	8	25.0	-	-	12.5	-	-	-	-	12.5			

(12) 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと

問49 障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、地域社会や企業に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(○は3つまで)

【図表6-122 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと】



「障がいに対する理解を深める」(73.0%) が7割強と最も多く、次いで「企業で障がい者を積極的に雇用する」(49.7%)、「公共交通機関や建物等を障がい者が利用しやすいようにつくる」(39.8%)、「障がい者等を支える地域活動やボランティア活動を活発にする」(28.8%) となっている。

障がいの状況別にみると、身体障がい児や重複障がい児では、知的障がい児に比べて「公共交通機関や建物等を障がい者が利用しやすいようにつくる」の割合が高く、半数を超えており、一方、知的障がい児では他に比べて「企業で障がい者を積極的に雇用する」(55.8%) の割合がやや高い。

年齢別にみても大きな違いはみられない。

【図表6-123 障がいの状況別、年齢別 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと】(%)

調査数 (人)	障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと										
	深障 めが るい に 対 す る 理 解 を	的企 業 に 雇 用 障 す が る い 者 を 積 極	すを い 障 共 動 活 よ が 交 う い 通 機 者 つ が 利 く 用 建 し 物 や 等	活 域 を 動 い 通 活 や 者 機 發 ボ 等 が う い 行 配 者 事 ア 地	障 が い 障 域 が の う い 行 配 者 事 ア 地	すに 地 域 が の う い 行 配 者 事 ア 地	た 障 が い 者 購 入 設 等 で 作 つ	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	455	73.0	49.7	39.8	28.8	22.0	14.5	2.4	1.3	1.8	3.3
障 状 況 の	身体障がいのみ	80	72.5	53.8	50.0	20.0	13.8	12.5	2.5	2.5	2.5
	知的障がいのみ	285	75.4	55.8	30.5	28.8	22.5	16.8	2.8	1.4	3.2
	重複障がい	88	65.9	26.1	60.2	37.5	28.4	9.1	1.1	—	1.1
	無回答	2	50.0	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—
全 体	455	73.0	49.7	39.8	28.8	22.0	14.5	2.4	1.3	1.8	3.3
年 齢	0~2歳	19	89.5	31.6	57.9	26.3	31.6	—	—	5.3	—
	3~5歳	70	71.4	34.3	40.0	27.1	15.7	7.1	—	4.3	1.4
	6~8歳	84	81.0	58.3	27.4	32.1	26.2	19.0	2.4	1.2	2.4
	9~11歳	78	66.7	47.4	30.8	33.3	26.9	9.0	5.1	2.6	1.3
	12~14歳	96	67.7	54.2	44.8	22.9	24.0	16.7	3.1	—	3.1
	15~17歳	100	74.0	55.0	48.0	29.0	15.0	21.0	2.0	—	1.0
	無回答	8	75.0	37.5	50.0	37.5	25.0	12.5	—	—	12.5

